

大嶺村跡

－ 那覇空港消防車庫新築工事に伴う緊急発掘調査報告 －

2012（平成24）年3月

那覇市教育委員会



口絵1 遺跡一帯の空中写真(2010年撮影)(赤線が調査箇所)

(S=1:10,000)



口絵2 調査区遠景(北から)(赤線が調査箇所)



口絵3 調査区近景

- 1 段目：南から（第1工区）
- 2 段目：西から（第2工区）
- 3 段目：東から（第3工区）



口絵 4 完掘状況

1 段目：第 1 工区全景（北から）

2 段目：第 2 工区全景（西から）（東から）

3 段目：第 3 工区全景（西から）（東から）



口絵5 遺構・遺物検出状況

1 段目：耕作痕・植栽痕

2 段目：遺物出土状況（左：第2工区・右：第1工区）

3 段目：遺物出土状況（陶磁器片・染付片・寛永通宝・工具痕より出土の青磁片）



口絵6 調査経過

- 1 段目左：アスファルトの除去作業
- 2 段目左：表土剥ぎ作業の状況
- 3 段目左：土層の精査作業
- 4 段目左：松田先生による調査指導

- 1 段目右：磁気探査作業
- 2 段目右：客土除去作業
- 3 段目右：ビット半裁作業
- 4 段目右：第3工区1群遺構上面の剥ぎ取り

序

本書は、平成 21 (2009) 年度に那覇空港での消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財「大嶺村」の緊急発掘調査の成果を収録したものです。

「琉球国由来記」巻 12 にその名を見ることのできる大嶺村は、西側には格好の漁場、北側から南東側にかけては肥沃な農地が広がる豊かな集落でしたが、旧日本軍による大規模な飛行場建設に始まり、戦後は米軍による施設工事等により大きな土地造成を受けてきました。今回の発掘調査において耕作痕や植栽痕、生活用品類など、大嶺村の痕跡を得る事ができたことは大変喜ばしいことです。

近年では開発行為を行う際には埋蔵文化財の確認とその後の協議が必要であることが周知され、市民の皆様のご理解のもと文化財保護法に則した手続が行われるようになりました。今回も国土交通省大阪航空局の文化財保護に対するご理解・ご協力があったことで発掘調査を行う事ができました。

那覇市には戦後の特殊な事情で今なお立ち入ることのできない集落跡が多数あります。皆様のご理解のもと、今後そういった場所での発掘調査がすすむことで、那覇市の近現代における集落の変遷が一層明らかになる事でしょう。

また、埋蔵文化財発掘調査はどのような目的であれ調査対象の遺跡の現状を損なうものです。発掘調査報告書は現状保存できなかった遺跡の内容を示す唯一の記録刊行物となります。この文化財報告書が市民の皆様はもとより多くの方々にも活用されることを切望いたします。

末尾になりましたが、発掘調査および資料整理にあたり、ご指導・ご助言を賜りました諸先生方、並びに事業の実施にあたりご協力を賜りました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

那覇市教育委員会
教育長 城間 幹子

例 言

- 1 本報告書は、平成 21 年度に実施した「大嶺村跡緊急発掘調査」の成果を収録したものである。発掘調査は平成 21（2009）年 9 月 10 日から平成 22（2010）年 2 月 26 日にかけて実施された。
- 2 本発掘調査は「那覇空港消防車庫新築工事」に伴うもので、国土交通省大阪航空局の委託を受けて那覇市教育委員会が実施した。
- 3 本発掘調査は、那覇市教育委員会の管理・指導のもと、調査現場での発掘・測量・写真撮影等の発掘調査作業に伴う業務を株式会社バスコ沖縄支店に委託し、発掘調査業務の補助を受けた。
- 4 平成 19 年度より開始した那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査に先立ち、字大嶺向上会及び字大嶺自治会の皆様より遺跡名について「字大嶺村」とご教示頂き使用してきた。今回の報告書作成にあたり、文献資料からは「大嶺村」「小禄間切大嶺村」「小禄村字大嶺」としか確認できないことから、報告書名は「大嶺村跡」とすることにした。
- 5 今回の発掘調査において耕作痕および土層堆積状況について自然地理学の見地から松田順一郎氏（史跡鴻池新田会所管理事務所副所長）よりご指導・ご教示いただいた。また報告書作成時にもいろいろとご教示いただいた。合わせて感謝申し上げる。
- 6 口絵 1 および第 6 図の空中写真（2010 年撮影）、第 2 図の那覇市全図と図版 1 の 1945・1947・1977 年に米軍により撮影された空中写真は、国土地理院発行のものを複製して使用した。
- 7 第 4 図は、編集 那覇市企画文化振興課『那覇市史 通史篇 第 1 巻 前近代史』昭和 60 年 8 月の 25 ページを拡大加筆・トレースして作図したものである。
- 8 第 5 図は那覇市文化局歴史史料室作成の『小禄・垣花地区旧跡・歴史的地名地図』を縮小加筆したものである。
- 9 第 6 図は 2010 年撮影の大嶺地区に字大嶺向上会発行『大嶺の今昔』（2008）付属資料の「昭和 16 年当時の字大嶺民俗地図」を重ねたものである。また、巻末の第 43 図は「昭和 16 年当時の字大嶺民俗地図」を拡大したものである。字大嶺向上会の皆様には掲載を許可していただき、感謝申し上げる。
- 10 各発掘工区での土層の色調に関しては、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務所監修）に準拠し表記した。遺物の色調表記に関しても、『新版標準土色帖』を主に使用している。
- 11 本報告書の執筆・編集は北條真子が行った。その際、島弘・富銘由嗣・仲宗根啓の助言・協力があった。記して感謝申し上げる。

- 12 おもに調査報告書の刊行を目的とした資料整理業務は、下記のメンバーで行った。

＜平成 22 年度＞

宮城 みさ子 城間 孝子 高嶺 昌也 富里 歩美

＜平成 23 年度＞

宮城 みさ子 仲井真 美佐枝 平良 明子 平良 美由紀 城間 孝子
高嶺 昌也

- 13 出土遺物の写真撮影及び図版データの編集作業は、平良 明子・高嶺 昌也・富里 歩美が行った。

- 14 出土遺物は、那覇市教育委員会文化財課で保管している。

今回の報告にあたりグリット名を変更したが、遺物の整理については旧グリット名のままである。

目次

口絵

序

例言

目次

挿図・挿表・図版 目次

第 I 章 調査に至る経緯	1
第 II 章 遺跡の位置と環境	4
第 III 章 調査経過と調査組織	10
第 1 節 調査経過	10
第 2 節 調査組織	12
第 IV 章 層序	16
第 V 章 遺構と遺構内出土遺物	29
第 1 節 遺構	29
第 2 節 遺構内出土遺物	30
第 VI 章 遺物	58
1 中国産磁器	58
2 本土産陶磁器	59
3 沖縄産施釉陶器	59
4 沖縄産無釉陶器	60
5 陶質土器	60
6 瓦	60
7 円盤状製品	61
8 その他（土管・銭貨・石製品・釘・レンガ・ガラス製品）	61
9 貝製品	61
10 自然遺物	
獣骨	61
貝類	62
11 土器	62
第 VII 章 まとめ	126
報告書抄録	131

挿 図 目 次

第 1 図	那覇市の位置	・ 2
第 2 図	大嶺村跡および那覇市内の遺跡	・ 3
第 3 図	調査箇所位置図	・ 5
第 4 図	那覇市の古海岸線	・ 6
第 5 図	昭和 10 年代（戦前）の地図	・ 7
第 6 図	大嶺地区と昭和 16 年当時の 字大嶺民俗地区	・ 8
第 7 図	第 1 工区グリット配置図	・ 13
第 8 図	第 2 工区グリット配置図	・ 14
第 9 図	第 3 工区グリット配置図	・ 15
第 10 図	第 1 工区西壁	・ 17
第 11 図	第 2 工区北壁	・ 21
第 12 図	第 3 工区北壁	・ 25
第 13 図	第 1 工区平面図（調査終了時）	・ 34
第 14 図	第 2 工区遺構平面図	・ 35
第 15 図	第 3 工区遺構平面図	・ 37
第 16 図	第 2 工区遺構拡大 1	・ 39
第 17 図	第 2 工区遺構拡大 2	・ 43
第 18 図	第 2 工区遺構拡大 3	・ 47
第 19 図	第 3 工区遺構拡大 1	・ 49
第 20 図	第 3 工区遺構拡大 2	・ 53
第 21 図	遺構内出土遺物	・ 56
第 22 図	第 2 工区集中部出土遺物分布図	・ 91
第 23 図	中国産磁器	・ 95
第 24 図	中国産磁器	・ 96
第 25 図	本土産染付	・ 97
第 26 図	本土産染付	・ 98
第 27 図	本土産磁器	・ 99
第 28 図	本土産磁器	・ 100
第 29 図	本土産磁器・本土産陶器	・ 101
第 30 図	沖縄産施釉陶器	・ 102
第 31 図	沖縄産施釉陶器	・ 104
第 32 図	沖縄産施釉陶器	・ 106
第 33 図	沖縄産無釉陶器	・ 108
第 34 図	沖縄産無釉陶器	・ 110

第 35 図	沖縄産無釉陶器	・ 112
第 36 図	沖縄産無釉陶器	・ 114
第 37 図	陶質土器	・ 116
第 38 図	陶質土器	・ 118
第 39 図	瓦	・ 120
第 40 図	円盤状製品・土管・銭貨	・ 122
第 41 図	硯・文鎮・釘・貝製品	・ 124
第 42 図	つば樹使用例	・ 127
第 43 図	昭和 16 年当時の字大嶺民俗地区	・ 129

挿 表 目 次

第 1 表	ビット観察一覧	・ 31
第 2 表	溝状遺構観察一覧	・ 32
第 3 表	耕作痕観察一覧	・ 33
第 4 表	土坑観察一覧	・ 33
第 5 表	遺構内出土遺物観察一覧	・ 55
第 6 表	第 1 工区出土遺物一覧	・ 63
第 7 表	第 2 工区出土遺物一覧	・ 68
第 8 表	第 3 工区出土遺物一覧	・ 75
第 9 表	中国産磁器観察一覧（青磁）	・ 76
第 10 表	中国産磁器観察一覧（青花）	・ 76
第 11 表	本土産磁器観察一覧	・ 78
第 12 表	本土産陶器観察一覧	・ 80
第 13 表	沖縄産施釉陶器観察一覧	・ 81
第 14 表	沖縄産無釉陶器観察一覧	・ 84
第 15 表	陶質土器観察一覧	・ 86
第 16 表	瓦観察一覧	・ 87
第 17 表	円盤状製品観察一覧	・ 87
第 18 表	銭貨観察一覧	・ 87
第 19 表	石製品観察一覧	・ 88
第 20 表	釘観察一覧	・ 88
第 21 表	貝製品観察一覧	・ 88
第 22 表	獣骨出土一覧	・ 89
第 23 表	貝類出土一覧（二枚貝）	・ 89

第24表	貝類出土一覧(巻貝)	・ ・ ・ ・ 90
第25表	貝類生息地別一覧	・ ・ ・ ・ 90
第26表	第2工区集中部出土遺物一覧	・ 93

図版29	陶質土器	・ ・ ・ ・ ・ 119
図版30	瓦	・ ・ ・ ・ ・ 121
図版31	円盤状製品・土管・銭貨	・ ・ ・ 123
図版32	硯・文鎮・釘・貝製品	・ ・ ・ 125
図版33	銀跡実証実験	・ ・ ・ ・ ・ 126
図版34	使用した銀	・ ・ ・ ・ ・ 126
図版35	カカンジデークニ碑文	・ ・ ・ 126
図版36	側面に接ぎ痕?のある磁器片	・ 128

図 版 目 次

図版1	大嶺崎周辺の移り変わり	・ ・ ・ ・ 9
図版2	第1工区西壁	・ ・ ・ ・ ・ 19
図版3	第2工区北壁	・ ・ ・ ・ ・ 23
図版4	第3工区北壁	・ ・ ・ ・ ・ 27
図版5	第2工区遺構拡大1	・ ・ ・ ・ 41
図版6	第2工区遺構拡大1	・ ・ ・ ・ 42
図版7	第2工区遺構拡大1	・ ・ ・ ・ 45
図版8	第2工区遺構拡大2	・ ・ ・ ・ 46
図版9	第2工区遺構拡大3	・ ・ ・ ・ 47
図版10	第2工区遺物出土状況 (2-24グリット～2-9グリット)	48
図版11	第3工区遺構拡大1	・ ・ ・ ・ 51
図版12	第3工区遺構拡大2	・ ・ ・ ・ 54
図版13	遺構内出土遺物	・ ・ ・ ・ ・ 57
図版14	中国産磁器	・ ・ ・ ・ ・ 95
図版15	中国産磁器	・ ・ ・ ・ ・ 96
図版16	本土産染付	・ ・ ・ ・ ・ 97
図版17	本土産染付	・ ・ ・ ・ ・ 98
図版18	本土産磁器	・ ・ ・ ・ ・ 99
図版19	本土産磁器	・ ・ ・ ・ ・ 100
図版20	本土産磁器・本土産陶器	・ ・ ・ 101
図版21	沖縄産施釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 103
図版22	沖縄産施釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 105
図版23	沖縄産施釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 107
図版24	沖縄産無釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 109
図版25	沖縄産無釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 111
図版26	沖縄産無釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 113
図版27	沖縄産無釉陶器	・ ・ ・ ・ ・ 115
図版28	陶質土器	・ ・ ・ ・ ・ 117

第 I 章 調査に至る経緯

那覇空港西側地区管理区域（那覇空港内大嶺地区）における那覇空港消防車庫新築工事に先立ち、工事予定地に関して平成 19（2007）年 11 月 30 日国土交通省大阪航空局（以下、大阪航空局）より埋蔵文化財の有無について口頭にて問い合わせがあった。その後、平成 20（2008）年 3 月 3 日付で消防庁舎予定地及び給・排水管理設予定地について埋蔵文化財事前審査願が提出され、同日当教育委員会で收受した。これを受けて、平成 20 年 3 月 24 日付け事前審査報告書（埋蔵文化財事前審査番号 19-188）にて「現況では不明」との回答を行った。通常は試掘を行い埋蔵文化財の有無確認を行うが、那覇空港西側地区管理区域では平成 19 年度から 4 年計画で那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査を行うことになっていたため、申請地について翌年度の分布調査対象範囲に含めることとした。

平成 20 年度の那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査にて申請地よりピット及び遺物包含層が確認できたため、分布調査終了後の平成 20 年 9 月 24 日付け埋蔵文化財事前審査報告書（埋蔵文化財事前審査番号 19-188-1）にて消防車庫新築工事計画に伴う給・排水管理設予定地について「遺跡あり」の回答を行った。その後、大阪航空局と那覇市教育委員会文化財課において遺跡の保存処置に係る調整を行った結果、工事計画の変更は困難であることから、記録保存に係る発掘調査が必要であるとの結論に達した。調整の結果、緊急発掘調査は翌年度行われる事に決定したが、那覇市の業務は手一杯で対応する事が難しかったため平成 20 年 9 月 5 日に沖縄県文化課（現文化財課）と調整を行った。しかし、県文化課も翌年度の対応は難しいとのことであったため、再度調整した結果、那覇市で発掘調査を行う事となった。

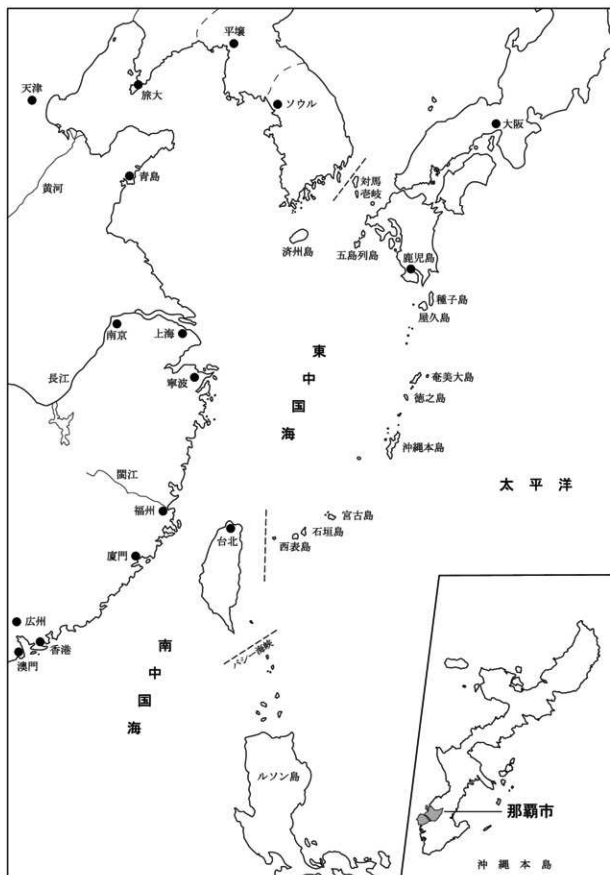
平成 20 年 11 月 27 日「那覇空港における那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務について」（阪空土 221 号）にて発掘調査にかかる期間及び費用の提示が求められた。それを受けて、平成 21（2009）年 2 月 10 日那教生文第 407 号にて回答した。

翌年は文化財保護法の手続きから始め、第 94 条に基づき、平成 21 年 5 月 12 日付「埋蔵文化財発掘の通知」（阪空土第 20-2 号）が大阪航空局長より沖縄県教育委員会教育長あて通知され、同 5 月 22 日付け那教生文第 70 号にて沖縄県教育委員会へ進達した。その回答として沖縄県教育委員会より平成 21 年 5 月 27 日付け「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（教文第 444 号）が届き、当教育委員会で收受し、同年 5 月 29 日付けで大阪航空局へ送付した（那教生文第 79 号）。

文化財保護法の手続きを行う一方、平成 21 年 5 月 11 日付け大阪航空局土木建築課長より「那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託」について随意契約となるため那覇市以外で調査を行う事のできないことの根拠提示の依頼があった。この回答は平成 21 年 5 月 13 日に那覇市教育委員会文化財課課長が行った。平成 21 年 6 月 17 日付けで「那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査地区埋蔵文化財に関する協定書」が締結され、同 8 月 11 日付けで「委託契約書」が締結された。それに伴い字大嶺向上会と字大嶺自治会あて「平成 21 年度「字大嶺村跡」発掘調査開始のお知らせ」を送付した。また、9 月 25 日には大阪航空局あて「那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の作業工程表」（那教生文第 231 号）を送付した。

調査予定地に関する「発掘承諾書」については、平成 21 年 9 月 17 日付け文書にて提出依頼を行い、平成 21 年 9 月 18 日付け那覇空港事務所からの「発掘承諾書」を收受している。また、平成 21 年 9 月 17 日「那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」に伴う仮設物設置用地等使用届出書を那覇空港事務所あて提出し発掘調査に備えた。

なお、今回の発掘調査は発掘・測量・写真撮影等の業務を民間発掘調査支援組織に委託している。それについては平成 21 年 9 月 2 日大阪航空局あて「那覇空港消防車庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務に関する再委託承諾申請書」（那教生文第 205 号）を提出し、同 9 月 3 日に受理された。



第1図 那覇市の位置

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

地理的環境 沖縄県那覇市は沖縄本島南部の西岸に位置し（第1図）、面積38.99平方km、総人口319,589人（2011年8月末現在）を擁する県庁所在都市である。

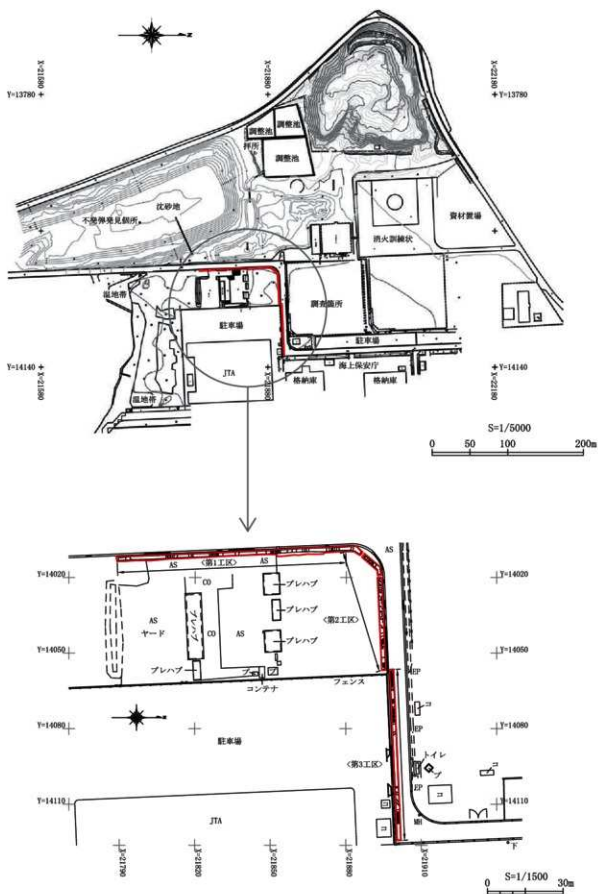
位置 大嶺村は那覇市の最西端である大嶺崎周辺に所在し、集落の西側には格好の漁場となる遠浅の海が広がり、北側、南東側には肥沃な農地が広がる豊かな集落であった。現在では那覇空港の西端部分にあたる。

地質 那覇市は下位から上位へ島尻層群、琉球石灰岩、沖積層の3つの地層群から成り立っている。那覇空港の東縁から国場川までの間には、鮮新・更新統島尻総群の泥岩・砂岩からなり、標高10～40mの起伏をなす丘陵が広がる。その海側に広がる平坦な海岸低地では、現地表下数m以浅に島尻層群の半固結泥岩・砂岩と琉球層群石灰岩が分布し、部分的には、海成段球面あるいは段丘化していない潮間帯の波食面など、12万年前の最終間氷期と、縄文海進期（おそらく7～8000年前）以後に形成された地形面や最終氷期の開析谷が伏在し、海岸とその後背地のおもに砂質堆積物からなる薄い沖積層に覆われていると考えられる。大嶺崎付近では鮮新・更新統が地表下で認められ、縄文時代の海城拡大期には、低平な島状の地形をなしたと思われる。大嶺村跡の遺構をのせる沖積層は、おもに海浜の枝サンゴ片や貝殻片、細粒の砂からなるバックリフ堆積物で、それらを基盤とする遺構検出面あるいは包含層直下では浜堤をなし、縄文海進以後の比較的新しい時期に形成されたようである。

歴史的環境 大嶺に関する最も古い記録は尚敬王年間の正徳三年（1713）の「琉球国由来記」の巻12で、大嶺村として土帝君と年中祭祀と御獄についての記載がある。小禄間切は寛文十二年（1672）に真和志間切の小禄、儀間、金城の三ヶ村と豊見城間切の大嶺、赤嶺、安次嶺、当間、具志、高良、萃宮城、宇栄原の八ヶ村の計十一ヶ村を小禄親方盛聖に賜ったのが始まりであった。小禄間切時代は農地で稲、雑穀（麦・粟等）、野菜等を栽培し、海で食用の魚介類や農作物の肥料となる海草やウニ類等を使って生活をしていた。明治四十年（1907）に島嶼町村制が公布され、小禄間切が小禄村に改称された。小禄間切での各村は字に改められ、大嶺村は字大嶺となった。小禄間切時代から小禄村時代の初期にかけては砂糖製造、野菜栽培、漁業、織物・帽子編み業で換金し、日常の食生活はサツマイモと魚介類でまかなっていた。

大嶺崎周辺は大嶺平野と呼ばれているほどの平坦地であり、西側には埋土として最適な砂丘があったため、昭和6年8月17日測量用地の赤旗が立てられ旧日本海軍による飛行場建設の測量が始まった。これが旧日本軍による農地接収の始まりである。昭和8年には小禄海軍飛行場として建設され、同10年6月1日からは逓信省航空部管理の「那覇飛行場」となり内臺航空路として本土と台湾を結ぶ中継基地として整備拡張された。この時期は軍民共同で使用されていたが、同17年には戦局に合わせて飛行場の拡張工事が行われ、海軍輸送部管理の「海軍小禄飛行場」となった。昭和18年には国家総動員法により字大嶺一帯が接収され小禄海軍飛行場として拡張された。このように字大嶺では合計5回の土地の接収を受け、その面積は22万坪以上となった。

戦後旧日本軍に接収された土地は日本国有地として米国民政府琉球財産管理官事務所の管理するところとなり、米空軍と那覇航空隊の使用する「那覇飛行場」と改称されて大々的に拡張整備された。昭和47年の本土復帰と共に日本政府大蔵省管理となり国有地として登録後、運輸省所管の第二種空港に指定され、名称も「那覇空港」となった。当地については現在においても住民の立入りは制限されている。



第3図 調査箇所位置図



第5図 昭和10年代(戦前)の地図



図版 1 大嶺崎周辺の遷移

(赤が調査箇所)

第Ⅲ章 調査経過と調査組織

第1節 調査経過

那覇空港消防車庫新築工事に伴う給・排水管理設予定地を3工区に分割して幅1.8mのトレンチを設定した後、2.0mごとにグリッド番号を設定し発掘調査を実施することとした。9月11日には調査着手前の現況写真撮影を行い、16日より作業ヤードの確保及び表層の磁気探査を行なった。

今回の発掘調査は発掘・測量・写真撮影等の業務を民間発掘調査支援組織に委託した。「埋蔵文化財調査業務委託仕様書」において祝祭日については発掘調査作業を行わないものとして定めていたが、9月23日、同日は祝日であったが株式会社パスコ沖縄支店により第1工区の小堤設置及び盛土掘削作業が行われ、その際に誤って遺物包含層が幅2.0m、長さ6.1m、厚さ10cmにわたって破損を受けてしまった。上述の行為は埋蔵文化財調査業務委託仕様書5、基本事項(12)「作業日時」、(13)「那覇空港内での規則遵守」等の各条項に抵触するものであったため那覇市教育委員会より作業の中断勧告と厳重注意を行った。その後、10月13日付けで那覇市教育委員会教育長あて上記の経過と再発防止策を盛り込んだ願末書の提出があり受理した。

10月14日、調査再開に先立ち那覇空港事務所及び西側管理区域に所在する事業者を対象に事前の調査説明会を行なった。説明会では調査内容の周知と共に、調査範囲が道路及びJTAビルの出入口部分にかかるため調査時における安全対策について説明した。

同月16日より現地における発掘調査を再開した。作業開始前には1時間ほど新規入場者講習を実施し、安全作業の徹底、西側管理区域での注意点を確認した。調査は重機掘削の後退方向の関係で第2工区から着手し、続いて第1工区、第3工区の順に進めた。第2工区では作業員による包含層掘削を行ない、ピットや畝などの遺構を検出するに至った。また同工区では分布調査にて噴砂の可能性のある痕跡を検出していたため、11月16日松田順一郎氏(史跡 鴻池新田会所管理事務所副所長)より、大嶺村の立地に関する所見などご指導いただいた。その後、第3工区でも240基近い耕作痕及び植栽痕を検出することができた。11月21日に調査区全景撮影を予定通り実施した。撮影はJTA関係者の通行の関係もあり、完全に通行止めにはできるのは日中1時間のみという限定されたものではあったが、無事撮影を終了することができた。最終日である11月27日には第2工区と第3工区の完掘状況の撮影を行い現地における発掘調査は終了した。

以下、工区ごとの調査経過概略を述べる。

(第1工区)

- 9月11日(金) 調査着手前の現況写真撮影
- 9月16日(水) 作業ヤードの確保など調査準備に取り掛かる。
- 9月18日(金) ヤード内にある廃棄物の撤去、調査区盛土の掘削を開始。
- 9月23日(水) 無許可の祝日作業を実施し、那覇市教育委員会より作業の中断告を受ける。
- 10月14日(水) 調査説明会の開催。
- 10月15日(木) 作業再開。重機掘削に先立ち光南建設と協議を行い再度調査区設定を行なう。
その後、アスファルト施設箇所の除去を行う。
- 10月19日(月) 重機による表土掘削。

- 10月22日（木）重機掘削を終了。
- 10月26日（月）人力による包含層掘削。堆積土は第2工区と様相が異なり、遺物は多く包含するものの、非常に硬質化した層や、砂利層が互層を成しプライマリーな遺物包含層ではない感を受けた。そのため、遺構は検出されなかった。翌月11月6日までに掘削を終えた。
- 11月9日（月）測量作業、調査区壁面図化作業などの記録作業を行なう。
- 11月20日（金）ローリングタワーを設置し、完掘撮影を行い同工区の作業を終了した。

（第2工区）

- 10月16日（金）重機掘削を開始した、現況より約1m掘下げたところより一部遺物包含層が露呈したため、慎重に掘削を行った。翌週の19日にて同工区の重機掘削を終えた。
- 10月19日（月）作業員による包含層掘削を開始。沖縄産施釉陶器や古銭など多数の遺物が出土した。
- 10月21日（水）出土した遺物の出土状況撮影を行い、トータルステーションによる測量作業後、取り上げた。
- 10月22日（木）遺物取り上げ後、平面精査を行い2-20グリッドよりビットと思われる、楕円形プランを検出。
- 10月29日（木）溝状遺構を検出。
- 10月30日（金）第2工区の遺構検出撮影を行なう。
- 11月4日（水）遺構平面図作成のためデジタル写真測量を行う。
- 11月11日（水）遺構半裁作業開始、13日終了。その後順次断面撮影、図化を行なった。
- 11月18日（水）記録作業の済んだ遺構の完掘作業を開始し同日終了した。並行して、2-24グリッドの遺構検出作業を行なう。検出した遺構は翌日デジタル写真測量にて図化を行なった。
- 11月26日（木）第2工区完掘撮影を行い同工区の作業を終了した。

（第3工区）

- 11月4日（水）アスファルトカットを行う。
- 11月5日（木）午前中にアスファルト除去を行い、順次表層磁気探査を実施した。その後重機による表土掘削を開始した。またアスファルト除去に伴い道路幅員が減少するため予定どおり一部片側交互通行にし、信号機設置などの安全対策を行なった。
- 11月9日（金）人力による包含層掘削を開始。包含される遺物はさほど多くはなかった。同箇所は昨年度、分布調査により噴砂と思われる痕跡が確認されていたため慎重に作業にあたった。結果、確認されていた噴砂及び耕作痕と思われる遺構を検出した。
- 11月11日（水）重機掘削を終了。
- 11月13日（金）検出していた耕作痕の撮影を行い、デジタル写真測量による図化を行なった。また、同区中央部、西側部でも耕作痕を検出した。調査の効率化を図るため検出した耕作痕群に群名を付した。西側（1群）、中央部（2群）、東側（3群）。
- 11月16日（月）自然地理学をご専門とされる松田氏が来跡され、検出していた噴砂や大瀬村跡周辺の地理的環境についての所見を頂いた。

- 11月20日（金）1群にて遺構上面の剥ぎ取り作業を行なう。
- 11月21日（土）調査区全景撮影を行う。JTA 出入口部分の鉄板など機材類を撤去しての撮影を行った。
- 11月24日（火）遺構掘削を行なう。ピックアップした遺構の半裁及びピックアップ外の遺構の完掘作業を進めた。
- 11月25日（水）ヘリコプターによる空撮。調査地の遠景を南北方向、西方向から撮影する。
- 11月27日（金）午前中に発掘作業を完了し、午後より同工区の完掘撮影。全作業を終了した。

第2節 調査組織

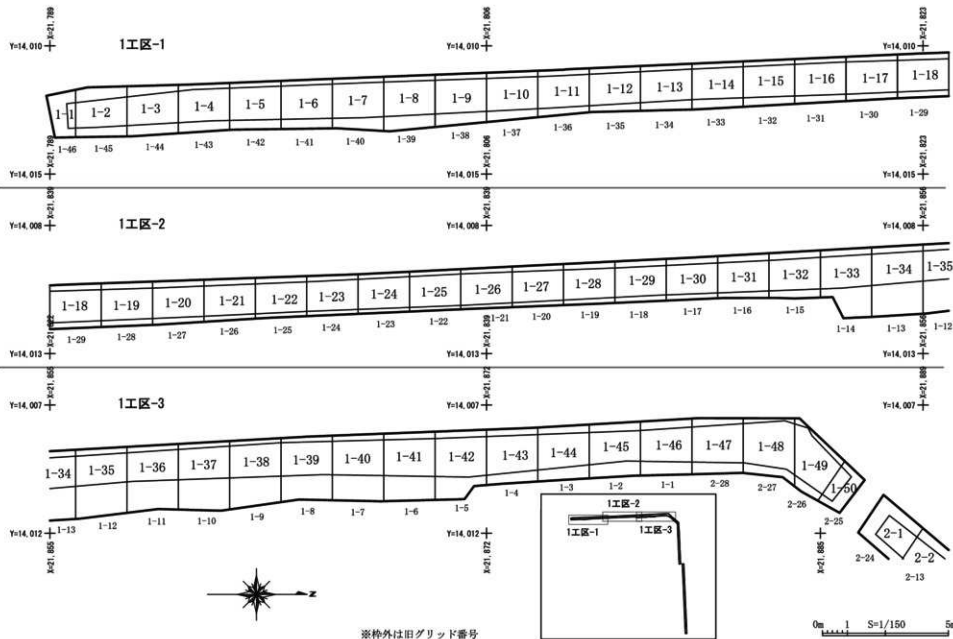
本遺跡の調査組織は、次のとおりである。

事業主体	那覇市教育委員会	教 育 長	桃原 致上（平成18年度～）
〃	〃	〃	城間 幹子（平成22年度～）
調査所管	那覇市教育委員会文化財課	課 長	古塚 達朗（平成15年度～）
調査総括	那覇市教育委員会文化財課	副 参 事	島 弘（平成19年度～）
調査事務	那覇市教育委員会文化財課	副 参 事	島 弘（平成19年度～）
〃	〃	主 幹	内間 靖（平成21年度～）
〃	〃	主 査	會澤 一大（平成23年度～）
〃	〃	主任主事	仲宗根 健（平成21年度～）
調 査 員	〃	副 参 事	島 弘（平成19年度～）
〃	〃	主 幹	内間 靖（平成21年度～）
〃	〃	専門員主査	玉城 安明（平成19年度～）
〃	〃	〃	北條 真子（平成19年度～）
〃	〃	主任専門員	仲宗根 啓（平成19年度～）
〃	〃	〃	樋口 麻子（平成19年度～）
〃	〃	〃	當銘 由嗣（平成19年度～）
〃	〃	専 門 員	知念 政樹（平成18年度～）

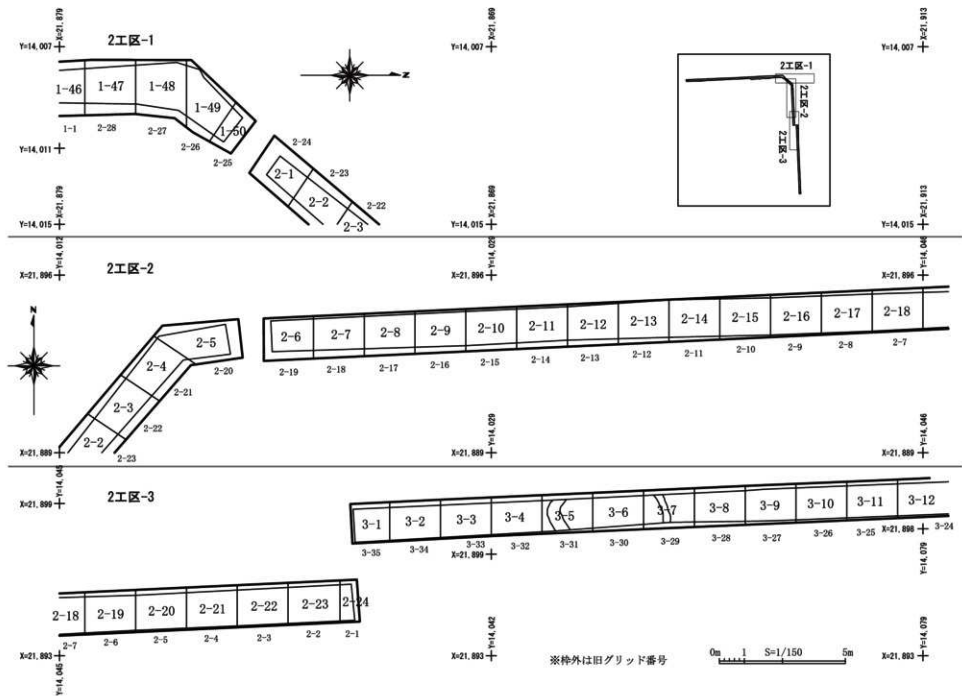
[株式会社パスコ沖縄支店]

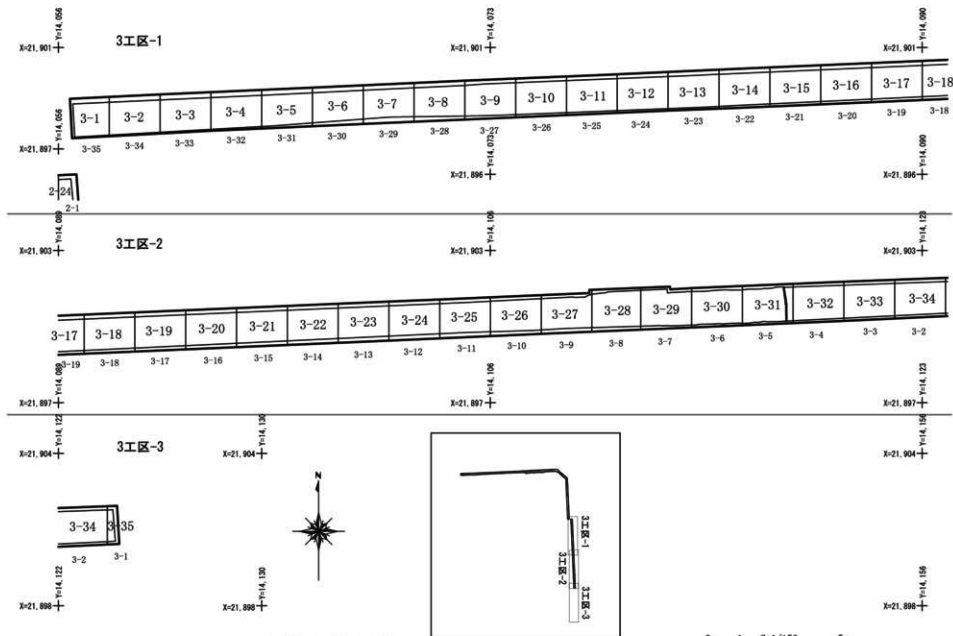
支店長	池内 浩見
受託調査員	翁長 武司
施工管理技師	新垣 清賢
測量士	西銘 大吾
測量助手	喜屋武 祐太
調査補助員	秀嶋 龍男
作業員	宮良 知子 仲西 美那子 松本 真人 斎藤 歩 伊佐 正信 太田 聡 金城 峰男 下地 才人 仲間 千博 西田 誠

第7図 第1工区グリッド配置図



第8図 第2工区グリッド配置図





第Ⅳ章 層 序

第1工区では最深で現況より1.3mの掘削を行なったがプライマリーな遺物包含層は確認できなかった。浅いところでは約0.8mの掘削で、地山である白砂層が露呈したが、部分的に大きく落ち込む箇所が確認された。調査区壁の土層観察ではクラッシャーやニービ等が層厚15cm前後で互層を成すように堆積する箇所も散見された。またこれらの層は固くしまっており、少なからず転圧を受けた感を受けた。しかし帯状に遺物包含層が確認でき赤瓦や近現代陶磁器などが多数出土した。このことは幾度かの造成、整地によって自然堆積は地山である海砂層のみであったが整地作業によって旧表土が地均しされたことによる結果と考えられる。いずれにしても同工区の自然堆積土の残存状況は良いとは言えないものであった。1977年に撮影された空中写真(図版1)を見ると、調査区は誘導路及び駐機場にあっているため、土層の堆積状況と相違ないと思われる。

第2工区では計三層の遺物包含層を確認した。色調は茶褐色を呈し、砂質で若干のしまりも感じられた。堆積の厚さは15cm～30cm程であった。最上部の包含層は遺物を若干含むが非常に硬質化していたことから、直接もしくは間接的に重機による転圧を受けたと考えられた。それ以下の2層は遺物を豊富に含み遺構も多数検出されたことから良好な保存状態であったと思われる。

第3工区では二層の遺物包含層を確認したが東西で様相が異なった。調査区西側では第2工区とほぼ同質な堆積土で出土遺物も同様であったが、東側では黒色土層中に小根が非常に多く含まれる状況であった。

基本層序

調査区に見られる土層は大きく5枚に大別した。色調や土質等の違いからさらに細分可能な場合もあったので、細分した土層の1つを示す際には、アルファベットの小文字を付加して表記している。

I：現表土

雑草などが植生し、しまりのない層。

II：造成土

ニービやクチャ、クラッシャーなどで構成される。戦後の那覇飛行場から復帰時の那覇空港拡張時に造成された層に当たる。

III：遺物包含層

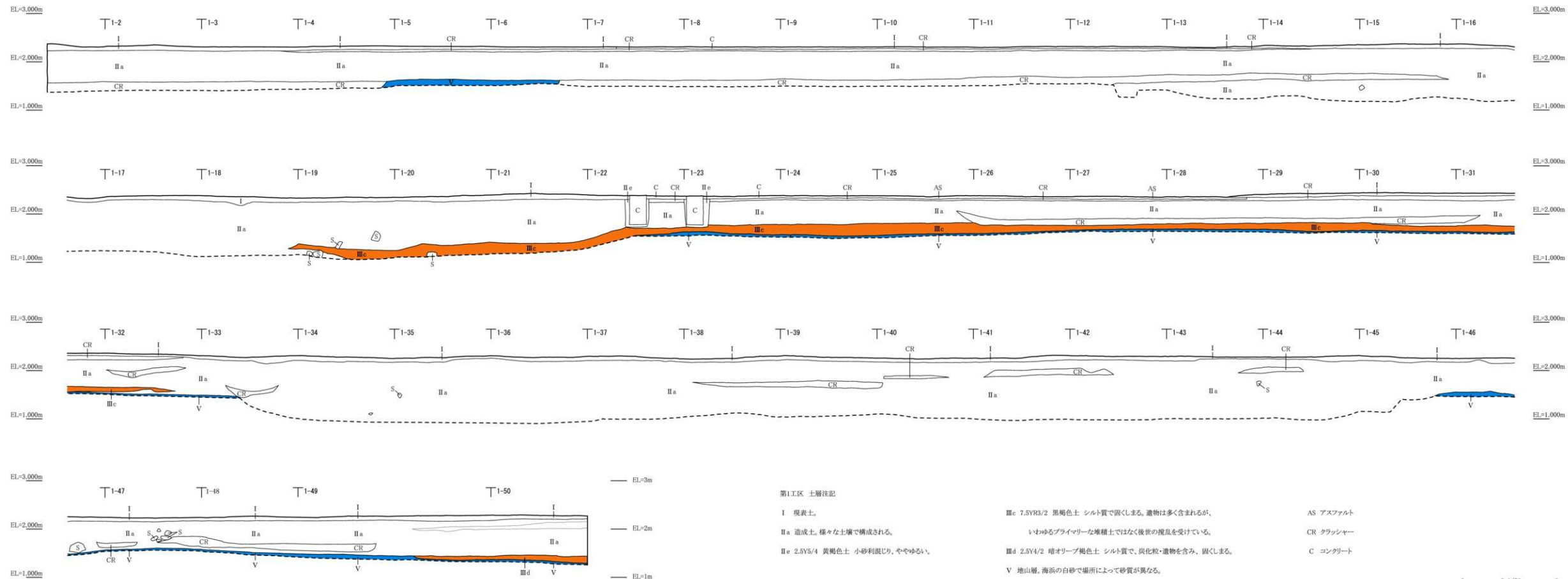
第1、2工区では茶褐色砂質土、3工区では黒色土で確認された。近代所産の陶磁器をはじめ、赤瓦などを包含する。

IV：遺構内埋土

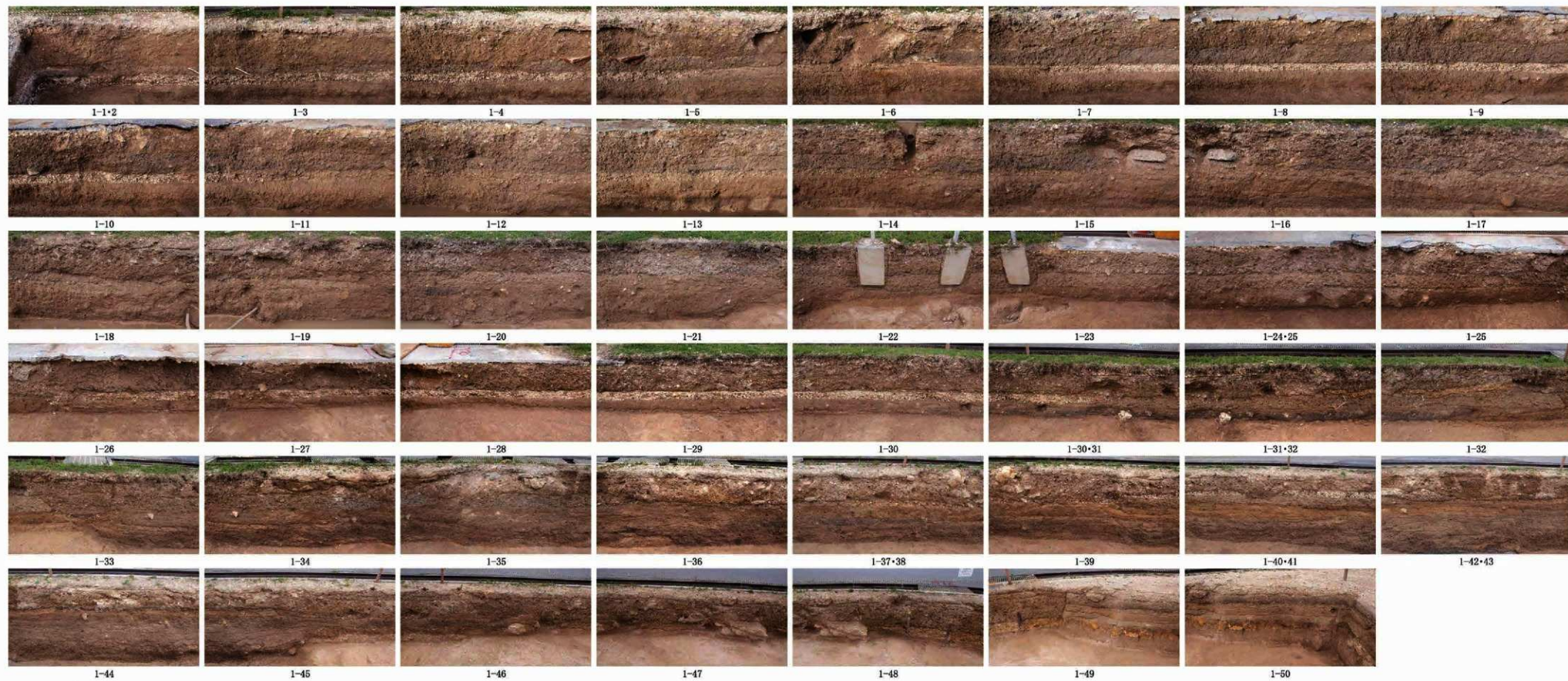
第2、3工区で確認され、第2工区では赤色粒や小炭化物を含む状況であった。一方、第3工区では灰色のシルトが遺構内埋土であった。

V：地山

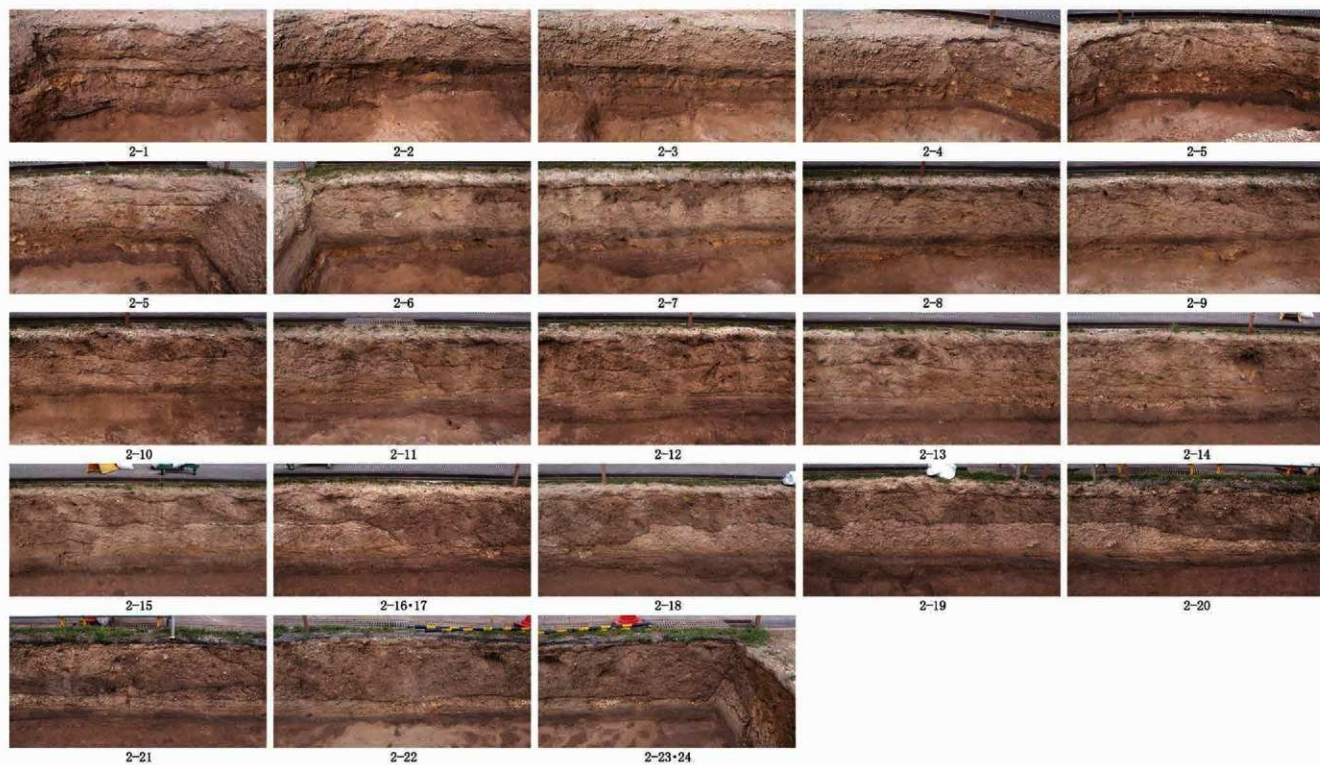
砂層。第1工区ではサンゴ混じりの粗砂が基本であったが、第2、3工区では粒子の細かい細砂であった。



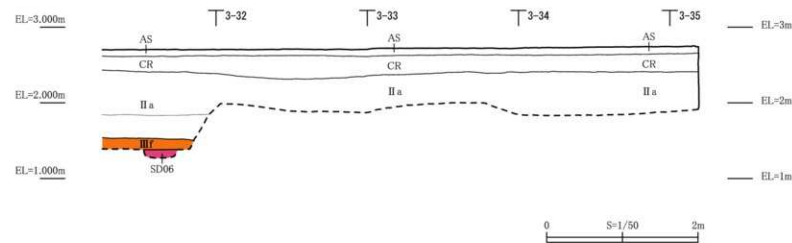
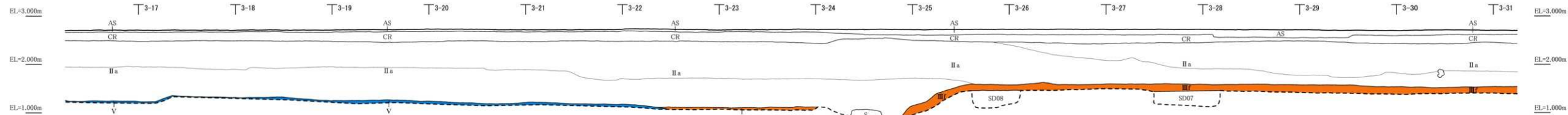
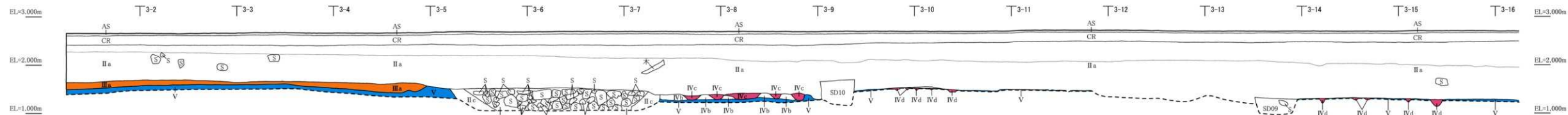
第10図 第1工区 西壁



图版 2 第I工区 西壁



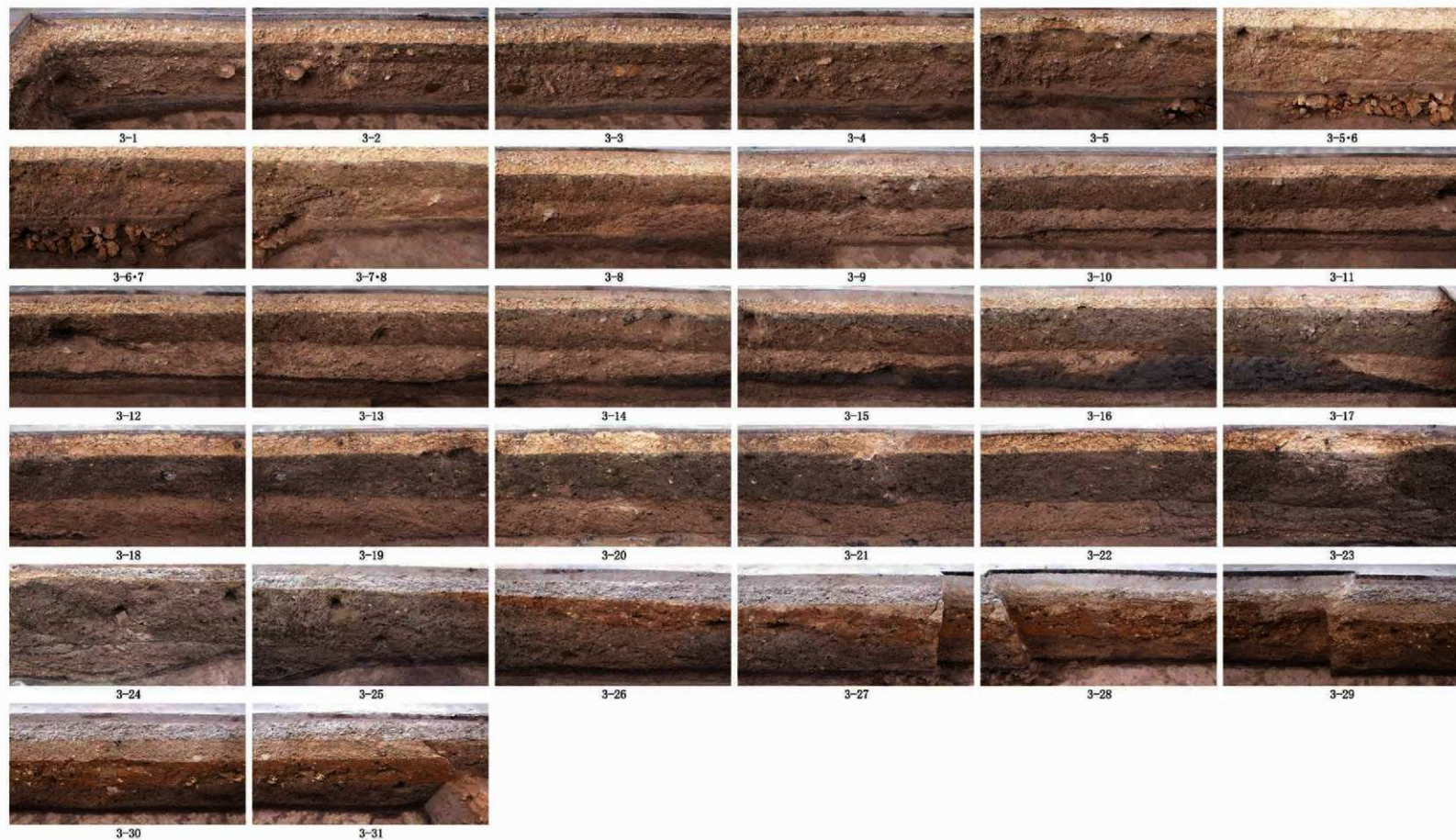
图版 3 第2工区 北壁



第3工区 土層注記

- II a 造成土。様々な土壌で構成される。
- II b ぐり石層。人頭大の石灰岩を敷き詰め、造成土の基礎としている。
- II c 10G7/1 明緑灰色土 粘土層。
- III a 2.5Y4/2 暗灰黄色土 シルト質で炭化粒・遺物が少量混じり、固くしまる。
- III f 5Y2/1 黒色土 腐植土層(田層)。植物遺存体(小根)が多く残り、ゆるい。

- IV b 5Y7/2 灰白色土 シルト土壌。
- IV c 5Y5/2 灰オリーブ色土 溝状遺構埋土。シルト質土壌である。
- IV d 2.5Y6/1 黄灰色土 農具痕埋土。
- V 地山層。海浜の白砂で場所によって砂質が異なる。
- AS アスファルト
- CR クラッシャー



图版4 第3工区 北壁

第 V 章 遺構と遺構内出土遺物

第 1 節 遺構

今回の調査では、第 2・第 3 工区でピット、溝状遺構、耕作痕及び植栽痕、土坑等を確認した。第 1 工区での遺構検出は無かった。耕作痕及び植栽痕は第 2・第 3 工区合わせて合計 270 基を検出することができたが、同一方向に並ぶのは少なく、なんらかの規則性を見出すことは難しかった。これは耕作活動が複数回行われた事によるものと思われる。

以下、工区ごとに各遺構の概略を述べる。

第 2 工区

(ピット) 計 18 基のピット (P01～P18) を検出した。平面形は楕円もしくは不整形を呈し、概して掘り方の浅いものであった。長軸は 10cm～30cm 前後で占められ、深さは 4cm～19cm であった。個々のピットが小規模なことに加え、民俗地図では畑の標記が確認できるため、植栽痕の可能性が高いと思われる。特に P04・06・07・11・13・15 については東西方向に等間隔に近い形で並んでいるため、柱穴もしくは電信柱等の可能性も考えたが、耕作地であったことから畑の周囲を囲む柵のようなものがあつたのかかもしれない。第 1 表に示したとおり、P01・03・04・09・10・18 からは遺物が出土している。獣骨、木炭などと共に沖繩産の陶器がごく小さな細片で出土している。

(溝状遺構) 計 5 条の溝状遺構 (SD01～05) を検出した。SD01、02、03 は隣接して検出された。幅は 20cm～30cm 程で深さは 10cm 未満と非常に浅いものであった。検出後の調査区壁面精査にて溝の落ち込みと連続して堆積の急な立ち上がりが確認されたため、畝の谷間と考えられた。遺物は第 2 表に示したとおり陶磁器片、赤瓦片などが出土した。ピット出土の遺物とは違い陶磁器片と貝のみで、中国産、本土産、沖繩産のものが混ざっているこちらも非常に小さな破片であった。

SD04、05 は前述の溝とは様相が異なるものであった。SD04 の幅は 1.3m、深さは 15cm を測る。遺構内底面が平坦で、掘り方も直掘りに近い。SD05 は幅 1.3m、深さ 16cm であった。SD04、05 の埋土は若干しまり、色調なども類似することや前者が南北方向に後者が東西方向に延びることから接続する可能性も考えられる。検出面は地山面であったが出土遺物は陶磁器の他、ガラス片・金属製品など SD01・02・03 以上に多種にわたり、時代も新しいようであった。

(耕作痕・植栽痕) 2・23・24 グリッドで検出された。平面形は三角形や長方形、半月状を呈す。断面形は「レ」の字状を呈し、深さは概ね 5cm 前後を測る。土を掘り起こす際の鍬尻跡が残るものも見られ、そのために固体ごとのサイズが若干異なるものとなっていた。鍬幅は 14cm～15cm のものと思われる。断面形が「レ」の字状なことや平面形が長方形を呈すことから鍬の刃先は平鍬であると考えられる。一部平面形が三角形なものが含まれるがこれは鍬を土に入れた際の角度及び掘り起こした時の変化によるものだと考えられる。その他円形に近いものは植栽痕と考えた。

(土坑) 1基の土坑を2-1グリッドにて検出した。調査区外に延びるため平面形は判然としないうちにおおよそ、楕円を呈すると考えられる。掘り方は非常に浅く底面は平坦であった。どのような機能を有していたかは不明である。

第3工区

(溝状遺構) 計5条の溝状遺構(SD06～10)を検出した。この内SD9、10は埋設管を確認したため攪乱として扱った。

SD06は幅1.3m深さ7cmで灰色土が埋土で、耕作痕に隣接して検出された。同遺構もSD01などと同様、畝に関連するものかと考えられたが、堆積土の立ち上がりなどは確認されなかった。しかし耕作痕の埋土と同遺構の埋土は同じであるため同一期に機能していたと考えられ、耕作活動に関連する遺構であると考えられた。遺物は出土しなかった。

SD07は幅80cm、深さ50cmを測る。埋土上面の黒色土を除去すると人頭大、拳大の岩礫が敷き詰められた状況であったが性格は不明。出土遺物は第2表に示したとおりで中国産、本土産、沖縄産の陶磁器と赤色系瓦、ガラス製品、石材等であったが、いずれも細片であった。

SD08は幅1m、深さ80cmであった。こちらは遺物の出土等は無く遺構の性格は判然としないうち。

(耕作痕・植栽痕) 第3工区では検出箇所ごとに群名を付して調査を行なった。検出箇所は3-1～4グリッド(1群)、3-7～11グリッド(2群)、3-29～31グリッド(3群)であった。

平面形は第2工区同様、三角形や長方形を呈し、断面形も同じく「レ」の字状を呈す。1群では80基以上の耕作痕・植栽痕を検出した。一部では同一方向に向くものも見られたが、全体的に畝の方向は判然とせず、第2群も同様であった。3群に関しては3-30グリッドで鋤跡が南東方向に向いているものが4個連続で検出されたが、全体として規則性を持っているとはいえない状況であった。その他円形に近いものは植栽痕と考えた。出土遺物については第3表のとおりだが、いずれの工区からもビット出土遺物と同様に沖縄産陶器の細片が出土している。

第2節 遺構内出土遺物

第21図(図版13)。

第2・3工区のビット、溝状遺構、耕作痕より出土した遺物を報告する。それぞれの遺構から出土した遺物は意図的に置かれたものとは考えにくく、廃棄したものが何らかの理由により混入したと考えられる。中国産、本土産、沖縄産の陶磁器が出土しているが、中でも沖縄産の細片が多かった。これらの遺物は遅くとも戦前までに製作されたものである。

第21図1は沖縄産施釉陶器の碗の腰～底部である。内外面ともに白化粧を施し見込には蛇の目釉剥ぎを施す。2は沖縄産施釉陶器の壺の胴部である。緑釉と鉄釉の掛け分けである。素地に削りが入っているので、古典焼かもしれない。3は円盤状製品である。大碗(方言名:ワンブー)の底部を使用したと考えられる。4は土瓶、5は赤色系の平瓦を使用した円盤状製品で、外面から見て丸く見えるよう調整されている(注)。6は本土産近代磁器の小杯の口縁部、7は本土産陶器の碗の口縁部、8は沖縄産無釉陶器の鉢の口縁部、9は沖縄産施釉陶器の小碗の口縁部、10は中国産青花の碗の底部、11は本土産近代磁器の小皿の口～腰部、12は沖縄産無釉陶器の播鉢の胴部、13は本土産近代磁器の碗の口～腰部である。いずれも細片のため詳細は不明。

第1表 ビット観察一覧

工区	グリッド	No.	サイズ(cm)			形状	埋土	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ				
第2工区	2-20	P01	30.0	26.0	19.0	円	1: 7.5Y2/2 赤-ブ 黒色土 2: 7.5Y2/2 灰赤-ブ 色土	沖繩産施釉陶器: 白化粧小碗 (口縁部)・ (胴部)・器種不明 (胴部) 沖繩産無釉陶器: 鉢 (口縁部) 木炭	-
第2工区	2-20	P02	19.0	17.0	12.0	円	5Y6/1 灰色土	-	-
第2工区	2-19	P03	19.0	14.0	4.0	円	1: 7.5Y2/2 赤-ブ 黒色土	沖繩産施釉陶器: 白化粧碗 (胴部)	-
第2工区	2-18	P04	25.0	15.0	15.0	だ円	1: 7.5Y6/1 灰色土 2: 7.5Y2/2 灰赤-ブ 色土	沖繩産施釉陶器: 白化粧碗 (口縁部) 陶質土器: 器種不明 (胴部) 木炭	-
第2工区	2-18	P05	25.0	16.0	10.0	長方形	1: 7.5Y6/1 灰色土	-	-
第2工区	2-17	P06	23.0	21.0	6.0	だ円	7.5Y5/1 灰色土	-	-
第2工区	2-16	P07	28.0	24.0	13.0	だ円	1: 7.5Y6/1 灰色土 2: 7.5Y2/2 灰赤-ブ 色土	-	-
第2工区	2-14	P08	12.0	11.0	8.0	円	5Y6/1 灰色土	赤色系瓦	P09を切る
第2工区	2-14	P09	16	(13.0)	12	円	5Y6/1 灰色土	沖繩産施釉陶器: 掛け分け碗 (胴部) 陶質土器: 鍋 (胴) 円盤状製品: 瓦 (胴部) 赤色系瓦	P08に 切られる
第2工区	2-14	P10	14	10	8	だ円	5Y6/1 灰色土	木炭	P11を切る
第2工区	2-14	P11	26	(13.0)	13	だ円	7.5Y5/2 灰赤-ブ 色土 2: 7.5Y5/3 赤-ブ 黄色土	-	P10に 切られる
第2工区	2-12	P12	13.0	12.0	5.0	円	5Y5/1 灰色土	-	-
第2工区	2-12	P13	17.0	16.0	15.0	円	5Y5/1 灰色土	-	P14を切る
第2工区	2-11	P14	17.0	(12.0)	10.0	円	5Y5/1 灰色土	-	P13に 切られる
第2工区	2-11	P15	15.0	15.0	7.0	円	5Y5/1 灰色土	-	-
第2工区	2-15	P16	15.0	10.0	7.0	だ円	5Y6/1 灰色土 5Y6/2 灰赤-ブ 色土	-	-
第2工区	2-5	P17	13.0	12.0	10.0	円	5Y6/1 灰色土	-	-
第2工区	2-5	P18	13.0	13.0	8.0	円	5Y6/1 灰色土	獣骨: 大型獣・ネコ	-
第3工区(3群)	3-30	P01	14.0	10.0	3.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P02	15.0	12.0	3.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P03	15.0	10.0	3.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P04	14.0	14.0	3.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P05	15.0	12.0	4.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P06	13.0	10.0	6.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(3群)	3-30	P07	16.0	10.0	2.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(2群)	3-10	P01	17.0	10.0	2.5	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(2群)	3-10	P02	18.0	16.0	7.0	方形	5Y5/3 灰赤-ブ 色土	-	鉄跡
第3工区(2群)	3-10	P03	15.0	13.0	10.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(1群)	3-2	P01	19.0	13.0	4.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(1群)	3-2	P02	13.0	10.0	4.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡
第3工区(1群)	3-3	P03	16.0	10.0	4.0	長方形	5Y4/1 灰色土	-	鉄跡

※ () 内数値は他遺構にきられて本来のプランではないもの

第2表 溝状遺構観察一覧

No.	工区	出土位置 (グリッド)	サイズ(m)			出土遺物	時期	概要説明
			長さ	幅	深さ			
SD01	第2工区	2-19	(1.80)	0.2	0.05	本土産磁器：産地不明碗（口縁部）、 沖縄産施軸陶器：白化粧碗（口縁部）・ （底部）・掛け分け急須（胴部）・白 化粧器種不明（胴部）、陶質土器： 鍋（胴部）・器種不明、貝：ハナビ ラダカラ	近代	検出時は溝単体であったが、壁 面精査後、溝を挟んで地積の立 ち上がりで埋設されたため、畝 の谷間であると考えられる。 SD01～03はおおよそ40cm前後の 間隔で検出されたが、他箇所 では検出に至らなかった。
SD02	第2工区	2-18	(1.70)	0.3	0.07	楊軸陶器：器種不明（胴部）、本土 産磁器：瀬戸美濃系小碗（口縁部）、 沖縄産施軸陶器：緑釉器種不明（胴 部）、沖縄産無軸陶器：鉢（口縁部）・ 不明（胴部）、赤色系平瓦	近代	
SD03	第2工区	2-18	(0.40)	0.19		-	近代	
SD04	第2工区	2-7・6	(1.55)	1.3	0.15	本土産磁器：碗（口縁部）・小碗 （口縁部）、沖縄産施軸陶器：灰緑 釉小碗（口縁部）、沖縄産無軸陶 器：壺（胴部）・鉢（胴部）、陶質土 器：鍋（胴部）・急須（耳）、赤色系 平瓦・器種不明、金属製品	近代	埋土に若干しまりがあり、地積 に水性の要素もないため、道の ような機能を有していたと思わ れるが、判然としない。同遺構 は南北に走りSD05が東西方向に 走ることから両者は接続する可 能性もある。また埋土や幅も類 似する。
SD05	第2工区	2-3・2	(1.30)	1.3	0.16	沖縄産施軸陶器：白化粧碗（底部）・ 古典焼壺、沖縄産無軸陶器：器種不 明（胴部）、円盤状製品、赤色系平瓦・ 灰色系平瓦、ガラス製品：瓶、器種 不明破片（胴部）、貝：ベニシリダカ	近代	東西方向に延びる。単層で掘り 方も浅い。
SD06	第3工区	3-31	(1.30)	1.6	0.07	-	近代	耕作痕跡に隣接して検出され た。埋土は耕作痕跡土と同様で あるが機能的に関連性のあるも のかどうかなどは判然としない 状況であった。
SD07	第3工区	3-27	(1.76)	0.8	0.5	中国産磁器：青花碗（底部）、本土 産磁器：瀬戸美濃系皿（口縁部）、 沖縄産無軸陶器：摺鉢（胴部）・壺 （底部）、赤色系平瓦、ガラス製品 （不明）、石材	現代	奉大、人頭大の石灰岩を敷き 詰める。性格不明。
SD08	第3工区	3-25	(1.20)	1	0.8	-	現代	性格不明。
SD09	第3工区	3- 14・13	(1.30)	1	0.3	-	現代	埋設管を確認。
SD10	第3工区	3-9	(1.35)	0.8	0.5	-	現代	径3cmの埋設管を確認。

※ 〇 内数値は他遺構にきられて本来のプランではないもの

第3表 耕作痕・植栽痕観察一覧

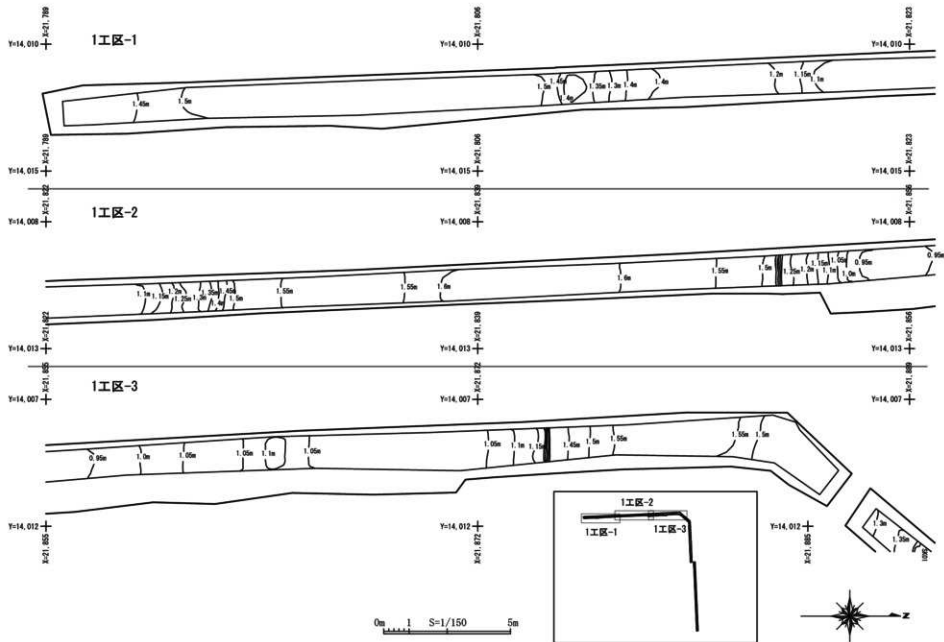
工区	出土位置 (グリッド)	サイズ(cm)			形状	出土遺物	時期	概要説明
		長軸	短軸	深さ				
第2工区	2-24 2-23	15.0	8.0	4.0	三角形 長方形 円形	-	近代	平面形は三角形や長方形を呈す。断面形は「レ」の字状を呈し、深さは概ね5cm前後を測る。溝状遺構(畝)を検出した2-6、7グリッド周辺では検出されなかった。
第3工区 (1群)	3-4 3-3 3-2 3-1	16.0	10.0	4.0	三角形 長方形 半月状 円形	沖縄産施釉陶器：白化粧小碗(口縁部)・鉄軸瓶(胴部)、陶質土器：鍋(胴部)・不明(胴部)、赤色系瓦、土器片	近代	平面形は三角形や長方形、半月状を呈す。断面形は「レ」の字状を呈す。一部非常に掘り方の深いものがある、これは植栽痕かと思われる。
第3工区 (2群)	3-11 3-10 3-9 3-8 3-7	16.0	10.0	2.0	三角形 長方形 円形	沖縄産施釉陶器：白化粧碗(胴部)、沖縄産無釉陶器：器種不明(胴部)、赤色系瓦	近代	平面形は三角形や長方形を呈す。断面形は「レ」の字状を呈す。
第3工区 (3群)	3-31 3-30 3-29	15.0	12.0	3.0	三角形 長方形 円形	沖縄産施釉陶器：掛け分け碗(胴部)・器種不明(口縁部)、沖縄産無釉陶器：摺鉢(胴部)・器種不明(胴部)	近代	平面形は三角形や長方形を呈す。断面形は「レ」の字状を呈し、深さは概ね5cm前後を測る。一部非常に掘り方の深いものがある、これは植栽痕かと思われる。

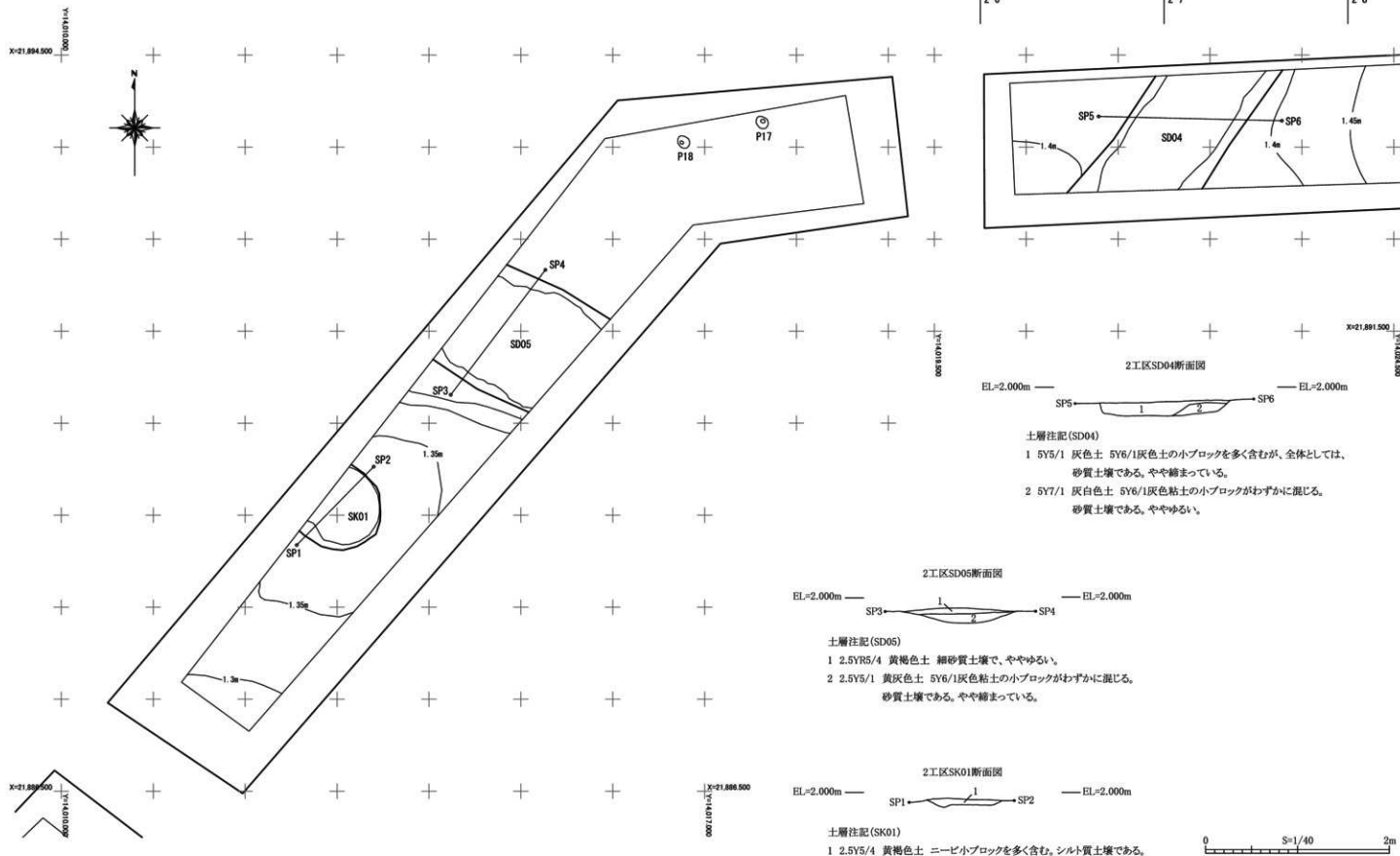
第4表 土坑観察一覧

No.	出土位置 (グリッド)	サイズ(m)			形状	埋土	出土遺物	概要説明
		長軸	短軸	深さ				
SK01	2-1	0.91	0.71	0.1	だ円	2.5Y5/4 黄褐色土	ウスカガミガイ・ チョウセンハマグリ・ ユウカガハマグリ	調査範囲外に一部かかっており全体の平面形は確認できなかったが、円形もしくはだ円形を呈すと思われる。白砂層(地山)を掘り込んでいるが最深部で10cmと非常に浅い。近代に帰属すると考えられるが用途などは不明。

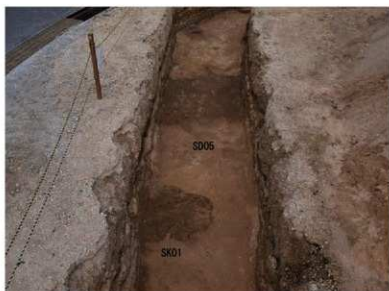
※ 〇 内数値は他遺構にきられて本来のプランではないもの

第13圖 第1工区平面图(調査終了時)





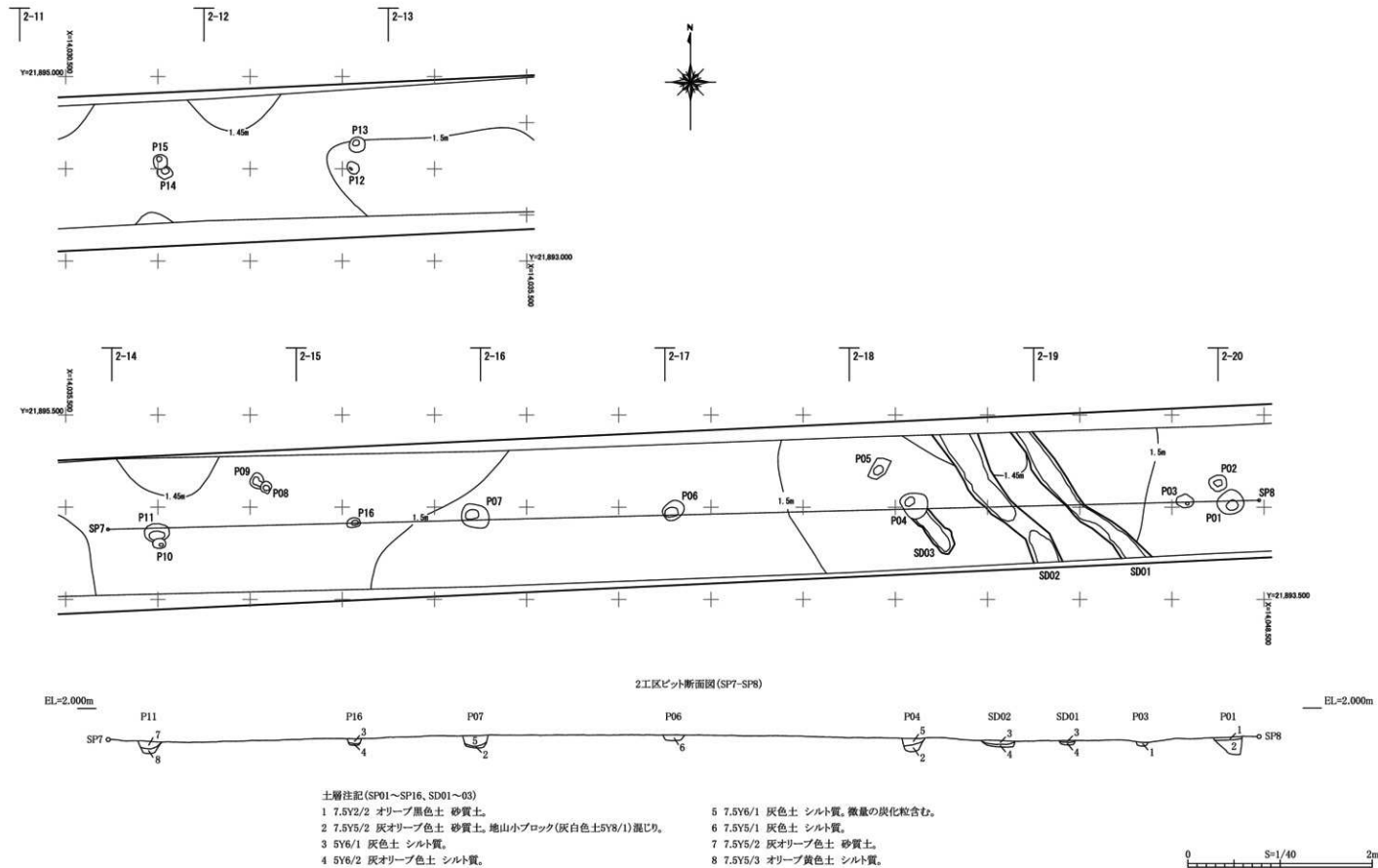
第16図 第2工区 遺構拡大1



图版 5 第 2 工区 遺構拡大 1



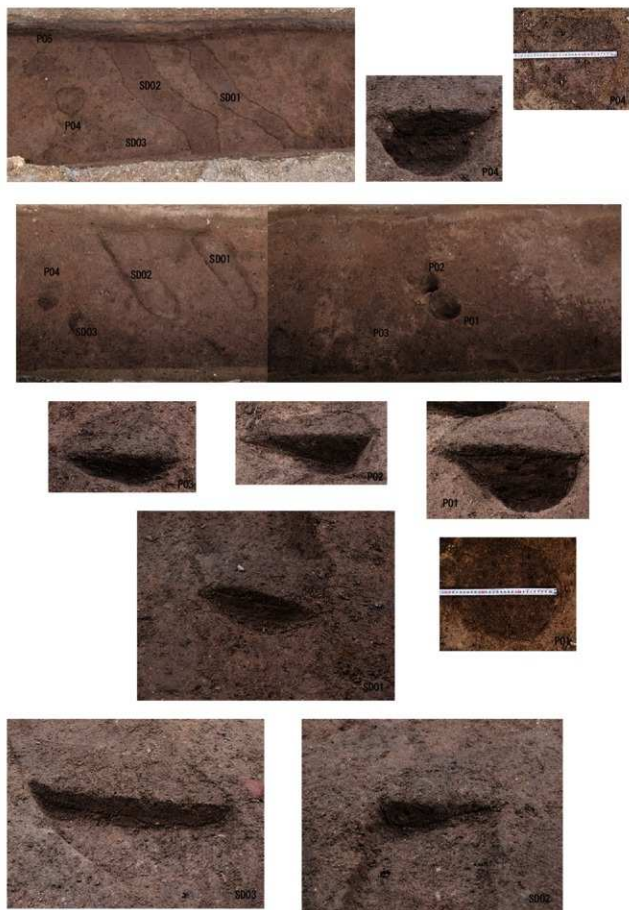
图版6 第2工区 遺構拡大1



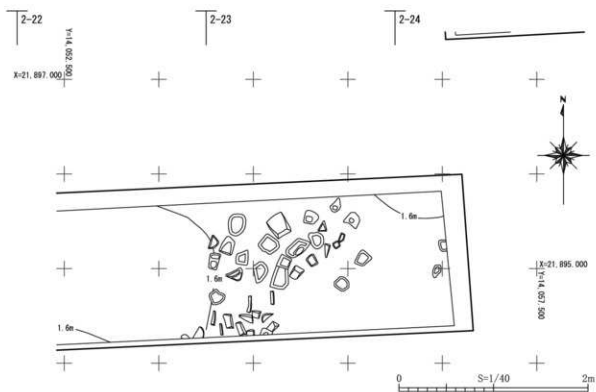
第17図 第2工区 遺構拡大2



图版 7 第 2 工区 遺構拡大 2



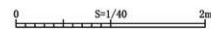
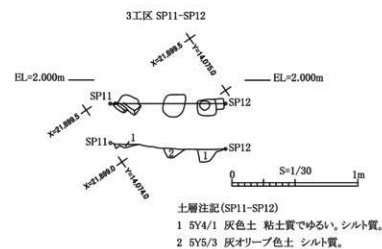
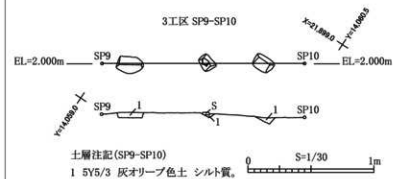
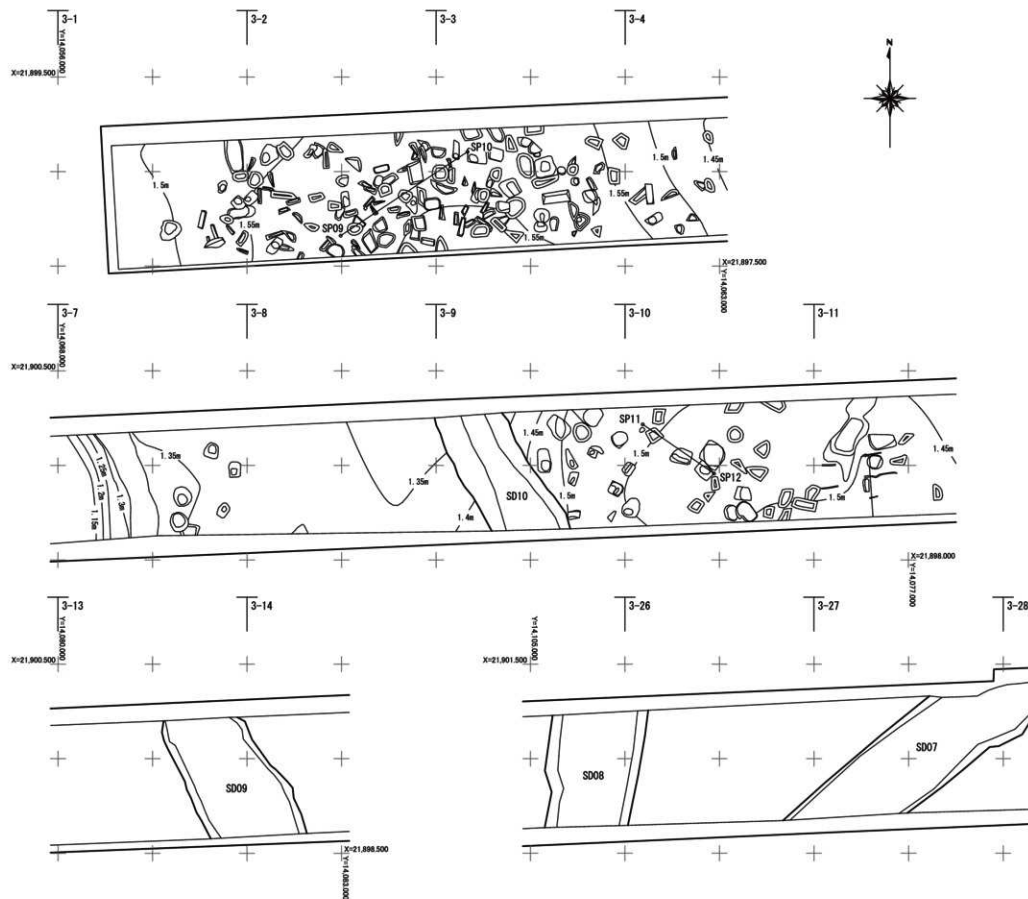
图版 8 第 2 工区 遺構拡大 2



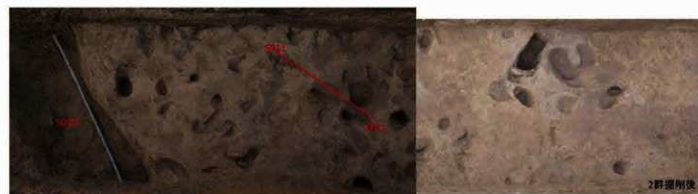
第18図・図版9 第2工区 遺構拡大3



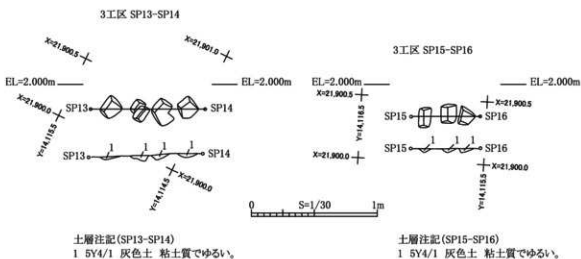
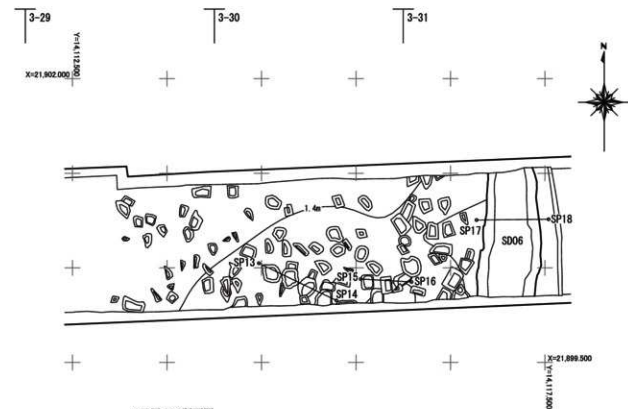
図版 10 第2工区 遺物出土状況 (2-24 グリットから2-9 グリット)



第19図 第3工区 遺構拡大1



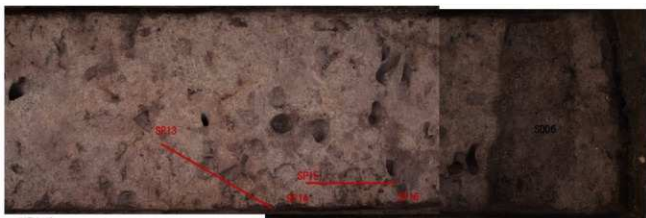
図版 11 第3工区 遺構拡大1



第20図 第3工区 遺構拡大2



3 群掘削前



3 群掘削後



SP14-SP13 断面



SD06 断面



SP14-SP13 完掘



SP16-SP15 半截状況



SP16-SP15 完掘

図版 12 第 3 工区 遺構拡大 2

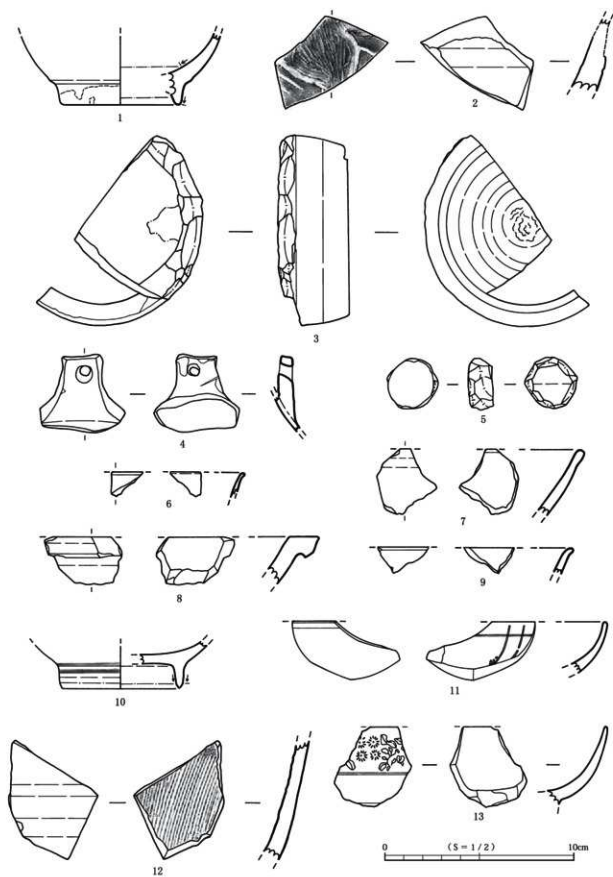
個々の資料の特徴は第5表に譲る。

《注》

那覇市教育委員会『鏡水土砂原A遺跡-陸上自衛隊那覇駐屯地整備場建設工事に伴う緊急発掘調査-』2010 62頁「7 円盤状製品」

第5表 遺構内出土遺物観察一覧

押図番号 図版番号	品名	器種 部位	法量(cm/g)	胎土	施釉範囲/発色	備考	出土 地点
第21図 1 図版13の1	沖縄産 施釉陶器	碗 腰～底	口径 — 器高 — 底径 6.2	灰白 (7.5YR8/1) 粗粒子	見込みは蛇の目釉剥ぎ。高台は露胎(白土の付着) 白化粧+透明釉 灰白(2.5Y8/2) 貫入あり	高台外面には白土の付着あり。	2-2 SD05
第21図 2 図版13の2	沖縄産 施釉陶器	壺 胴部	口径 — 器高 — 底径 —	灰白(5Y7/1) 粗粒子	外面:緑釉 内面:鉄釉	古典焼?	2-2 SD05
第21図 3 図版13の3	円盤状 製品	不明 底部	最大径 11 最大厚 3.8 重量 137	灰白(7.5Y8/1) 微粒子	外底面にろくろ痕が明瞭に残る	大碗(方言名:ワンブー)の底部である可能性が高い。	2-2 SD05
第21図 4 図版13の4	陶質土器	土瓶	口径 — 器高 — 底径 —	橙(5YR6/8) 微粒子	内外面:橙(5YR6/8) 極小の赤色粒・黒色粒・雲母が確認できる	内面にはロクロ痕が明瞭に残る。	2-6・7 SD04
第21図 5 図版13の5	円盤状 製品	平瓦	最大径 2.7 最大厚 1.2 重量 9	橙(5YR6/8) 微粒子	内外面:橙(5YR6/8) 大きき2mm前後の赤色粒が確認できる	外面を丸くきれいに见えるよう調整している。	2-15 Pit9
第21図 6 図版13の6	本土産 近代磁器	小杯 口縁部	口径 — 器高 — 底径 —	白 微粒子	細片の為詳細は不明	端反り碗 瀬戸美濃産	2-18 SD02
第21図 7 図版13の7	本土産 陶器	碗 口縁部	口径 — 器高 — 底径 —	橙(2.5YR7/6) 微粒子	内外面:灰白(2.5Y8/2)	直口碗 産地不明	2-19 SD01
第21図 8 図版13の8	沖縄産 無釉陶器	鉢 口縁部	口径 — 器高 — 底径 —	赤褐 (2.5YR4/6) 微粒子	外面:にふい赤褐 (2.5YR5/4) 内面:明赤褐(2.5YR5/6)	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	2-20 Pit1
第21図 9 図版13の9	沖縄産 施釉陶器	小碗 口縁部	口径 — 器高 — 底径 —	灰 (5Y6/1) 微粒子	白化粧+透明釉 灰白(7.5Y8/1) 貫入あり	小片のため詳細は不明	3-3 耕作痕
第21図 10 図版13の10	中国産 磁器	碗 底部	口径 — 器高 — 底径 6.2	灰白 微粒子 極小の黒色粒を多く含む	量付けのみ露胎 呉須の発色は淡い	高台脇に二重の圈線	3-25 SD07
第21図 11 図版13の11	本土産 近代磁器	小皿 口～腰	口径 — 器高 — 底径 —	白 微粒子	内外面に施釉	直口皿 瀬戸美濃産 銅版転写の跡が残る	3-25 SD07
第21図 12 図版13の12	沖縄産 無釉陶器	揃鉢 胴部	口径 — 器高 — 底径 —	暗赤褐 (2.5YR3/4) 微粒子	外面:赤灰(10R5/1) 内面:明赤褐(2.5YR5/6)	外面には焼成による自然釉(浅黄2.5Y7/4)が付着。 内面にはオロシ目が密に施される。	3-25 SD07
第21図 13 図版13の13	本土産 近代磁器	碗 口～腰	口径 — 器高 — 底径 —	白 微粒子	内外面に施釉	直口碗 瀬戸美濃産 銅版転写の跡が残る	2-6・7 SD04



第 21 圖 (圖版 13) 遺構內出土遺物



図版 13 (第 21 図) 遺構内出土遺物

第VI章 遺物

今回の調査で得られた資料は第6～8表に示した通り総数約5600点にのぼる。そのほとんどが小破片で、特に瓦の破片は2000点近く出土した。第1工区では2600点近く出土しているうちの2000点近くが造成土から出土し、第2工区では約2500点のうち2000点近くがⅢd層（遺物包含層）から出土した（第22図ではⅢd層より出土した遺物のうち84点の分布状態を示す。また、その座標を第26表に示す）。第3工区ではおよそ500点のうち400点近くがⅢf層（遺物包含層）から出土している。全工区の遺物包含層から出土した遺物は中国産磁器、褐釉陶器、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、円盤状製品、瓦、石材、骨製品、金属製品、ガラス製品、貝類、獣骨と、全部で32品種を数えた。造成土からは前述の遺物に加えレンガやプラスチック製品が出土した。生活用品から建築資材まで多岐にわたったが、ほとんどの資料は破損が著しく器形が窺えそうなものは少量であった。

中国産磁器、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器の碗・小碗・皿に限定して産地別で出土した割合をみると、中国産磁器11.4%、本土産陶磁器35.2%、沖縄産施釉陶器53.4%であった。製作年代の推定できる遺物としては青磁片、青花片、本土産磁器、沖縄産施釉陶器、銭貨が得られている。製作年代を一概に使用年代に当てはめる事はできないが、15世紀を始めてとして戦前までに生産された製品が遺物包含層より多く出土していることから、近世～近代の大嶺村～小嶺村字大嶺の存在を窺わせるものである。また、日常生活全てに関わる製品が出土した事も集落の存在を裏づけるものであると考える。

なお、今回の発掘調査で完形となる資料は得られていない。概ね器種の判別できる資料を、今回は図示した。

1 中国産陶磁器

第23・24図（図版14・15）。

中国産陶磁器は青磁、青花、色絵、瑠璃釉、褐釉陶器が確認できた。青磁片は計7点、青花片は計122点、色絵は計3点、瑠璃釉は1点、褐釉陶器は3点が得られている。青磁は15世紀～16世紀、青花では16世紀～19世紀のものが確認できた。また、青花では福建・広東系のものが多かった。

第23図1～3は青磁の資料である。工区は違うがいずれも遺物包含層から出土した。1は碗の口縁部で15～16世紀頃のものである。2は龍泉窯系の碗の胴部で、その製作年代は15世紀後半から16世紀中盤といわれている。3は碗の腰部で詳細は不明。

第23・24図4～23は青花資料である。4～13は碗の口縁部、14は碗の胴部、第24図15は碗の底部である。9・12・13・15は寿字文に伴う花文が見られるがそれぞれに若干の違いがある。首里城跡・渡地村跡等、比較的良好に見られる資料である。16は小碗の口～底部で器形の窺える資料である。17・18は小碗の口縁部、19は小碗の胴部、20は小碗の底部である。21は皿の口縁部、22・23は皿の底部である。24は瑠璃釉の資料で小碗の腰～底部が確認できた。25は赤絵の資料で碗の口縁部である。

褐釉陶器は壺の胴部が1点、器種不明胴部が2点出土しているが、いずれも小破片のため実測は控えた。

個々の資料の特徴は第9・10表に譲る。

2 本土産陶磁器

第25～29図（図版16～20）。

本土産陶磁器は合計443点が得られた。いずれも小破片で器形の窺えるものは少なかった。無文の破片を除いて、製作技法別に割合を出してみると手描きの染付が一番多く全体の約45%を占めた。型紙刷りは約21%、銅版転写と印文がそれぞれ約11%、吹き付けは約5%であった。他にはクロム青磁と青磁染付が若干確認できた。また、産地別の割合では瀬戸美濃系が半数を超え、肥前系と砥部焼が約20%ずつ確認できた。

第25図1～第26図14は手描きの染付資料である。1・2は碗の腰～底部と口縁部、3・4は小碗の底部、5～7は皿の底部、8～11は鉢の口縁部、12は水注の肩部、13は蓋、14は筒型花生の口縁部。5～7の皿の底部にはいずれも仙芝福寿文が描かれるが、器形や図柄に若干の違いが見られる。第27図15～21は型紙刷りの資料である。15・16は碗の口縁部、17は碗の腰部、18・19は碗の底部、20・21は皿の底部。第28図22～29は銅版転写の資料である。22・23は湯呑み胴～底部、24は小碗の底部、25～28は器形が窺える皿である。29は蓋の破片で鉄釉を掛けた上に銅版転写の痕が残る。第28図30～32は印文の資料である。30は小碗の口縁部、31は小碗の胴～底部、32は蓋。第29図33・34は吹き付けの資料である。33は碗の口縁部、34は小杯の口～底部。第29図35・36は無文の碗である。35は器形の窺える碗である。37は灯明皿とも思われるが詳細は不明。

第29図38～40には本土産陶器の資料を図示した。今回の調査で本土産陶器は計31点が得られた。産地として確認できたのは薩摩焼（鹿児島県）と珉平焼（兵庫県淡路島）である。第29図38は碗の腰～底部、39は壺の口縁部、40は器種不明の胴～底部である。

個々の資料の特徴は第11・12表に譲る。

3 沖縄産施釉陶器

第30～32図（図版21～23）。

沖縄産施釉陶器は計1114点が得られた。器種は17種が確認できた。一番多く出土したのは碗で全体の38%にのぼる。以下小碗が13%、瓶が9%と続き、種類は多いがその数には偏りが見られた。製作年代としては1667年に灰釉碗、1781年頃から蛇の目釉剥ぎが行われており、300点ほどを無作為に抽出してみたところ、内外面ともに白化粧を施したものか、外面は鉄釉、内面は白化粧の掛け分けが多く全体の2/3を占めた。蛇の目釉剥ぎは6%ほどであった。

第30図1～10は碗となる資料である。1～5は口縁部で2は外面が鉄釉、内面は透明釉の掛け分けがなされている。6～10は底部で6・7・9はフィガキと呼ばれる技法によるものである。8・10はいずれも白化粧の碗であるが外底面の扱いが違う。第30図11～16は小碗の資料である。11・12は口縁部で12は口縁部に魚文を削り出し、鉄釉と白化粧の掛け分を施す。13～16は底部で13・14は白化粧のみ15・16は鉄釉と白化粧の掛け分けを施すものである。第31図17・18は皿の口縁部資料。第31図19～21は鉢の口縁部である。22は鉢の底部。23～26は急須の資料である。23が蓋、24は口縁部、25・26は底部で、いずれも脚がある。第32図27は水注の底部資料で、28は酒注の口縁部資料である。29は壺の口縁部。30は鍋の口縁部であるが、口唇部に焼成の際についてと思われる釉剥ぎがあるので、焼成の際に何かが載せられていた事が窺える。32～35は火入れの口縁部である。36はつば欄用碗と考え

られる底部資料である。

個々の資料の特徴は第13表に譲る。

4 沖縄産無釉陶器

第33～36図（図版24～27）。

沖縄産施釉陶器は計816点が得られた。器種は12種が確認できた。一番多く出土したのは壺で全体の22%にのぼる。以下鉢が18%、播鉢が12%と続き、あとは数点ずつである。また、第1工区全体からの出土が一番多い。

第33図1は碗の底部である。2は皿の底部である。あるいは灯明皿かもしれない。3・4は水鉢（方言名：ミジクブサー）となる資料である。3は胴部、4は口～胴部。5～7は鉢となる資料でいずれも口縁部である。第34図8・9は播鉢となる資料で、いずれもオロシ目が確認できる。第34図9・10は植木鉢となる資料である。第35図12～15は瓶となる資料である。12～14は口縁部でそれぞれ口唇部に欠けが見られるのは何らかの人為的な結果かもしれない。15は底部である。第35図16～19は壺となる資料である。16・17は口縁部18は胴部19は底部。第36図20～23は甕となる資料である。20・21は口縁部、22・23は底部。第36図24は灯明皿の底部となる資料である。第36図25は器種不明の胴部と思われる資料である。

個々の資料の特徴は第14表に譲る。

5 陶質土器

第37・38図（図版28・29）。

陶質土器は計637点が得られた。器種は10種が確認できた。一番多く出土したのは鍋で全体の52%にのぼる。次に火炉が多く14%であるが、あとは十数点ずつである。また、第2工区遺物包含層からの出土が一番多く他の4倍近くにもなった。

第37図1～3は火炉の口縁部となる資料である。第37図4～10は鍋となる資料である。4・5は鍋の蓋6・8・9は口縁部7は把手10は胴部。第38図11は灯明皿の底部となる資料である。第38図12・13は急須の蓋に係る資料である。12はつまみの部分で13は蓋である。第38図14は急須の口縁部、第38図15は鉢の口縁部、第38図16は水鉢の口縁部、第38図17はフライパン状製品の口縁部である。

個々の資料の特徴は第15表に譲る。

6 瓦

第39図（図版30）。

全体で2006点出土。そのうち第1工区のみで1344点出土しているが、そのほとんどが近世に属する赤色系の丸瓦・平瓦の破片であった。中には漆喰が付着していた物も見られた。また、淡い橙褐色系統の中間色の瓦も確認できた。

第39図1は橙褐色系の軒丸瓦である。今回の調査では唯1点出土した。裏面に指で押した跡や指紋が残っている。第39図2は赤色系丸瓦である。今回の調査では50点近く同じタイプの丸瓦が出土した。第39図3は赤色系平瓦である。破片ではあるが917点が出土した。今回報告はしていないが、灰色系瓦も丸瓦・平瓦ともに数点ずつ確認した。赤色系瓦と同様に漆喰が付着したものもあった。

個々の資料の特徴は第16表に譲る。

7 円盤状製品

第40図(図版31)。

円盤状製品は計24点が得られた。素材として磁器、施釉陶器、無釉陶器、播鉢、陶質土器、瓦が確認できた。瓦と無釉陶器製が多くそれぞれ11点と9点であった。他は数点である。造成土、遺物包含層、遺構内と出土範囲が広い。

第40図1は中国産磁器、2は本土産磁器、3は褐釉陶器、4～6は沖縄産無釉陶器を加工した製品である。表裏どちらからも見ても丸くなるように整形されているものが多かった。

個々の資料の特徴は第17表に譲る。

8 その他(土管・銭貨・石製品・釘・レンガ・ガラス製品)

第40・41図(図版31・32)。

第40図7は土管である。常滑産で内径9cmを測る。1-17Ⅲc層より出土。第40図8は銭貨である。半分が欠損しているが、『寛・宝』の文字が確認できるので、『寛永通宝』になると思われる。17世紀から幕末まで鋳造される。第41図1は硯の破片である。今回の調査では唯1点出土した。第41図2は文鎮と考えられる石製品である。いずれも材質は不明だが、硯は多数の砂粒の混入が見られ、人工的に作られた可能性も考えられる(注)。第41図3・4は釘である。全体に鉄錆の付着が激しく元の形は判然としないが、いずれも丸釘だと思われる。

今回報告はしていないが、赤レンガも多数出土している。長さ24cm・幅12cm・厚み6cmを測り、角の一方が丸く成形されているものも確認できた。焼成は良好。遺跡付近の海岸ではレンガを積んで作られた壁の一部が確認できるので、赤レンガも建築資材の一つとして使用されていたことが窺える。他にもガラス製品では酒や醤油瓶などの他に表面に「白樺」と刻印された瓶や、美容クリームが入っていたと思われる瓶なども確認できた。

個々の資料の特徴は第18・19・20表に譲る。

《注》

今婦仁村教育委員会『企画展 掘り出された硯 一琉球・沖縄の硯から見た歴史と文化-』2010 12頁

9 貝製品

第 41 図 (図版 32)。

今回の調査では、わずかに 2 点のみが得られている。第 41 図 5・6 は貝鐺になると思われる資料である。紐擦り痕が明瞭に残る。

個々の資料の特徴は第 21 表に譲る。

10 自然遺物

獣骨 (第 22 表)

今回の調査では小破片ばかりで完形は得られなかったが、第 22 表に示したとおり、ブタ、イヌ、ウシ、ネコ、ネズミ、ヘビ、ジュゴンの 7 種の獣骨が同定できた。一部には刃物痕のように思える傷もあったが、確証が得られなかった。出土の傾向としては、Ⅱ層 (造成土) からは全体の 16% ほどしか出土が無く、圧倒的にⅢ層 (遺物包含層) からの出土が多かった。また、確認できた 7 種の中でもブタの骨が圧倒的に多く、半数以上を占めた。残りの 6 種は数えるほどしか出土していない。

貝類 (第 23～25 表)

第 23・24 表に示した通り二枚貝 9 科、巻貝 10 科の 19 科が得られた。総数 138 点にしかならず非常に稀少であったが、細片が多いうえに風化がすすんでおり同定は難しかった。今回は巻貝・二枚貝ともに若干ではあるがⅡ層 (造成土) からの出土が多かった。ハイガイ、リュウキュウバカガイともに造成土からの出土である。

生息地を見てみると第 25 表に示したとおり、二枚貝は浅い砂地等、容易に採集できるものが多く、巻貝については素潜りのできる範囲で採集していたようである。表には記載していないが、パイブウニも 2 点出土した。

11 土器

後期土器と思われる器種不明の胴部片が 3 点得られた。大当原式と思われる土器片は 1-12 グリットⅡa 層、浜屋原式と思われる土器片は 1-34 グリットⅡa 層、くびれ平底と思われる土器片は 1-50 グリットⅢd 層より出土した。前者の 2 点は造成土からの出土であるが後者の 1 点は遺物包含層よりの出土である。分布調査でも土器片は僅かに 1 点しか確認できていないが、当該地は砂丘平野で豊かな海資源が得られたとのことなので、字大嶺村時代より以前に人が生活していてもおかしくないと考える。今後の類例資料が待たれる。なお、いずれも小破片のため、実測は控えた。

第6表 第1工区 出土遺物一覧

(1-1)

グリット	層序	産地 種類	中国産										本土産磁器										銅版転写												
			青花					色絵					印文										型紙刷り												
			碗		小碗		小杯	皿	不明	碗	碗		小碗		皿	小皿	徳利	湯呑	碗		小碗		皿	小皿	碗		小碗		皿	小皿	碗		小碗		皿
			口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	不明	口縁部	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	口縁部	胴底	
小計			部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	
2	IIa																																		
5	IIa	5																																	
6	IIa	20																																	
10	IIa	7																																	
11	IIa	3																																	
12	IIa	14																																	
13	IIa	28																																	
14	IIa	16																																	
15	IIa	24																																	
16	IIa	120		3									1			1				1	1								1						
17	IIa	3																		1															
17	IIc	87		1																															
18	IIa	5																		1													1		
18	IIc	130										2	1													1			1	1					
19	IIc	45			1													1									1				1		1		
20	IIc	11																																	
21	IIc	10									1																								
22	IIc	6																	1																
23	IIc	6																																	
24	IIc	12																																	
25	IIc	7																																	
26	IIc	42																																	
27	IIa	13									1																	1							
27	IIc	51										1															1								
28	IIa	31																																	
28	IIc	21																																	
29	IIc	44																																	
30	IIa	3																																	
30	IIc	13																																	
31	IIa	28																																	
31	IIc	21																																	
32	IIa	50			1	1																													
32	IIc	5																																	
33	IIa	97												1																					
34	IIa	193																																	
35	IIa	103	1	1										1																					
36	IIa	96			1																														
37	IIa	101		1																															
38	IIa	69	1																																
39	IIa	77							1																										
40	IIa	129		1		1																													
41	IIa	281	1	3		1	2																												
42	IIa	298	2	1		1				1	1																								
43	IIa	100	1				1																												
44	IIa	14																																	
45	IIa	3																																	
48	IIId	5																																	
50	IIId	22																																	
22~28	清掃時	10																																	
小計			6	11	3	4	3	1	1	1	1	1	10	1	3	3	3	1	1	1	2	1	1	1	14	19	1	2	1	1	1	1	1	2	
合計			2479																																

[illegible]

[illegible]

グリッド	層序	施釉陶器																				沖縄産										無釉陶器										瓦		
		鉢		壺		急須		水注		鍋		火入れ		蓋		灯明具		香炉	不明		碗		壺		鉢		底		水鉢		襖鉢		瓶		壺型		不明		平瓦	丸瓦	不			
		口縁部	胴底部	胴底部	胴底部	胴底部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部	口縁部	胴底部			
		部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部				
2	IIa																																											
5	IIa				2	1																																						
6	IIa																																											
10	IIa				2																																							
11	IIa																																											
12	IIa																																											
13	IIa			2																																								
14	IIa																																											
15	IIa																																											
16	IIa			1																																								
17	IIIc															1																												
18	IIa																																											
19	IIIc	1			1		1																																					
20	IIIc																																											
21	IIIc																																											
22	IIIc																																											
23	IIIc																																											
24	IIIc																																											
25	IIIc			</																																								

(1-5)

グリット	層序	沖縄産				レンガ	土管 口縁部	石製品 文 石 釘 材	金属 製品 不 明	ガラス製品						円盤状製品			貝類				不明
		瓦								小瓶 完 形	瓶 口縁部	破片 胴部	不明 底部	陶質土器 胴部	瓦 胴部	二枚貝	巻貝	不 明					
		平 瓦	丸 瓦	不 明	不明																		
2	Ha																		1				
5	Ha																						
6	Ha													1									
10	Ha																			1			
11	Ha																						
12	Ha																				1		
13	Ha																						
14	Ha																			1			
15	Ha																				1		
16	Ha							1									1	2	1	1			
17	IIIc						1											5	1		2		
18	Ha																						
18	IIIc							1			1		1					4	2				
19	IIIc							1					1					4					
20	IIIc																						
21	IIIc																						
22	IIIc																						
23	IIIc												1										
24	IIIc					1																	
25	IIIc																						
26	IIIc							1															
27	IIIc							1															
28	Ha						4													1			
28	IIIc																						
29	IIIc															2							
30	Ha																						
30	IIIc																						
31	Ha																			1	1		
31	IIIc														1								
32	Ha									1								1	2		1		
32	IIIc																						
33	Ha	2						1	1				1					2	2				
34	Ha								1			1	3					3	8		1		
35	Ha								3									13	1				
36	Ha							2	1		1				3		1	3	2				
37	Ha							1	2					1	1	1	1	4	1		1		
38	Ha							2		2				3				6			1		
39	Ha													3				2					
40	Ha	1				1		1			1	1		2		1							
41	Ha		1	1	21			1	1	1	1			3				1	6		4		
42	Ha		3		3			2	3	1				7	1			2	1		1		
43	Ha																	3					
44	Ha																						
45	Ha																						
48	IIIc										2												
50	IIIc												1										
22~28 清掃時																							
小計		3	4	1	30	1	1	16	10	7	2	3	2	1	31	2	6	1	2	56	31	3	12
				8	30	1		17		17			5	2	1		33	6			90	12	
合計		1178			30	1	17	17		17							47		3		90	12	

(2-1)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

グリット	層序	瓦			石製品	金属製品			ガラス製品				円盤状製品				瓦		貝類		不明				レンガ	骨製品		
		赤瓦	灰瓦	不		鉄釘	鉄	不	小瓶	瓶	破片	不明	漆器	陶器	漆器	漆器	瓦	二枚	巻	不	木炭	石炭	プラスチック	不明				
明	瓦	明	破	釘	貨	明	形	口	縁	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部					
1	瓦d SK01							1									4											
2	瓦d SD05						1	4			1	1		2									1					
3	瓦d		2	1							1	3				1			1									
4	瓦d		2	1					1											1								
5	瓦d		5					1								1												
6	瓦d					1						2																
7	瓦d									1		1																
6・7	SD04		3						2																			
9	瓦d		1			1						2							1									
10	瓦d 瓦e		10	1								2								2								
11	瓦d 瓦e P16		10					1				1		1				1	2		1		1					
12	瓦d 瓦e 瓦b		16			1		1				1		1			2			1								
13	瓦d 瓦e		17			4			1								1											
14	瓦d 瓦e		24	1		2			1								2				1		3	1				
15	瓦d P9		26			1							1	2				1	5				2	1				
16	P10 瓦d 瓦e		16			3			1			2					1	1		1	2							
17	瓦d 瓦e P6		26			4											1	1	1		1							
18	瓦d 瓦e P4		26	1		4															1							
19	SD02 瓦b 瓦d SD01		1															1	3	1	1			1				
20	瓦b 瓦d P1		18	1					1					1					1									
21	P3 瓦d		1			1															1							
22	瓦d		12															5	5									
23	瓦d		9															3	2				1					
24	V 瓦d		6							1								2										
25	瓦d		1																									
2工区	重機用所時 瓦d		3			1						3																
小計		253	6	1	1	22	4	1	12	1	2	16	2	4	1	5	1	1	7	26	21	6	8	1	1	8	1	2
合計		397		7	1	22			17	1	2		18	4				7	1	7			53		18	1	2	
				404		23			17					25				15		53				18	1			

第8表 第3工区 出土遺物一覧

(3-1)

グリット	層序	産地 種類	中国産										本土産磁器														本土産陶器			土器		沖縄産 陶質土器																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
			青花					色絵		襷輪 陶器			印文 型紙刷り 銅版転写 吹き付け				その他				染付				産地不明			土器		鍋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
			碗		碗		小碗		皿		不明		不明		壺		小碗		皿		碗		皿		小皿		不明		急須		不明		不明		鍋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
			口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口</

グ リ ッ ト	層 序	沖縄産																																											
		陶質土器										施釉陶器										無釉陶器																							
		鍋の蓋		火炉		灯 明 皿	急 須 土 瓶	フ ラ イ バ ン 状 製 品	不明		碗		小碗		皿		瓶		壺 型	鉢	壺	急須		把 手	火入れ		不明		壺		鉢	水 鉢	罐 鉢												
		口 縁 部	胴 部	口 縁 部	胴 部	底 部	胴 部	口 縁 部	底 部	不 明	口 縁 部	底 部	口 縁 部	底 部	口 縁 部	底 部	口 縁 部	底 部	首 部	口 縁 部	胴 部	口 縁 部	胴 部	口 縁 部	胴 部	耳	口 縁 部	胴 部	口 縁 部	底 部	口 縁 部	胴 部	口 縁 部	胴 部											
1	直f															1															1														
2	直f					1	1			1		2	2	4	1	1	1		2	1						1				2		1	2		2										
3	直f 継作痕									1		2	6		4	3									1					1	1	1													
4	直f				1					1		1	7		3	4			1	1	1				2			1	1		3			1	1										
5	直f																																												
6	直a	1																	1																										
7	直a				1								1	2							2		1	1							1														
8	直a																									1					1			1											
9	直a		1			1		1				2										1									1	1		2											
10	直a 継作痕											1																																	
11	直a				1								1																																
12	直a														1										2																				
13	直a			1	1						1			1																															
14	直a																		1					1																					
15	直a																																												
25	直f SD07																																												
26	直f												1																		1			1											
27	直f						1						1										1											1											
28	直f						1			2		1	1	3				1	1	1			1		1									1											
29	直f 継作痕	2		1	2		1						3		2	6	1			3		1		1	1	1		1			3	1	1												
30	直f			1	1						4	4	1	5	1			1		1			1			1	1	1		3		5	2	1											
31	直f												2						1						1		1		1		1			1											
31	継作痕												2						1						1		1		1		1			1											
小計		3	1	3	7	1	2	4	1		1	11	5	3	11	37	1	11	14	3	1	2	2	12	1	1	2	2	6	3	1	8	2	2	3	1	1	9	1	1	13	8	4	2	10
合計			4			11	2	4	1		1			19				49		28		3					16	2		8	3				13		4			11	14	12	2	10	
														82																										137					

(3-3)

グリット	層序	沖縄産			瓦			レンガ	石製品	金属製品	ガラス製品		円盤状製品				貝類	不明			
		無釉陶器			赤瓦	平瓦	丸瓦				不明	破片	不明	陶器							
		瓶	壺型	不明										磁器	無釉	施釉				瓦	
																					胴部
1	皿f			2		6		2		1						1					
2	皿f			1		3	11			1							1				
3	皿f		1	2			5				1										
	餅作痕						1														
4	皿f		1			3	8		1								1		1		
5	皿f																				
6	皿a						1														
7	皿a			2		1	1	2													
8	皿a			1		2	5	2													
9	皿a			3		3		3								1					
10	皿a			1			1	5													
	餅作痕			1			2														
11	皿a						3														
12	皿a			1			1		1												
13	皿a			2		1	1														
14	皿a								1			1									
15	皿a																				
25	皿f			1																	
	SD07					2			1			1									
26	皿f			3		4	1										1				
27	皿f			2		1	3														
28	皿f			3		1	3														
29	皿f	1		5			5							1							
	餅作痕																				
30	皿f			8	2	1	2	6		1					2			3	1		
31	皿f			3		1															
31	餅作痕			1																	
小計		1	2	42	2	20	5	71	1	5	1	2	2	1	1	2	1	2	1	4	1
		1	2		44		96	1	5		3	3	1			5		5		2	
合計					85		96	1	5		3	3				6		5		2	

第9表 中国産磁器観察一覧(青磁)

博図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉	釉色	貫入	備考	推定 産地	推定 年代	出土 地点
第23図 1 図版14の1	碗 口縁部	— — —	黄みの灰色で 微粒子。黒色 粒を僅かに含 む	内外面に施釉。 軸は薄くかかる	暗い灰みのオ リーブ色	なし	外面に若干文様が見 えるが詳細は不明	—	15c ～ 16c	2-18 Ⅲd
第23図 2 図版14の2	碗 胴部	— — —	灰白色で微粒 子。僅かに黒 色粒を含む。	内外面に施釉。 軸は非常に薄く かかる	明緑灰色	あり	外面は弁先が揃った 細連弁文か	龍泉窯 系	15c後 ～ 16c中	2-12 Ⅲd
第23図 3 図版14の3	碗 腰部	— — —	灰色(大小の 気泡が見られ る)	内外面に施釉。 外面は非常に薄く かかる	淡緑色の透明 釉	内外面共に 細かい貫入	全体に剥けており、 詳細は不明	—	—	3-30 Ⅲf

第10表 中国産磁器観察一覧(青花)

博図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	器形	胎土	施釉範囲/発色	文様等	備考	出土 地点
第23図 4 図版14の4	碗 口縁部	9.4 — —	直口碗 口縁部はやや外 反する	灰白色で微粒子	内外面に施釉/青 みが強い 呉須:鮮明	外面:仙芝祝寿文 内面:口唇部に界線	17c中 ～ 後	2-15 Ⅲd
第23図 5 図版14の5	碗 口縁部	10.2 — —	口縁部はやや外 反する	灰白色で微粒子	内外面に施釉/灰 みが強い 呉須:鮮明	外面に菊唐草文を描く 内外面ともに細かい貫入 あり	—	3-29 Ⅲf
第23図 6 図版14の6	碗 口縁部	10.0 — —	直口碗	灰黄色で微粒子	内外面に施釉/黄 みの灰色 呉須:青黒い	外面:菊唐草文 内面:口縁下に圈線	18c末 ～ 19c	2-4 Ⅲd
第23図 7 図版14の7	碗 口縁部	9.6 — —	口縁部はやや外 反する	白色で微粒子	内外面に施釉/青 みが強い 呉須:青黒い	外面:菊唐草文 内面:口縁下に二重の界 線	18c末 ～ 19c	2-18 Ⅲd
第23図 8 図版14の8	碗 口縁部	12.8 — —	端反り碗	灰白色で微粒子	内外面に施釉/青 みかかる 呉須:鮮明	外面:草花文 内面:口縁部に圈線	福建・広東系 18～19 c	3-4 Ⅲf
第23図 9 図版14の9	碗 口一帯	14.4 — —	端反り碗	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/薄 青灰 呉須:青黒い	外面:寿字文 内面:口縁部・腰部に圈 線	福建・広東系 18～19 c	2-18 Ⅲd
第23図 10 図版14の10	碗 口縁部	9.6 — —	外反碗	白色で微粒子	内外面に施釉/青 みかかる 呉須:鮮明	外面:牡丹唐草文 内面:花文帯	—	2-10 Ⅲd
第23図 11 図版14の11	碗 口縁部	— — —	外反碗	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/薄 青灰 呉須:青黒い	外面:草花文 内面:口縁に界線	18c前 ～ 中	1-41 Ⅱa
第23図 12 図版14の12	碗 口縁部	— — —	端反り碗	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/黄 みの青色 呉須:青黒い	外面:寿字文に伴う花文 内面:口唇部に圈線	福建・広東系 18～19 c	2-15 Ⅲd
第23図13 図版14の13	碗 口縁部	— — —	端反り碗	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須:鮮明	外面:寿字文に伴う花文 内面:口唇部に圈線	福建・広東系 18～19 c	3-1 Ⅲf

博図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	器形	胎土	施釉範囲/発色	文様等	備考	出土地点
第23図 14 図版14の14	碗 胴部	— — —	—	青みの灰色で微 粒子	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：青黒い	外面：草花文	特化窯 (型押し成 形)	3-2 Ⅲ f
第24図 15 図版15の15	碗 底部	— — 5.8	—	灰白色で微粒 子。僅かに黒色 粒を含む。	墨付けのみ露胎/ 薄い灰色 呉須：青黒い	焼成による亀裂及び気泡 の破裂（外面：底部・胴 部に亀裂、内面：見込みに 5mmの穴）	福建・広東系 18～19 c	2-18 Ⅲ d
第24図 16 図版15の16	小碗 口～底	8.4 4.2 3.8	端反り碗	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：鮮明	口縁下に花文帯 見込みに菊花・唐草文	型押し 成形	1-42 Ⅱ a
第24図 17 図版15の17	小碗 口～腰	9.2 — —	外反口縁	灰白色で微粒 子。僅かに黒色 粒を含む。	内外面に施釉/薄 青灰 呉須：青黒い	外面：牡丹唐草文 内面：花文帯	—	1-42 Ⅱ a
第24図 18 図版15の18	小碗 口縁部	— — —	直口碗	白色で微粒子。 僅かに黒色粒を 含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：鮮明	外面：梵字文 内面：口縁部下に二重の 圏線	16c ～ 17c前	3-29 Ⅲ f
第24図 19 図版15の19	小碗 胴部	—	—	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：鮮明	蓮華・唐草文	—	3-31 Ⅲ f
第24図 20 図版15の20	小碗 底部	— — 4.2	—	青みの灰色で粗 粒子	墨付けのみ露胎/ 青みかかる 呉須：青黒い	ピンホールあり	—	3-30 Ⅲ f
第24図 21 図版15の21	皿 口縁部	14 — —	—	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：鮮明	外面：口縁部に二重圏線 と簡略化された蓮芝文？ 内面：仙芝祝寿文？	福建系？ 18c？	2-15 Ⅲ d
第24図 22 図版15の22	皿 底部	— — 9.6	—	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青 みかかる 呉須：鮮明	外面：高台縁に圏線 内面：見込みに草花文	福建系 18c	3-30 Ⅲ f
第24図 23 図版15の23	皿 底部	— — 6.8	—	青みの灰色で粗 粒子	墨付けのみ露胎/ 黄みの灰色 呉須：青黒い	山水文？	—	3-13 Ⅱ a
第24図 24 図版15の24	小碗 底部	— — 3.8	—	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	墨付けのみ露胎/ 青みかかる 外面：瑠璃釉	—	景德鎮窯系 (明代)	2-24 Ⅲ d
第24図 25 図版15の25	碗 口縁部	— — —	端反り碗	灰白色で微粒 子。僅かに黒色 粒を含む。	内外面に施釉/青 みかかる 外面：赤絵	外面：雷文？	景德鎮窯系 (明代)	2-11 Ⅲ d

第 11 表 本土産磁器観察一覧

押図番号 図版番号	器種 部位	器 形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉範囲/発色	技法・文様等の特徴		備考	出土 地点
						外面	内面		
第25図 1 図版16の1	碗 腰～底	—	— 6.2	白色で微粒子	内外面に施釉/やや 灰白色 コバルト：鮮明	図柄不明	見込に山水文	瀬戸美濃	2-1 Ⅲd
第25図 2 図版16の2	碗 口縁部	直口	9.6 —	白色で微粒子	内外面に施釉/青み かかる コバルト：鮮明	龍目を表現 か?	口唇部に圈線	瀬戸美濃以外 (型打成形)	1-31 Ⅱa
第25図 3 図版16の3	小碗 底部	—	— 3.8	青みの灰色で粗 粒子	畳付けのみ露胎/青 みかかる 呉須：鮮明	—	—	瀬戸美濃	2-16 Ⅲe
第25図 4 図版16の4	小碗 底部	—	— 4.0	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 含む	蛇の目回型高台内は 露胎/青みかかる コバルト：鮮明	—	—	瀬戸美濃	1-41 Ⅱa
第25図 5 図版16の5	皿 底部	—	— 2.8	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 含む	畳付けのみ露胎/青 みかかる コバルト：鮮明	仙芝祝寿文。 高台を挟んで 圈線を描く	仙芝祝寿文	瀬戸美濃系	1-40 Ⅱa
第25図 6 図版16の6	皿 底部	—	— —	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 含む	畳付けのみ露胎/青 みかかる コバルト：鮮明	仙芝祝寿文。 高台を挟んで 圈線を描く	仙芝祝寿文	美濃系	1-40 Ⅱa
第25図 7 図版16の7	皿 底部	—	— —	白色で微粒子	畳付けのみ露胎/薄 い灰色 呉須：鮮明	仙芝祝寿文。 高台を挟んで 圈線を描く	仙芝祝寿文	瀬戸美濃 明治	2-22 Ⅲd
第25図 8 図版16の8	鉢 口縁部	—	22.0 —	灰白色で粗粒 子。僅かに黒色 粒を含む。	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	獅子文	雷文	肥前系	2-14 Ⅲd
第26図 9 図版17の9	鉢 口縁部	角型	— —	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	区画文に梅花 等	口縁部に沿って半 円組合せ雷文の変 形か	肥前 (型打成形)	2-17 Ⅲd
第26図 10 図版17の10	鉢 口縁部	角型	— —	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	梅花を描く	梅花を描く	肥前 (型打成形)	3-28 Ⅲf
第26図 11 図版17の11	鉢 口縁部	—	14.0 —	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	貫入あり	卍文	肥前 (型打成形)	1-42 Ⅱa
第26図 12 図版17の12	水注 胴部	—	— —	青みの灰色で粗 粒子。黒色粒を 僅かに含む	外面のみ施釉/青み かかる 呉須：淡い	笹文圈線	無釉	薩摩	1-30 Ⅲc
第26図 13 図版17の13	蓋	—	5.8 4.6	白色で微粒子	かかのみ露胎/や や青みかかる コバルト：鮮明	不明	—	瀬戸美濃 (鋳込み成形)	1-40 Ⅱa
第26図 14 図版17の14	花器 口～胴	筒型	12.2 —	青みの灰色で微 粒子。黒色粒を 僅かに含む	外面のみ施釉/青み かかる 呉須：鮮明	外面：口縁に沿って雷文を廻らせ る 胴部には山水文?		肥前系	1-42 Ⅱa
第27図 15 図版18の15	碗 口～胴	外反	12.8 —	灰白 (7.5Y8/1)	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面及び口縁内面に草花文 を描く		砥部	1-16 Ⅱa

挿図番号 図版番号	器種 部位	器 形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉範囲/発色	技法・文様等の特徴	備考	出土 地点
第27図 16 図版18の16	碗 口縁部	外反	12.0 —	灰白 (10Y8/2)	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面及び口縁内面に点描で逆三角 形を廻らせ間に梅花を描く	砥部	2-12 Ⅲd
第27図 17 図版18の17	碗 腰部	—	— —	灰白 (7.5Y8/1) 黒色粒を含む	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面：寿文と梅花の間を四方棒 で埋める。 腰部には梅花を廻らす。 内面：見込みに圈線。	砥部	3-30 Ⅲf
第27図 18 図版18の18	碗 底部	—	— 5.0	灰白 (5Y8/2)	内外面に施釉/黄み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面：松竹梅の間を点描で埋 める。腰部には連弁文 内面：見込みに圈線と梅の枝	肥前	2-10 Ⅲd
第27図 19 図版18の19	碗 底部	—	— 5.7	灰白 (7.5Y8/1) 黒色粒を含む	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面：腰部に貼り付けの痕。 見込：松竹梅を描く。五足の ハマ勝が明瞭。	砥部	1-18 Ⅲc
第27図 20 図版18の20	皿 口縁部	直口	11.0 —	灰白 (5Y8/1)	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面：唐草文 内面：松竹梅の間を点描で埋める。 口唇部：口紅状に塗る。	砥部	2-7 Ⅲd
第27図 21 図版18の21	皿 底部	—	— 10.8	灰白 (7.5Y8/1)	内外面に施釉/青み かかる 呉須：鮮明	技法：型紙刷り 外面：高台に2本の圈線	砥部	2-5 Ⅲd
第28図 22 図版19の22	湯呑 胴～底	直口	— 3.2	灰白 (7.5Y8/1)	畳付けのみ露胎/青	技法：銅版転写 外面：人物画（二宮尊徳か?）	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	1-35 Ⅱa
第28図 23 図版19の23	湯呑 腰～底	不明	— —	灰白 (5Y8/1)	畳付けのみ露胎/緑	技法：銅版転写 内面：草花文に船・波濤文	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	2-11 Ⅲd
第28図 24 図版19の24	小碗 胴～底	不明	— 4.0	灰白 (7.5Y8/1)	畳付けのみ露胎/青	技法：銅版転写 外面：牡丹唐草文	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	1-40 Ⅱa
第28図 25 図版19の25	皿 口～底	直口	11.0 2.05 6.0	灰白 (7.5Y8/1)	畳付けのみ露胎/緑	技法：銅版転写 内面：菱形に菊花、中央に寿	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	1-42 Ⅱa
第28図 26 図版19の26	皿 口～底	直口	12.0 2.3 7.2	灰白 (5Y8/1)	畳付けのみ露胎/黒	技法：銅版転写 内面：亀と人物（昔話題材か?）	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	2-7 Ⅲd
第28図27 図版19の70	皿 口～底	直口	11.0 2.4 6.4	灰白 (7.5Y8/1)	畳付けのみ露胎/緑	技法：銅版転写 内面：網目状をバックに花が並ぶ	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	1-50 Ⅲd
第28図28 図版19の28	皿 口～底	直口	11.2 2.3 6.0	灰白 (7.5Y8/1)	畳付けのみ露胎/紺	技法：銅版転写 内面：区画され中に花を描く	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	3-26 Ⅲf
第28図 29 図版19の29	蓋	—	7.5 —	灰白 (10Y8/2)	内外面に施釉/黒	外面鉄絵? 内面無釉?	不明	1-37 Ⅱa
第29図 30 図版20の30	碗 口縁部	直口	10.0 —	灰白 (5Y8/1)	内外面に施釉/青	技法：印文 外面：唐草と花の模様	瀬戸美濃 （鉢込み成形）	1-40 Ⅱa

押図番号 図版番号	器種 部位	器形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉範囲/発色	技法・文様等の特徴		備考	出土 地点
						外面	内面		
第29図 31 図版20の31	小碗 胴～底	不明	— — 3.0	灰白 (5Y8/1)	畳付けのみ露胎/やや青黒い	技法：印文 外面：菱形・桜花・梅花などの間に手描きで線を引く。		瀬戸美濃 (鋳込み成形)	1-27 Ⅲc
第29図 32 図版20の32	蓋	—	9.2 — —	灰白 (5Y8/1)	内外面に施釉/青黒い	技法：印文 外面：唐草と梅花を散らす。		瀬戸美濃 (鋳込み成形)	1-41 Ⅱa
第29図 33 図版20の33	碗 口～胴	直口	11.0 — —	灰白 (5Y8/1)	内外面に施釉/青みかかる コバルト：鮮明	技法：吹き付け 外面：芭蕉の葉		瀬戸美濃 (機械ロクロ成型)	1-40 Ⅱa
第29図 34 図版20の34	小杯 口～底	やや 外反	— 2.6 —	灰白 (5Y8/1)	畳付けのみ露胎/青みかかる コバルト：鮮明	技法：吹き付け 内面：桜花		瀬戸美濃 (機械ロクロ成型)	1-40 Ⅱa
第29図 35 図版20の35	碗 口～底	直口	10.4 4.7 4.2	灰白 (7.5Y8/1) 黒色粒を僅かに含む	内外面に施釉/深い緑	緑釉を掛けた後、畳付けのみ釉を掻き落とす。 焼成の際にアルミナ附着。 腰部に貼り付けの痕が残る。		瀬戸美濃 (鋳込み成形)	3-30 Ⅲf
第29図 36 図版20の36	碗 口～胴	直口	12.0 — —	灰白 (7.5Y8/1)	内外面に透明釉をかける	不明		瀬戸美濃 (鋳込み成形)	2-11 Ⅲe
第29図 37 図版20の37	不明 口縁部	直口	— — —	灰白 (7.5Y8/1)	内面から外面口縁ふちあたりまで白色の施釉、外面はほぼ無釉	不明		瀬戸美濃 (鋳込み成形) 灯明皿か？	1-38 Ⅱa

第 12 表 本土産陶器観察一覧

押図番号 図版番号	器種 部位	器形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉範囲/発色	技法・文様等の特徴	備考	出土 地点
第29図 38 図版20の38	碗 腰～底	不明	— — 3.4	白	畳付けのみ露胎	内外面に細かい貫入あり（八重貫入）？	薩摩	2-2 Ⅲd
第29図 39 図版20の39	壺 口縁部	不明	— — —	にぶい赤褐 (7.5R5/3)	自然釉	—	薩摩	2-16 Ⅲd
第29図 40 図版20の40	不明 胴～底	直口	— — 6.0	灰白 (10Y8/2)	内外面に施釉/黒	技法：銅版転写 外面：花と唐草（貼り合わせがずれている）	不明	2-13 Ⅲd

第 13 表 沖縄産施釉陶器観察一覧

拝図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	釉の状態	施釉範囲	備考	出土 地点
第30図 1 図版21の1	碗 口縁部	— —	灰白色 (2.5Y7/1) 細粒子	透明釉+灰釉 内外面に貫入あり	内外面に施釉 灰釉のかけ方は不規則	口縁部は直口。	2-12 Ⅲd
第30図 2 図版21の2	碗 口縁部	11.9 —	灰白 (7.5Y7/1) 細粒子	外面鉄釉、内面透明釉 の掛け分け 内面に貫入あり	外面：口唇より以下 内面：全面	口縁部はやや端反り。	3-28 Ⅲf
第30図 3 図版21の3	碗 口縁部	12.0 —	灰白 (5Y7/1) 細粒子	白化粧+緑釉 内外面に貫入あり	内外面に施釉	口縁部は直口。 外面は白化粧後文様を施す。	3-10 Ⅱa
第30図 4 図版21の4	碗 口縁部	13.6 —	灰白 (5Y7/1) 細粒子	白化粧+透明釉 内外面に貫入あり	内外面に施釉	口縁部は直口。	3-2 Ⅲf
第30図 5 図版21の5	碗 口縁部	12.0 —	灰 (7.5Y6/1) 微粒子	透明釉+鉄釉 内面に貫入あり	内外面に施釉	口縁部はやや端反り。	1-32 Ⅱa
第30図 6 図版21の6	碗 底部	— 6.6	にぶい橙 (5YR6/4) 細粒子	灰釉 内面と畳付けには目砂が 付着	内外面ともに腰部まで施釉	ろくろ痕が明瞭。 見込みにはアルミナ の付着あり。	1-28 Ⅱa
第30図 7 図版21の7	碗 底部	— —	にぶい黄橙 (10YR7/3) 細粒子	鉄釉	内外面ともに腰部まで施釉 見込みには鉄釉で蛇の目を 描く	見込に鉄釉で蛇の 目を描くが、焼成 による付着物あり。	2-14 Ⅲd
第30図 8 図版21の8	碗 底部	— 6.0	灰白 (5Y8/1) 細粒子	鉄釉	見込みに目砂とアルミナの 付着	ろくろ痕が明瞭。 見込みにアルミナ の付着あり。	1-28 Ⅲc
第30図 9 図版21の9	碗 底部	— 6.4	灰白 (2.5Y7/1) 細粒子	白化粧+透明釉 外面に貫入あり	外底面には透明釉のみ施釉 (白化粧の垂れあり)。 畳付け部のみ釉剥ぎ。	蛇の目軸剥ぎ部に アルミナの付着あり。	1-34 Ⅱa
第30図 10 図版21の10	碗 底部	— 6.5	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	白化粧+透明釉 内外面に貫入あり	見込みに蛇の目軸剥ぎ	蛇の目に白土の付着。	2-12 Ⅲd
第30図 11 図版21の11	小碗 口縁部	7.6 —	外反口縁	白化粧	内外面に施釉	白土の薄い部分が 染付のように見える。	3-9 Ⅱa
第30図 12 図版21の12	小碗 口縁部	9.0 —	褐灰 (7.5YR6/2) 細粒子	透明釉+鉄釉 内面に貫入あり	外面は魚文の削り出し	口縁部は外反。	1-37 Ⅱa
第30図 13 図版21の13	小碗 底部	— 3.6	灰白 (7.5Y8/1) 細粒子	透明釉 内外面に貫入あり	畳付け部のみ露胎	—	3-2 Ⅲf
第30図 14 図版21の14	小碗 底部	— 4.0	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	透明釉 内外面に貫入あり	見込みに蛇の目軸剥ぎ	—	3-28 Ⅲf
第30図 15 図版21の15	小碗 底部	— 3.6	褐灰 (7.5YR6/1) 細粒子	透明釉+鉄釉 内面に貫入あり	見込みに蛇の目軸剥ぎ 畳付け部のみ釉剥ぎ	蛇の目に付着物、 高台内側に白土の 付着あり。	1-35 Ⅱa
第30図 16 図版21の16	小碗 底部	— 3.8	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	外面鉄釉、内面白化粧 +透明釉の掛け分け。 内面に貫入あり	見込みに蛇の目軸剥ぎ	蛇の目に付着物あり。	2-4 Ⅲd

挿図番号 図版番号	器種 部位	口徑 輪高底径 (cm)	胎土	軸の状態	施釉範囲	備考	出土 地点
第31図 17 図版22の17	皿 口縁部	21.5 — —	淡黄 (2.5Y8/4) 細粒子	白化粧+透明釉 内外面に貫入あり	呉須で草花文を描いた後、 内外面に施釉	口縁部は外反。	3-30 Ⅲf
第31図 18 図版22の18	皿 口縁部	10.8 — —	灰白 (5Y7/1) 細粒子	透明釉 内面に貫入あり	内面に施釉	裏面にろくろ痕 灯明皿か?	2-14 Ⅲd
第31図 19 図版22の19	鉢 口縁部	— — —	灰白 (5Y7/2) 細粒子	透明釉+鉄釉 内面に貫入あり	内外面に施釉	内面に鉄釉が垂れる。 口縁部は端反り。	2-11 Ⅲd
第31図 20 図版22の20	鉢 口縁部	24.0 — —	灰白 (5Y7/2) 細粒子	白化粧+鉄釉 内面に貫入あり	内外面に施釉	内面に軸垂れの痕 あり。 口縁部は端反り。	2-10 Ⅲd
第31図 21 図版22の21	鉢 口縁部	24.0 — —	にぶい黄橙 (10YR7/3) 細粒子	鉄釉 内面に貫入あり	内外面に施釉	肥厚口縁。	3-29 Ⅲf
第31図 22 図版22の22	鉢 底部	— — 8.0	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	鉄釉 外面に貫入あり	高台外面と畳付け部は露体	高台外面に軸が垂れる。	2-13 Ⅲd
第31図 23 図版22の23	急須 蓋	11.0 — —	褐灰 (7.5YR5/1) 細粒子	鉄釉	上面のみ施釉	かかりに白土の付 着あり。	2-10 Ⅲd
第31図 24 図版22の24	急須 口へ側	6.8 — —	にぶい黄橙 (10YR7/2) 細粒子	白化粧+コバルト 内面に貫入あり	口唇と内面口縁は口壳	うっすらとろくろ 痕あり。	1-34 Ⅱa
第31図 25 図版22の25	急須 底部	— — 7.4	灰黄 (2.5Y7/2) 細粒子	鉄釉 外面に貫入あり	外面腰部まで。 腰部に軸たまり	ろくろ痕明瞭。	1-32 Ⅱa
第31図 26 図版22の26	急須 底部	— — 10.8	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	白化粧+コバルト 内底面にはコバルトが 点状に付着	外底面と脚のみ無釉	ろくろ痕明瞭。	1-5 Ⅱa
第32図 27 図版23の27	水注 口縁部	7.4 — —	褐灰 (7.5YR5/1) 細粒子	灰釉 外面貫入あり	外面高台まで	ろくろ痕明瞭。 白土象嵌で二条の 圓線を描く。 基荀底。	2-17 Ⅲe
第32図 28 図版23の28	酒注 口縁部	— — 7.45	灰白 (2.5Y8/1) 微粒子	透明釉 内外面貫入あり	内外面に施釉 蓋受口のみ露胎	—	2-20 Ⅲd
第32図 29 図版23の29	甕 口縁部	19.4 — —	灰白 (5Y7/2) 細粒子	鉄釉	内外面に施釉	—	2-11 Ⅲd
第32図 30 図版23の30	鍋 口縁部	18.0 — —	にぶい黄橙 (10YR7/2) 細粒子	鉄釉	口唇部から外面のみ施釉	ろくろ痕明瞭。 口唇部に焼成の際 の軸刺けあり。	2-12 Ⅲd
第32図 31 図版23の31	鍋 口縁部	16.8 — —	にぶい黄橙 (10YR7/2) 細粒子	鉄釉	口唇部から外面のみ施釉	ろくろ痕明瞭。 蓋受口にアルミナ 付着。	2-17 Ⅲe
第32図 32 図版23の32	火入れ 口縁部	10.2 — —	灰黄 (2.5Y7/2) 細粒子	鉄釉	口唇部から外面のみ施釉	ろくろ痕明瞭。 内面は焦けている。	3-31 Ⅲf

拝園番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	軸の状態	施釉範囲	備考	出土 地点
第32図 33 図版23の33	火入れ 口縁部	10.0 — —	灰赤 (2.5YR4/2) 細粒子	鉄軸	内外面に施釉後、内面口縁 から1.5cmほどを残し、釉 を剥ぎ取る。 やや煤けている。	外面は丸彫りで表 現。	3-29 Ⅲ f
第32図 34 図版23の34	火入れ 口縁部	— — —	灰 (10Y6/1) 細粒子	外面緑釉、内面白化粧 +鉄軸の掛け分け	内面口縁から1.5cmのみ釉 を剥ぎ取る。	軸葉は非常に薄く 掛かる。	1-37 Ⅱ a
第32図 35 図版23の35	火入れ 口縁部	10.2 — —	黄灰 (2.5Y6/1) 細粒子	白化粧+透明釉 内外面に貫入あり	口唇部から外面に緑釉を垂 らす。内面は露胎	緑釉の厚みで発色 が変わる。	1-37 Ⅱ a
第32図 36 図版23の36	細壺 底部	— — 8.0	にぶい黄橙 (10YR7/3) 細粒子	鉄軸 高台のみ露胎	高台のみ露胎	内底面には糸を通 すための耳を取り 付ける。	1-12 Ⅱ a

第 14 表 沖縄産無釉陶器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	備考	出土地点
第33図 1 図版24の1	碗 底部	— — 5.2	灰赤 (2.5YR5/2) 還元状態で焼かれたようである。	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：明赤褐5YR5/6	内外面ともにキラキラ光る銀色鉱物粒が、散見される。見込みにろくろ痕が明瞭に残る。	1-18Ⅱa
第33図 2 図版24の2	皿 底部	— — 5.4	明赤褐 (2.5YR5/8)	外面：明赤褐2.5YR5/8 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにキラキラ光る銀色鉱物粒が、やや散見される。ろくろ痕明瞭。 灯明皿か？	2-13Ⅲb
第33図 3 図版24の3	水鉢 胴部	— — —	赤褐 (10R4/4) — — 極小の白色粒が混じる。	外面：にぶい赤褐2.5YR4/3 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	3-27Ⅲf
第33図 4 図版24の4	水鉢 口縁部	29.6 — —	暗赤 (10R3/6)	外面：にぶい赤褐2.5YR4/4 内面：赤褐2.5YR4/6	内外面ともにキラキラ光る銀色鉱物粒が、やや散見される。ろくろ痕明瞭。	1-32Ⅱa
第33図 5 図版24の5	鉢 口縁部	30.4 — —	赤褐 (10R4/4) — — 極小の白色粒が極少量混じる	外面：にぶい赤褐2.5YR5/3 内面：灰赤2.5YR5/2	内面にややろくろ痕が残る。	3-27Ⅲf
第33図 6 図版24の6	鉢 口縁部	25.6 — —	赤 (10R5/6) — — やや気泡が多い 混入物はほとんど無い。	外面：明赤褐2.5YR5/8 内面：橙5YR6/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	2-14Ⅲd
第33図 7 図版24の7	鉢 口縁部	26.7 — —	赤 (10R5/6) — — 混入物はほとんど無い。	外面：橙2.5YR6/6 内面：明赤褐2.5YR5/6	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。 内表面には混入物多い。	1-43Ⅱa
第34図 8 図版25の8	描鉢 口縁部	25.4 — —	暗赤 (10R3/4) — — 極小の白色粒が極少量混じる	外面：赤褐2.5YR4/6 外面：暗赤褐5YR3/3 内面：赤褐2.5YR4/6	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	1-30Ⅲc
第34図 9 図版25の9	描鉢 底部	— — 12.0	赤 (10R5/8) — — 極小の白色粒が混じる。	外面：橙2.5YR6/8 内面：明赤褐2.5YR5/8	外面：調整痕明瞭。 オロシ目は9本を一組とする。	1-28Ⅱa
第34図 10 図版25の10	植木鉢 底部	— — 9.3	明赤褐 (2.5YR5/8) — — 極小の白色粒が極少量混じる	外面：赤10R4/8 内面：橙2.5YR6/8	外面には混入物の焼きはぜあり。	2-2Ⅲd
第34図 11 図版25の11	植木鉢 口～底	18.6 — 9.5	赤 (10R5/8)	外面：極暗赤褐2.5YR2/2 外面：暗赤褐5YR3/3 内面：橙2.5YR6/8	内外面ともに底部から側面にかけて雑噴を塗り修理した痕がある。	1-43Ⅱa 1-42Ⅱa
第35図 12 図版26の12	瓶 口縁部	6.0 — —	暗赤褐 (10R3/3)	外面：灰褐5YR5/2 内面：赤褐2.5YR4/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	2-11Ⅲd
第35図 13 図版26の13	瓶 口縁部	8.0 — —	暗赤 (7.5R3/6) — — 焼成による焼きはぜあり。	外面：暗赤褐10R3/2 内面：灰褐5YR4/2	口縁の欠けは人的なものか。	2-17Ⅲd
第35図 14 図版26の14	瓶 口縁部	— — —	暗赤灰 (10R4/1) — — 極少量の白色粒が混じる。	外面：黒褐2.5Y3/1 内面：黒2.5Y2/1	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。	2-18Ⅲd

押図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	備考	出土地点
第35図 15 図版26の15	瓶 底部	— — 5.6	暗赤褐 (10R3/3)	外面：暗赤褐10R3/3 内面：暗赤褐10R3/3	内外面ともにろくろ痕が明瞭に残る。外面には白土の付着？ 基部底。	1-41Ⅱa
第35図 16 図版26の16	壺 口縁部	8.8 — —	暗赤 (10R3/4) 所々に焼成による亀裂 極少量の白色粒が混じる。	外面：暗赤褐10R3/3 内面：赤黒10R2/1	内面はろくろ痕が明瞭に残る 外面はナデ消し。	1-37Ⅱa
第35図 17 図版26の17	壺 口縁部	14.8 — —	赤橙 (10R6/8)	外面：にぶい橙2.5YR6/4 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにキラキラ光る銀 色鉱物粒が、やや散見される。 ろくろ痕明瞭。	2-17Ⅲd
第35図 18 図版26の18	壺 胴部	— — —	暗赤褐 (10R3/3) 大きさ2mm以下の混入物多い	外面：極暗赤褐2.5YR2/2 内面：橙10R4/6	内外面ともにろくろ痕が明瞭 に残る。	2-14Ⅲd
第35図 19 図版26の19	壺 底部	— — 10.0	赤(10R5/8) 大きさ4mm程度の黒色粒あり。	外面：暗赤褐10R3/2 内面：赤10R5/6	内外面ともに大きさ4mm程度の 黒色粒白色粒あり。一部は焼 成により焼はぜを作る。	1-41Ⅱa
第36図 20 図版27の20	甕 口縁部	— — —	赤 (10R4/8) 大きさ2mm前後の黒色粒が散 見できる。	外面：褐灰10YR4/1 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭 に残り、2mm前後の黒色粒が散 見できる。	1-16Ⅱa
第36図 21 図版27の21	甕 口縁部	— — —	赤 (10R4/8) 所々に焼成による亀裂。	外面：にぶい赤褐2.5YR5/3 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭 に残る。 6mm前後の焼はぜあり。	1-42Ⅱa
第36図 22 図版27の22	甕 底部	— — 18.4	暗赤褐 (7.5R3/2) 暗青灰 (5B4/1)	外面：にぶい黄2.5Y6/4 内面：橙2.5YR6/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭 に残る。 還元焼成。	Ⅱ工区 Ⅲd
第36図 23 図版27の23	甕 底部	— — 23.6	暗赤褐 (7.5R3/3) 焼成による気泡・亀裂多数残 る。 5mm以上の黒色粒も散見でき る。	外面：灰7.5Y4/1 外面：灰オリーブ7.5Y5/3 内面：褐灰10YR4/1	高温での焼成を受けている。	1-14Ⅱa
第36図 24 図版27の24	灯明皿 底部	— — 4.7	明オリーブ灰 (2.5GY7/1) ピンホール多数残る。	外面：明赤褐2.5YR5/6 内面：灰白7.5Y7/1	内面は自然釉の付着により白 く見える箇所がある。	2-16Ⅲd
第36図 25 図版27の25	不明	— — —	暗赤褐7.5R3/6	外面：橙2.5YR6/8 内面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともにろくろ痕が明瞭 に残る。	3-12Ⅱa

第 15 表 陶質土器観察一覧

埴田番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	備考	出土 地点
第37図 1 図版28の1	火炉 口縁部	— — —	明赤褐2.5YR5/8 粗粒子	内外面：明赤褐2.5YR5/8	内面に煤の付着。 混入物に雲母・黒色粒が確認できる。	1-26 Ⅲc
第37図 2 図版28の2	火炉 口縁部	10.0 — —	橙2.5YR6/8 微粒子	外面：明赤褐5YR5/6 内面：橙2.5YR6/8	混入物に雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。 内面はろくろ痕が明瞭。外面はナデ消す。	1-37 Ⅱa
第37図 3 図版28の3	火炉 口縁部	14.4 — —	橙7.5YR6/8 微粒子	内外面：橙7.5YR6/8	混入物に石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	3-13 Ⅱa
第37図 4 図版28の4	鍋 蓋	6.6 — —	橙5YR6/8 微粒子	内外面：橙5YR6/8	混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	1-40 Ⅱa
第37図 5 図版28の5	鍋 蓋	— — —	橙5YR6/8 微粒子	内外面：橙5YR6/8	混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-18 Ⅲd
第37図 6 図版28の6	鍋 口縁部	— — —	橙7.5YR6/8 微粒子	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：橙7.5YR6/8	内外面にうっすらと煤の付着。 混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-14 Ⅲd
第37図 7 図版28の7	鍋 把手	— — —	橙5YR6/8 微粒子	内外面：橙5YR6/8	混入物に極少量の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。把手にうっすらと煤が付着。	2-15 Ⅲd
第37図 8 図版28の8	鍋 口縁部	21.0 — —	明黄褐10YR7/6 微粒子	内外面：明赤褐5YR5/8	内外面に煤の付着。混入物に極小の雲母・赤色粒が確認できる。	3-9 Ⅱa
第37図 9 図版28の9	鍋 口縁部	16.0 — —	橙5YR6/8 微粒子	外面：全体に煤が付着 内面：橙5YR6/8	ろくろ底明瞭。混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	1-42 Ⅱa
第37図 10 図版28の10	鍋 胴部	— — —	橙5YR6/8 微粒子	外面：全体に煤が付着 内面：橙5YR6/8	鐙が胴部を廻る羽釜状器形。内面のろくろ痕はナデ消す。混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	1-41 Ⅱa
第38図 11 図版29の11	灯明皿 底部	— — —	灰白10YR7/1 微粒子	内外面： にぶい黄橙10YR7/4	内外面ともろくろ痕はナデ消す。内面にやや煤の付着あり。混入物に極小の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	1-16 Ⅱa
第38図 12 図版29の12	急須 つまみ	— — —	灰白10YR7/1 粗粒子	内外面： にぶい黄橙10YR7/3	内外面ともろくろ痕はナデ消す。混入物に極小の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-10 Ⅲd
第38図 13 図版29の13	急須 蓋	9.2 — —	明赤褐2.5YR5/8 微粒子	内外面：明赤褐2.5YR5/8	内外面ともろくろ痕はナデ消す。内外面にうっすらと煤の付着あり。混入物に極少量の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	3-28 Ⅲf
第38図 14 図版29の14	急須 口縁部	— — —	橙2.5YR6/8 胎土の中心にうっすらと還元された部分が残る	外面：橙5YR7/8（1部に煤が付着） 内面：にぶい橙7.5YR6/4	外面はろくろ痕をナデ消すが内面はろくろ痕明瞭。混入物に極小の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-11 Ⅲd
第38図 15 図版29の15	鉢 口縁部	— — —	明褐7.5YR5/6 微粒子	内外面：明褐7.5YR5/6	ろくろ底明瞭。混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-17 Ⅲd
第38図 16 図版29の16	水鉢 口縁部	— — —	明褐灰5YR7/1 微粒子	内外面：橙7.5YR6/8	全体に摩耗がすすむ。混入物に極小の石灰質砂粒・雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	2-17 Ⅲe
第38図 17 図版29の17	フライパン 状製品 口縁部	— — —	明赤褐5YR5/8 灰白5Y7/2 胎土の中心に還元された部分が残る	内外面：明赤褐5YR5/8	内外面ともろくろ痕はナデ消す。内外面にうっすらと煤の付着あり。混入物に極少量の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。	3-2 Ⅲf

第 16 表 瓦観察一覧

拝図番号 図版番号	名称	計測数値 (cm)	素地	文様・特徴	色調	出土 地点
第39図 1 図版30の1	橙褐色系 軒丸瓦	直径:約15.0 外周縁幅: 1.2	橙2.5YR7/8 微粒子 大きさ2mm前後の白色粒が 散見できる。 焼成による焼はぜあり	珠文が2点見られる。縁幅は 一定でなく全体的に凹凸が見 られる。表面には成形の際の 指ナデの痕が明瞭で一部には 指紋が残る。かなり雑な仕上 げである。	橙7.5YR6/6 微粒子 大きさ2mm前後の黒色粒 が散見できる。	2-18 Ⅲd
第39図 2 図版30の2	丸瓦	筒直径: 約10.0 長さ:11.7 玉縁部:4.3 厚さ:約1.4	明赤褐2.5YR5/6 粗粒子 極小の赤色粒・黒色粒が混 ざる	凸凹面ともに桶を繋ぐ紐の痕 が明瞭に残り、凹面には布目 痕も明瞭に見られる。 玉縁内面は両サイドに切り込 みを施すが、先端部は未調整 である。	明赤褐2.5YR5/8 素粒子 内外面ともに煤が付着 している	1-39 Ⅱa
第39図 3 図版30の3	平瓦	長さ:20.4 厚さ1.4 桶映端部: 直径約26.0	橙5YR6/8 粗粒子 大きさ2mm前後の赤色粒・ 黒色粒が散見できる 焼成による焼はぜあり	凸凹面ともに桶を繋ぐ紐の痕 と板幅(約5cm)が明瞭に 残り、凹面には布目痕も明瞭 に見られる。 断面に津喰の付着が見られる ので、あるいは一度割れた物 を修復して使用したのかもし れない。	内外面ともに橙5YR6/8 粗粒子 表面に大きさ2mm前後の 白色粒が見られる	1-39 Ⅱa

第 17 表 円盤状製品観察一覧

拝図番号 図版番号	種類	器種	部位	残存状 況	計測値(mm/g)				備考	出土 地点
					最大径	最小径	最大厚	現存重量		
第40図 1 図版31の1	中国産鉄軸染付	小碗	胴部	破	39.0	36.0	5.0	7.65	内側から細かく打割してい る。	3-9Ⅱa
第40図 2 図版31の2	本土産染付 (肥前系)	碗	胴部	完	32.5	28.0	5.5	7.89	内外面から細かく打割され ているが、外面の輪郭が 整っている。	3-29Ⅲf
第40図 3 図版31の3	褐釉陶器?	甕	胴部	完	29.0	26.0	6.5	6.77	非常に細かく内面から打割 されている。	3-30Ⅲf
第40図 4 図版31の4	沖縄産施軸陶器	甕	胴部	完	33.0	30.0	9.0	13.45	外面が整うよう細かく打割 している	2-19Ⅲd
第40図 5 図版31の5	沖縄産無軸陶器	甕	胴部	完	39.0	37.0	9.5	23.76	全体の2/3は細かく打割し ているが、残りは粗い。	2-5Ⅲd
第40図 6 図版31の6	沖縄産無軸陶器	甕	胴部	完	39.0	36.0	8.0	13.92	打割は粗いが外面は整って いる。	2-15Ⅲd

第 18 表 銭貨観察一覧

拝図番号 図版番号	貨幣名	時代	初鋳年	書体	法量(cm/g)				残存率	出土地点
					外形	孔径	厚さ	重量		
第40図 8 図版31の8	寛〇〇實	江戸	1668年	楷書	2.28	0.62	0.13	3	1/2	2-12Ⅲd

第 19 表 石製品観察一覧

挿図番号 図版番号	用途・ 器種名等	厚み (cm)	幅(推定) (cm)	備考	出土地点
第41図 1 図版32の1	硯	2.4	6.0	材質・産地不明。硯頭、海部の右角部分の出土であるが残存状況により海部の幅は約4cm。深さは1.3cmと推定できる。	2-6Ⅲd
第41図 2 図版32の2	文鎮?	-	-	雲母? 混入の石材だが、材質・産地は不明。高さ、奥行1.5cmの棒状長方形。両端が残っていないので全体の形状は不明。	1-41Ⅱa

第 20 表 釘観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	最大長	最大幅	厚さ	重さ g	備考	出土地点
第41図 3 図版32の3	丸?釘	8.5	0.8	0.7	8.6	全体に錆汗と砂などが混じり合って砂が付着している	1-35Ⅱa
第41図 4 図版32の4	丸釘	7.2	0.9	0.6	4.0	鉄錆の付着	2工区 Ⅲd

第 21 表 貝製品観察一覧

挿図番号 図版番号	貝種	貝種名	殻高 (cm)	殻長 殻径 (cm)	重さ (g)	孔短径 (cm)	孔長径 (cm)	観察事項	出土地点
第41図 5 図版32の5	二枚貝	シラナミ貝	7.1	— 12.5	73	1.9	3.2	粗雑な穿孔ではあるが、紐擦れ痕が確認できる。	1-14Ⅱa
第41図 6 図版32の6	二枚貝	ヒメジャコ貝	6.0	— 8.55	33	0.95	1.25	非常に丁寧に穿孔されている。紐擦れ痕が明瞭である。	1-17Ⅲc

第 22 表 獸骨出土一覽

[illegible]

第 23 表 貝類出土一覽 (二枚貝)

[illegible]

第 24 表 貝類出土一覽 (卷貝)

グ リ ド	機 種	ニンキウズ機			ソフ グ イ機	ボム キボ 機	タカウガイ機						ソデボウ機		リュウケン機			イモガイ機			オニ コ ブシ機	オニ ツノ ガイ機	基 計
		サラサ イ	ギンタ カハマ	ベニシ リダカ	ラウ ゴイ	バンキ ボウ	ヒメシ ンダカ ラ	オンダ カラ	ハナビ ラダカ ラ	ハナマ ルユキ	キイロ ダカラ	不 朗	クモ ガイ	マガキ ガイ	サウウセ ンサシ	ヤウコウ ガイ	イバシ マイモ	マダラ イモ	ヤナシ ノイモ	不 朗	コヨニ コブシ	オニ ツノ ガイ	
		数	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	
1-2	Ⅱa															1							
1-14	Ⅱa													1									
1-16	Ⅱa		1																			1	
1-28	Ⅱa									1												1	
1-31	Ⅱa		1																			1	
1-32	Ⅱa		1																			1	
1-33	Ⅱa		1																			1	
1-34	Ⅱa		1	1	1									2		1	1					1	
1-35	Ⅱa												1									1	
1-36	Ⅱa								1	1												1	
1-37	Ⅱa				1									1								1	
1-41	Ⅱa					1	1	1														6	
1-42	Ⅱa		1											3								1	
小計		2	4	-	1	1	1	-	1	-	1	-	3	-	1	2	5	-	1	2	-	-	2
2-16	Ⅱb															1						1	
1-17	Ⅱc			1																		2	
1-18	Ⅱc		1				1															1	
2-9	Ⅱd		1																			2	
2-11	Ⅱd																	1				1	
2-14	Ⅱd					1																1	
2-15	Ⅱd															1	2	1		1		1	
2-17	Ⅱd																					1	
2-18	Ⅱd																					1	
2-21	Ⅱd																		2	1	1	1	
2-22	Ⅱd																					1	
3-2	Ⅱf			1																		1	
3-30	Ⅱf										1	1			1							3	
2-2	Ⅱg																					1	
2-19	SD01				1																	1	
小計		1	1	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	6	
合計					10	2	1	1					8		8		9			5	1	1	

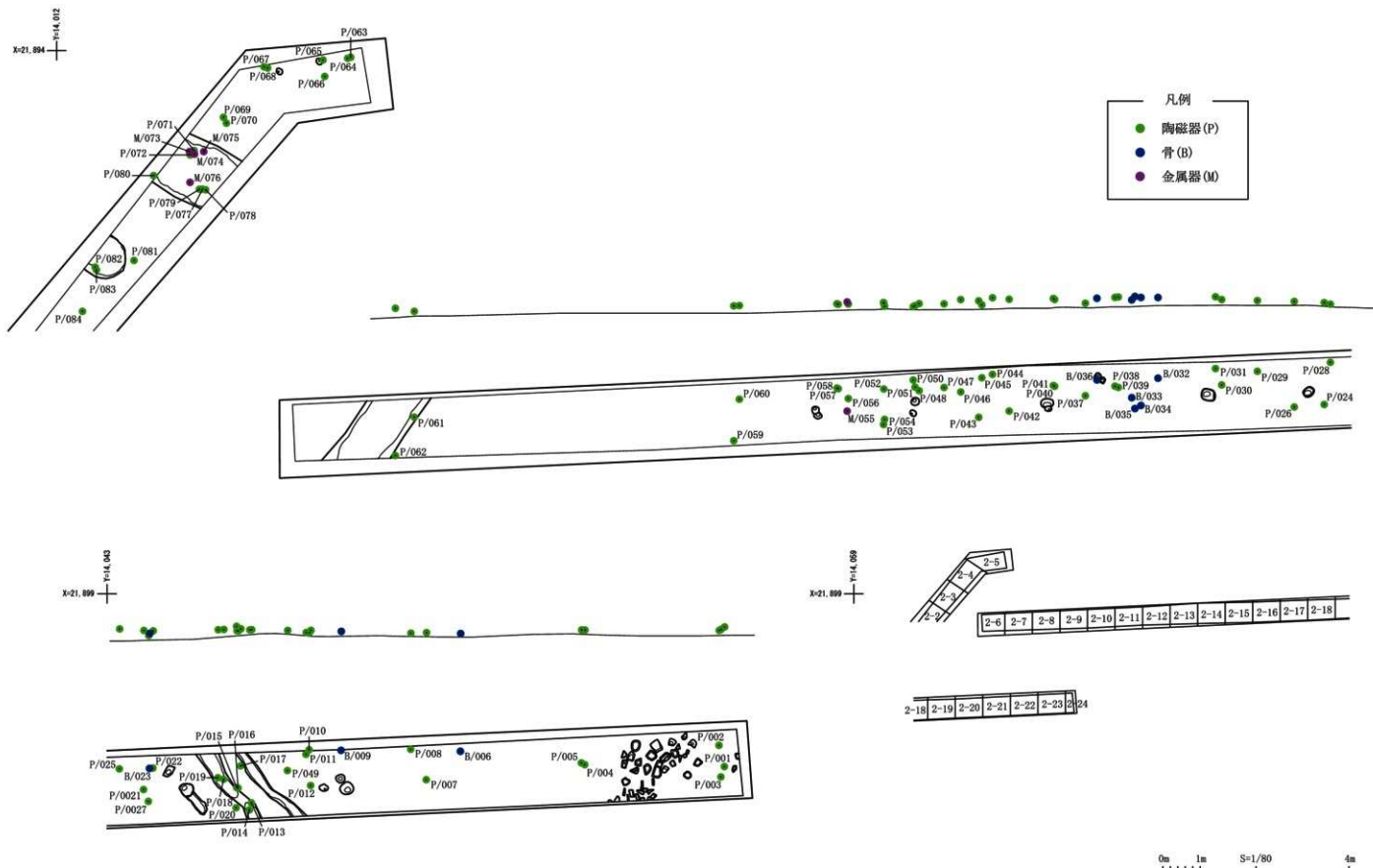
第 25 表 貝類生息地別一覽

科	名称	生息地	出土個数
タリギク科	タンゴイ	海いりサンゴ礁	1
シロヤシ科	シロヤシガサ	浅い砂地のサンゴの周	1
シロヤシ科	ニメシロヤシ	干潮時、干上がるような浅い所から加太島の浅い所	18
	シリナミガイ	やや深い珊瑚礁	30
ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	海いり砂地	1
	カワラギ	海いり砂地	8
ハダガイ科	リュウキュウハダガイ	海いり砂地	1
	ヌノメイ	海いり砂	1
	ラスカマダガイ	海岸上の浅いリーフ外縁部の砂浜	2
マルスダレガイ科	チョウセンハマダガイ	内湾の砂地	3
	ユウダツハマダ	海いり砂	1
	オキナエガイ	ホム（リーフの外縁）のデブコ場の細砂浜	1
	ハイセイ	内湾の浅い砂地	1
フネガイ科	クロミノミヨイ	やや奥の私営水域サンゴ礁の下層	1
サドリミガイ科	イヅハガイ	波打際のあらみ砂	1
フネガイ科	クラウリガイ	アモエ場の細砂-粗砂品	1
リュウキュウスラソイガイ科	リュウキュウスラソイ	海いり砂地	1
	サラヤバヤ	岩礁やサンゴ礁の1～30m	8
ロシケウス科	ヘンシバヤ	お徳方の10cmくらいの高さ	3
	ベニシバヤ	岩礁ややや高い場所	1
ソダガイ科	サダガイ	やや深い珊瑚礁	2
	タモイ	サンゴ礁の砂地	4
	マダモイ	砂地の海面	6
イトモミズガイ科	イモミズガイ	やや深い、岩場	1
ツクリガイ科	ボテツクリガイ	比較的浅い-中深	1
	ヒメボテツクリ	海いり砂地	1
	ホンダカラ	サンゴ礁の内側の砂地や壁上	3
カタラギ科	ハナビラダカラ	サンゴ礁	1
	ハマムシカ	干出した岩礁やサンゴ礁上のごくばみ	1
	ホトハラウ	浅いサンゴ礁	1
	チャウケンササメ	岩礁やサンゴ礁の10～20mの高さ	1
リュウテン科	ヤコウガイ	サンゴ礁の深い穴	5
	イロシヤモ	海いり珊瑚や砂地	1
	マダライモ	海いり珊瑚のくぼみ	1
オホコブシ科	オホコブシ	海いりサンゴ礁	1
オニノフゾガイ科	オニノフゾガイ	岩場	1

《參考文獻》

1. 原色沖繩海中動物生態図鑑 白井祥平著 1977年6月10日初版発行 1990年8月1日5版発行 沖縄教育出版

2. 神國の産の月・神の月 久保弘文・黒住剛二著 1995年8月10日初版1刷 (有) 神國出版

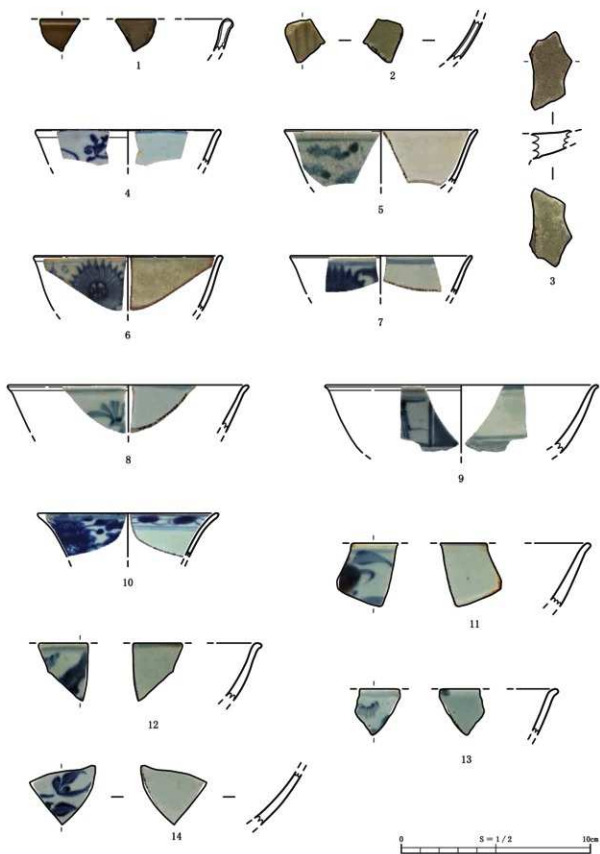


第 22 图 第 2 工区 遺物集中部出土分布図

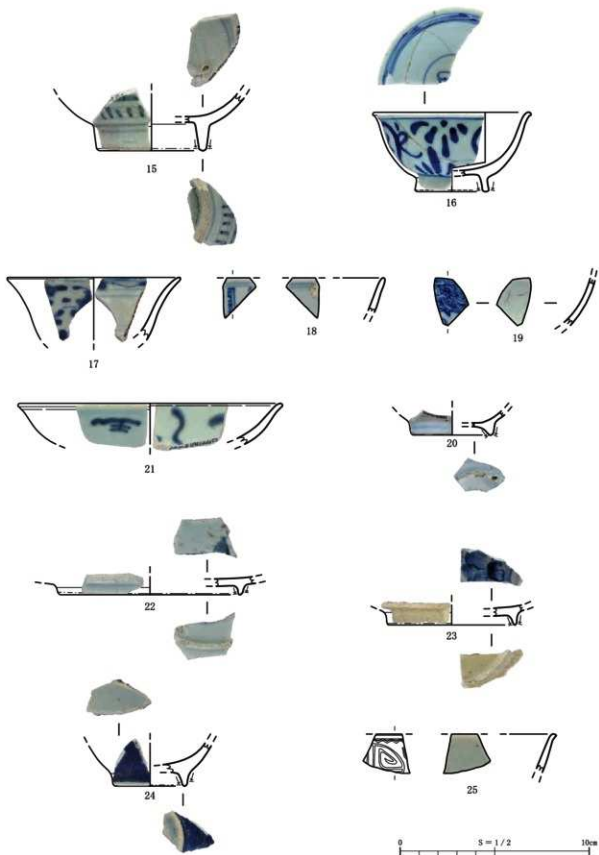
第 26 表 第2工区 遺物集中部出土一覧

遺物番号	層位	品名・器種・残存部位	X	Y	EL	探図番号 図版番号
001	Ⅲd	沖縄産無軸陶器 壺 (底部)	21895.736	14056.226	1.722	-
002	Ⅲd	陶質土器 灯明皿 (口縁部)	21896.191	14056.111	1.646	-
003	Ⅲd	中国産瑠璃釉 碗 (底部)	21895.514	14056.152	1.671	第24図 4 図版14の4
004	Ⅲd	本土産染付 碗 (口縁部)	21895.778	14053.234	1.649	-
005	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (胴部)	21895.815	14053.162	1.651	-
006	Ⅲd	骸骨	21895.572	14050.570	1.587	-
007	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 碗 (底部)	21894.964	14049.839	1.587	-
008	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鍋 (胴部)	21895.615	14049.505	1.574	-
009	Ⅲd	骸骨	21895.367	14048.013	1.609	-
010	Ⅲd	沖縄産無軸陶器 壺 (胴部)	21895.379	14047.328	1.580	-
011	Ⅲd	陶質土器 不明 (胴部)	21895.282	14047.262	1.585	-
012	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 碗 (口縁部)	21894.614	14047.362	1.630	-
013	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 小碗 (底部)	21894.244	14046.091	1.641	-
014	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (胴部)	21894.093	14046.050	1.637	-
015	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 急須 (胴部)	21894.568	14045.777	1.618	-
016	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 碗 (胴部)	21894.559	14045.807	1.615	-
017	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (底部)	21895.035	14045.861	1.660	-
018	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 急須 (注口) 碗 (胴部)	21894.748	14045.496	1.644	-
019	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (口縁部)	21894.780	14045.374	1.638	-
020	Ⅲd	中国産染付 (胴部)	21894.138	14045.765	1.713	-
021	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 碗 (底部)	21894.526	14043.781	1.619	-
022	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (胴部) 壺 (胴部)	21894.988	14043.982	1.611	-
023	Ⅲd	骸骨	21894.981	14043.908	1.555	-
024	Ⅲd	本土産磁器 角鉢 (口縁部)	21894.197	14042.425	1.588	第26図 9 図版16の9
025	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (胴部) 壺 (胴部)	21894.970	14043.263	1.650	-
026	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 急須 (口縁部)	21894.143	14041.784	1.614	-
027	Ⅲd	沖縄産無軸陶器 搦鉢 (口縁部)	21894.274	14043.884	1.510	-
028	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 鉢 (胴部)	21895.098	14042.558	1.555	-
030	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 按瓶 (持手)	21894.616	14040.229	1.653	-
031	Ⅲd	本土産磁器 (型紙) 碗 (口縁部)	21894.966	14040.096	1.713	-
032	Ⅲd	骨製品 ハブラシの柄	21894.759	14038.864	1.697	-
033	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 つまみ (中央有孔)	21894.343	14038.302	1.647	-
034	Ⅲd	中国産青花 (胴部) 中国産染付 碗 (口縁部)	21894.175	14038.498	1.698	第23図 4 図版13の4
035	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 急須 (胴)	21894.109	14038.369	1.720	-
036	Ⅲd	本土産磁器 鉢 (口縁部)	21894.722	14037.556	1.681	第26図 8 図版16の8
037	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 碗 (胴部)	21894.384	14037.308	1.575	第30図 7 図版20の7
039	Ⅲd	沖縄産無軸陶器 壺 (胴部)	21894.562	14038.014	1.708	-
040	Ⅲd	沖縄産施軸陶器 小碗 (底部)	21894.587	14036.650	1.655	-
041	Ⅲd	本土産磁器 碗 (底部)	21894.603	14036.622	1.676	-
042	Ⅲd	本土産磁器 (蓋)	21894.056	14035.675	1.660	-
044	Ⅲd	本土産陶器 器種不明	21894.841	14035.318	1.692	第29図 40 図版19の40

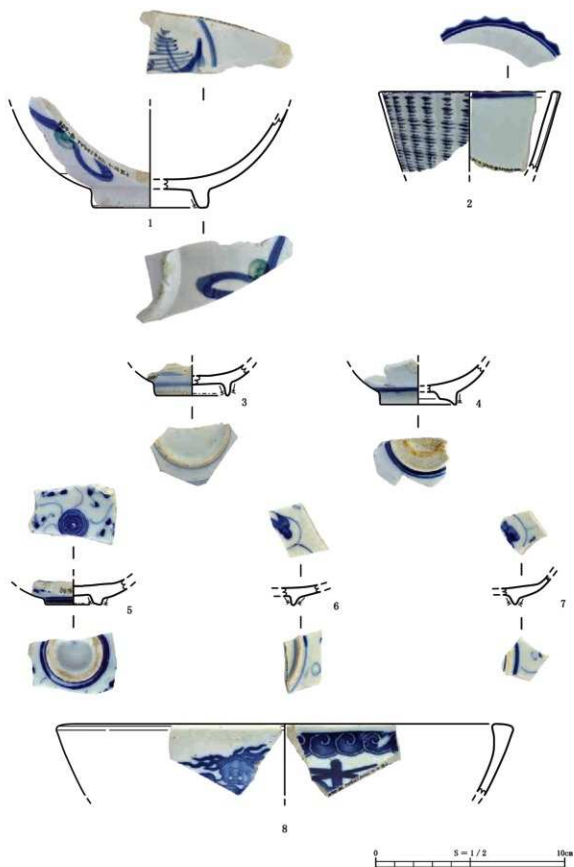
遺物番号	層位	品類・器種・残存部位	X	Y	EL	挿図番号 図版番号
045	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須（注口） 鉢（底部）	21894.769	14035.090	1.540	第31図 22 図版21の22
046	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 鉢（口縁部）	21894.465	14034.637	1.653	-
047	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 擂鉢（口縁部）	21894.561	14034.280	1.562	-
048	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 鉢（口縁部）	21894.492	14033.746	1.565	-
049	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須の蓋（摘み）	21894.935	14046.864	1.627	-
050	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須（胴部）	21894.721	14033.620	1.502	-
051	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 鍋（胴部）	21894.569	14033.658	1.523	第32図 30 図版22の30
052	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 鉢（胴部）	21894.528	14032.989	1.576	-
053	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 碗（口縁部）（底部）	21893.768	14032.983	1.591	第30図 1・2 図版22の1・2
054	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 鉢（口縁部）	21893.877	14033.005	1.510	-
055	Ⅲd	銭貨（寛永通宝）	21894.053	14032.203	1.602	第40図 8 図版30の8
056	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須（胴部）	21894.324	14032.229	1.558	-
057	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 蓋	21894.534	14032.013	1.553	-
058	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 甕（口縁部）	21894.548	14031.984	1.562	第35図 12 図版25の12
059	Ⅲd	陶質土器 急須（蓋）	21893.421	14029.774	1.519	第38図 14 図版28の14
060	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 壺（胴部）	21894.308	14029.895	1.525	-
061	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 擂鉢（口縁部）	21893.926	14022.929	1.402	-
062	Ⅲd	本土産磁器 皿（口縁部）	21892.943	14022.524	1.467	第27図 20 図版17の20
063	Ⅲd	本土産磁器 皿（底部）	21893.858	14018.300	1.531	第28図 25 図版18の25
064	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 鉢（胴部）	21893.836	14018.233	1.529	-
065	Ⅲd	中国産磁器 碗（底部）	21893.800	14017.707	1.553	第23図 6 図版13の6
066	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須（胴部） 急須（口縁部）	21893.448	14017.743	1.530	-
067	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 小碗（底部）	21893.654	14016.441	1.468	第30図 16 図版20の16
068	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 碗（底部）	21893.627	14016.520	1.481	-
069	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 碗（底部）	21892.573	14015.573	1.478	-
070	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 壺（胴部）	21892.447	14015.636	1.497	-
071	Ⅲd	本土産施釉陶器 擂鉢（胴部）	21891.862	14014.944	1.457	-
072	Ⅲd	本土産磁器 碗（口縁部）	21891.766	14014.859	1.426	-
073	Ⅲd	鉄塊	21891.838	14014.844	1.429	-
074	Ⅲd	鉄釘	21891.817	14014.874	1.446	-
075	Ⅲd	鉄塊	21891.783	14014.952	1.452	-
076	Ⅲd	鉄塊	21891.179	14014.857	1.468	-
077	Ⅲd	本土産磁器 碗（底部） 白磁摩 碗（底部）	21891.034	14015.125	1.466	第29図 38 図版19の38
078	Ⅲd	本土産磁器 碗（口縁部）	21891.021	14015.191	1.447	-
079	Ⅲd	沖縄産無釉陶器 擂鉢（底部）	21891.032	14015.058	1.414	-
080	Ⅲd	ガラス製品 瓶（底部）	21891.324	14014.076	1.490	-
081	Ⅲd	本土産磁器 碗（底部）	21889.508	14013.656	1.579	第25図 1 図版15の1
082	Ⅲd	中国産施釉陶器（胴部）	21889.364	14012.825	1.497	-
083	Ⅲd	沖縄産施釉陶器 急須（底部）	21889.306	14012.851	1.511	-
084	Ⅲd	本土産磁器 皿（底部）	21888.417	14012.552	1.487	第28図 30 図版18の30



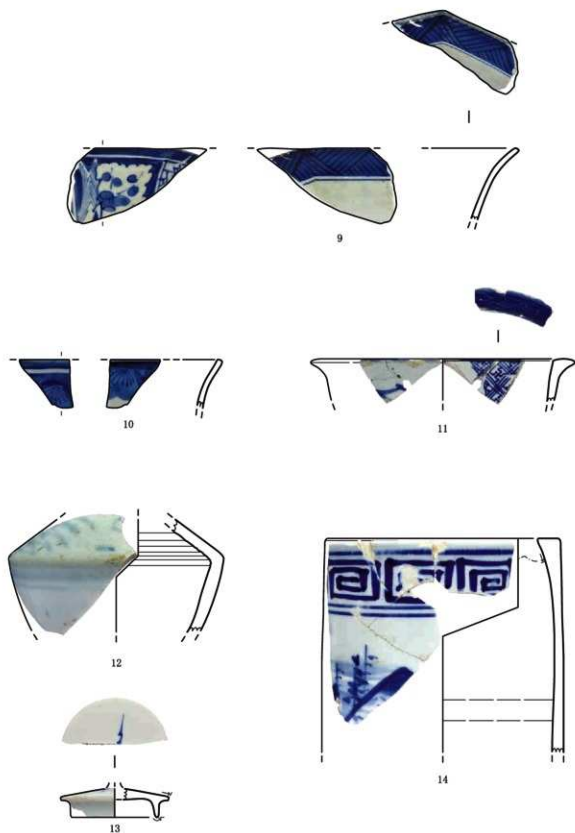
第 23 图 (图版 14) 中国産磁器



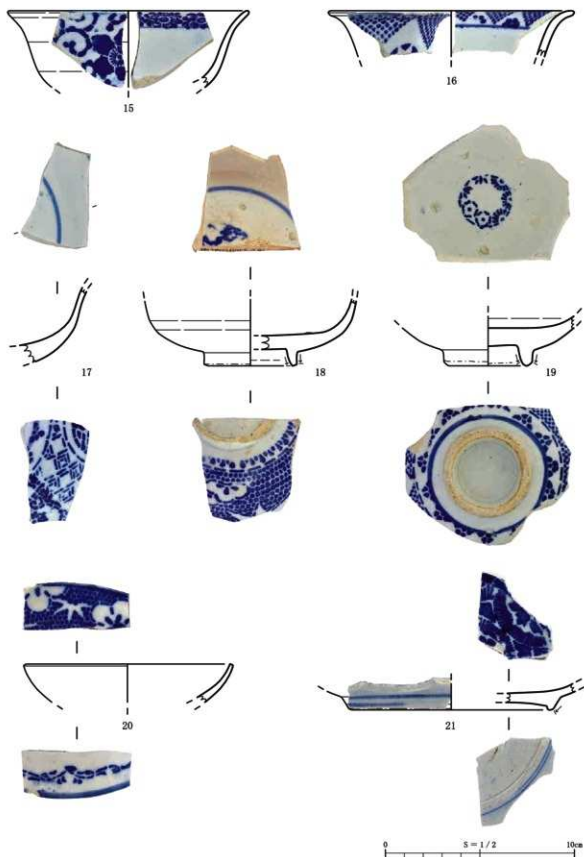
第 24 図 (図版 15) 中国産磁器



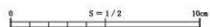
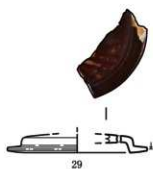
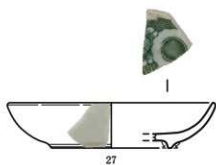
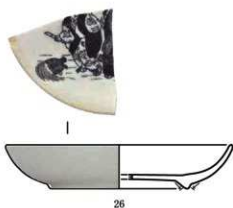
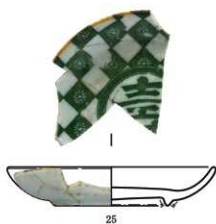
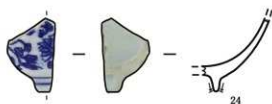
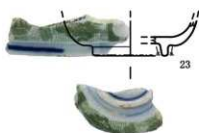
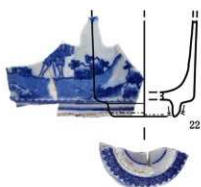
第 25 図 (図版 16) 本土産染付



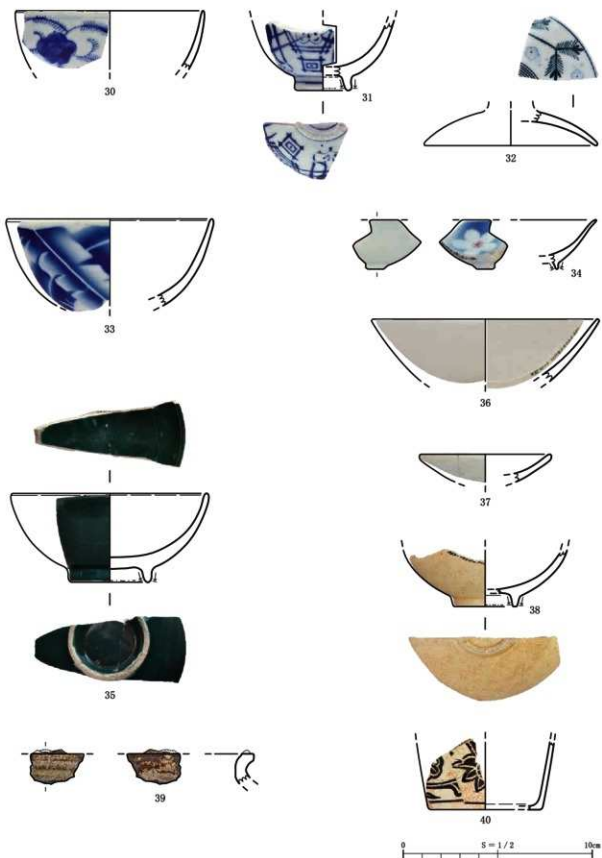
第 26 図 (図版 17) 本土産染付



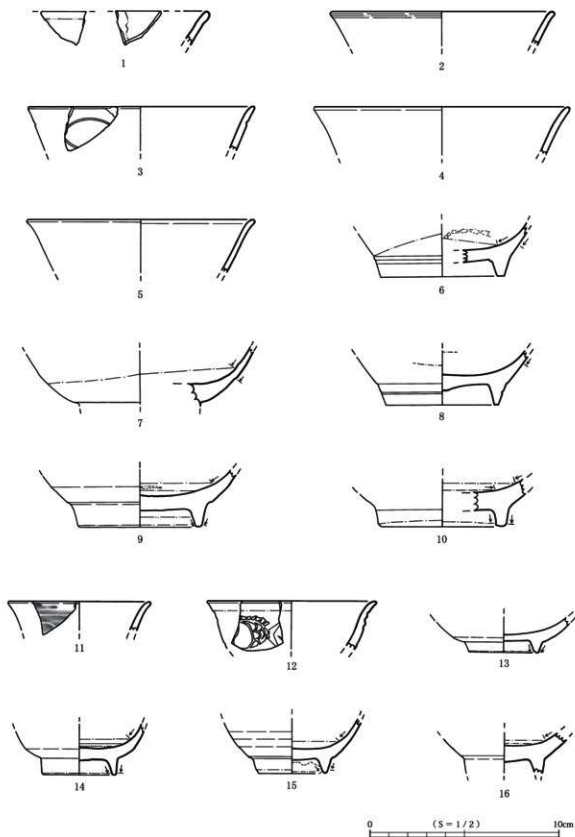
第 27 図 (図版 18) 本土産磁器



第 28 図 (図版 19) 本土産磁器



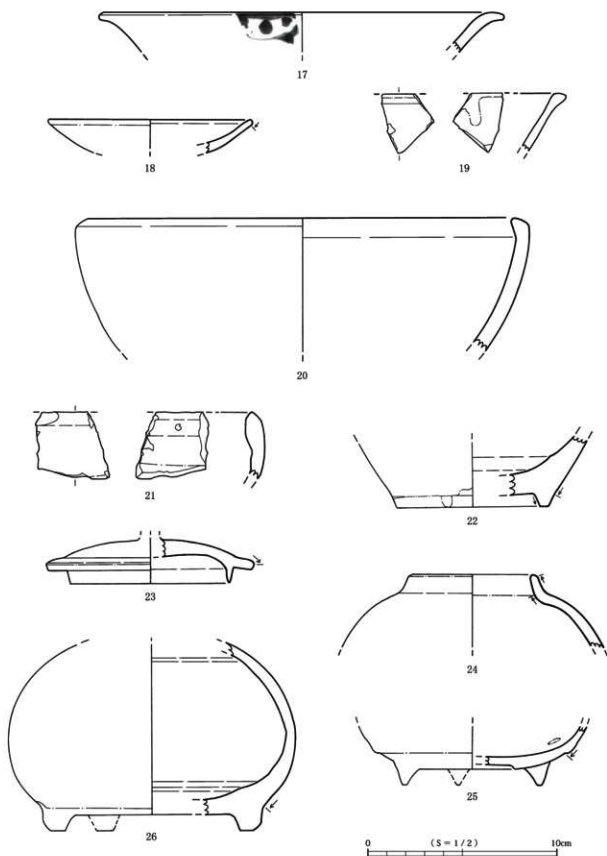
第 29 圖 (圖版 20) 本土產磁器
本土產陶器



第30図(図版21) 沖縄産施釉陶器



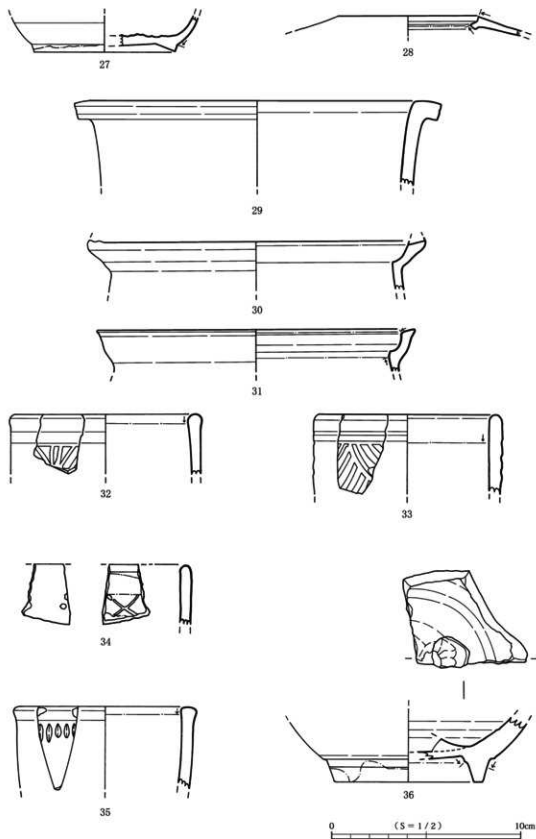
図版 21 (第 30 図) 沖縄産施釉陶器



第31図(図版22) 沖縄産施釉陶器



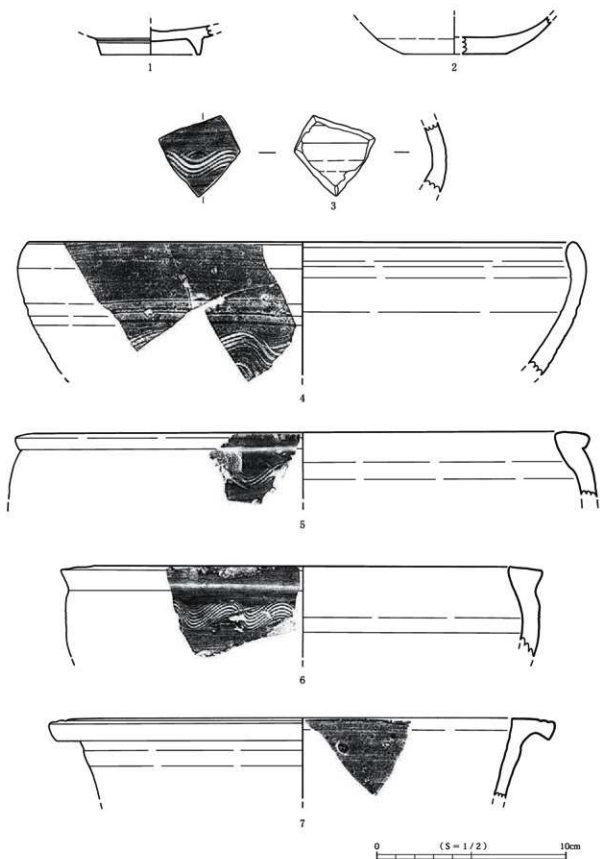
図版 22 (第 31 図) 沖縄産施釉陶器



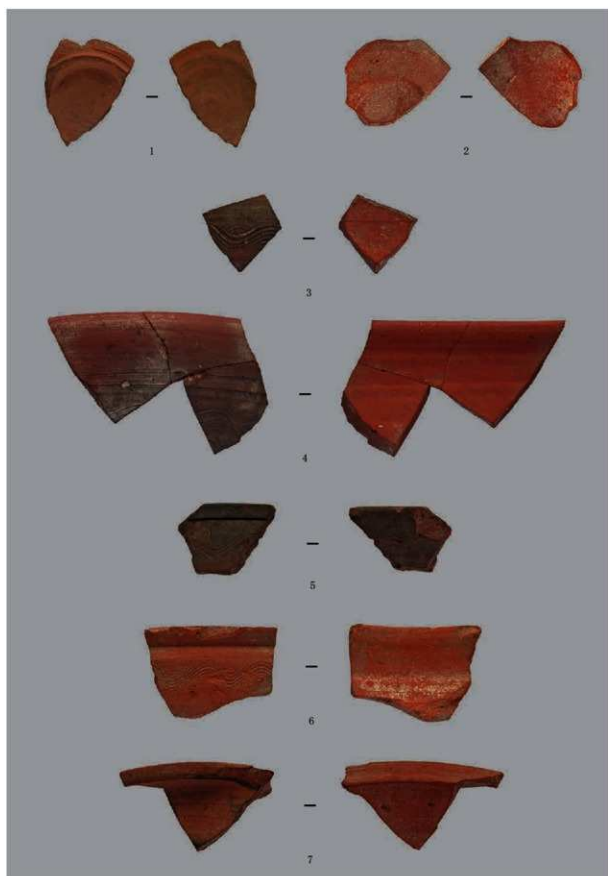
第 32 図 (図版 23) 沖繩産施釉陶器



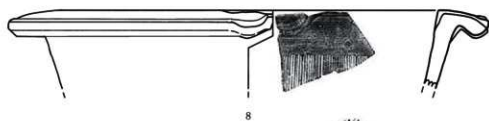
図版 23 (第 32 図) 沖繩産施釉陶器



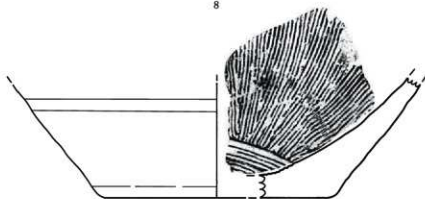
第 33 図 (図版 24) 沖縄産無釉陶器



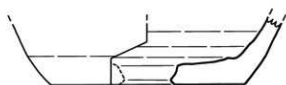
図版 24 (第 33 図) 沖縄産無釉陶器



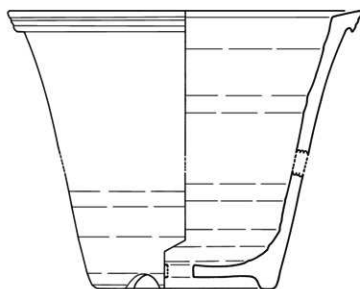
8



9



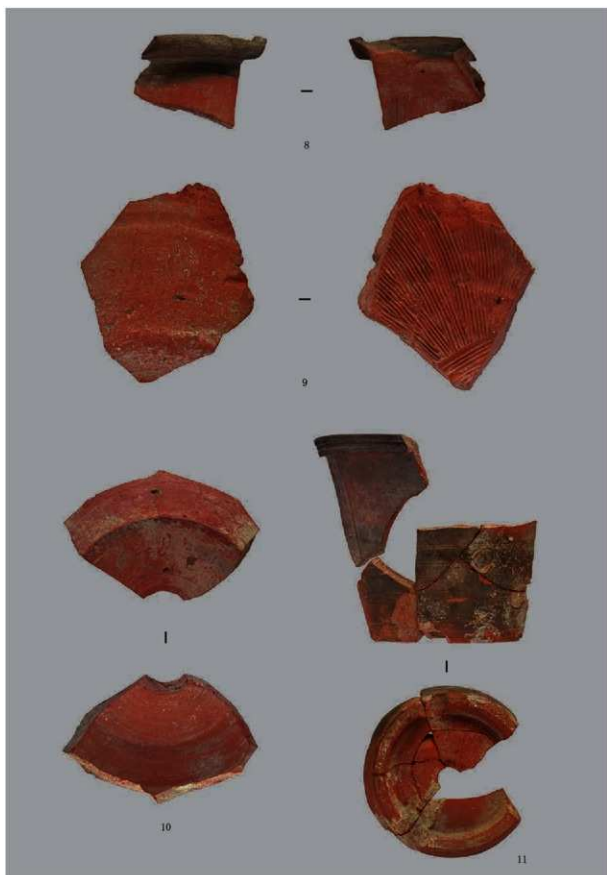
10



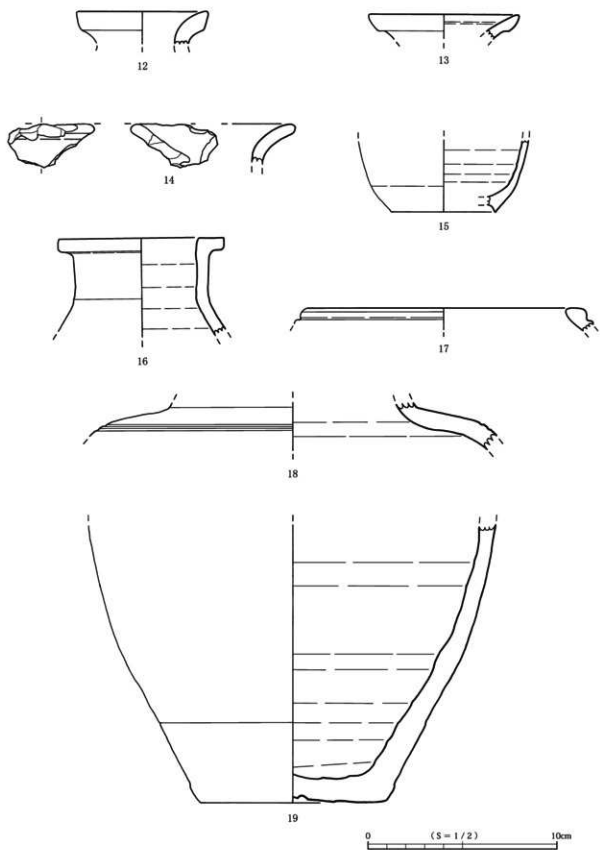
11

0 (S = 1/2) 10cm

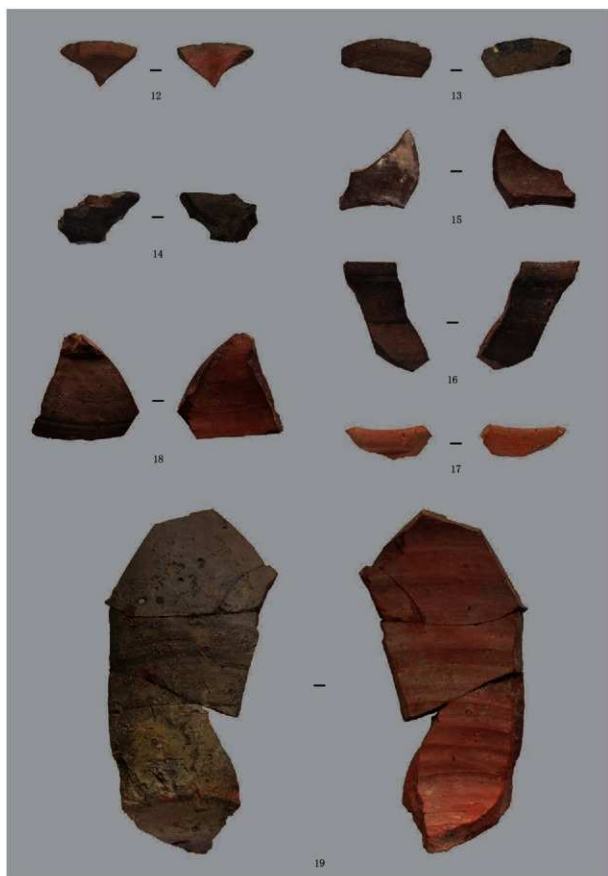
第 34 図 (図版 25) 沖縄産無釉陶器



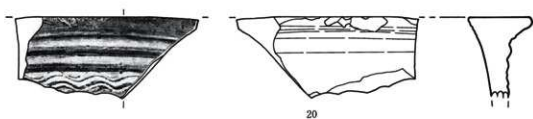
図版 25 (第 34 図) 沖繩産無釉陶器



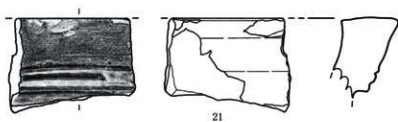
第 35 図 (図版 26) 沖縄産無釉陶器



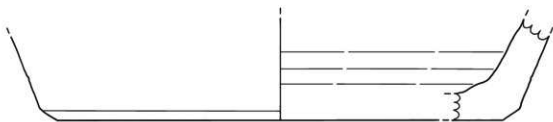
図版 26 (第 35 図) 沖繩産無釉陶器



20



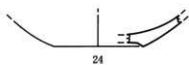
21



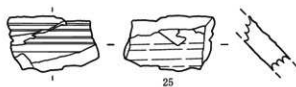
22



23



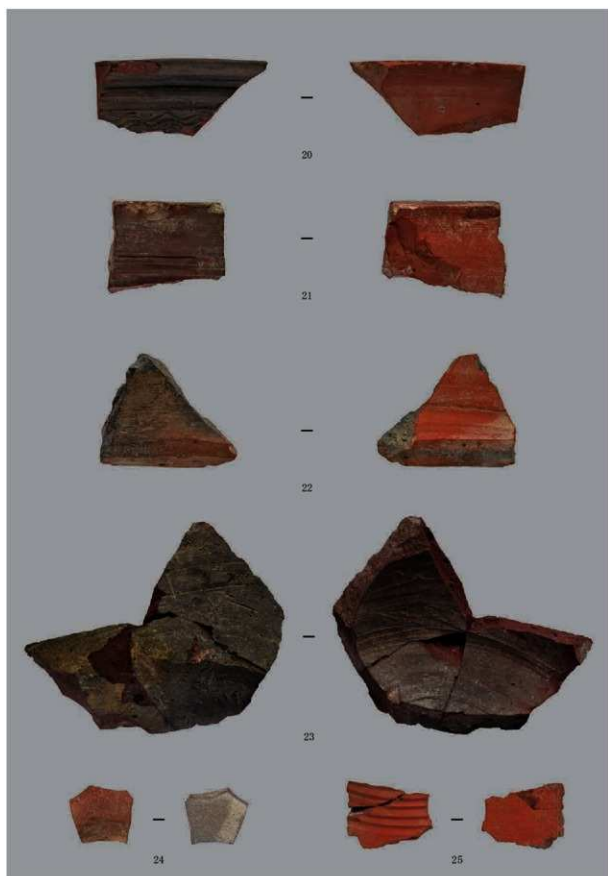
24



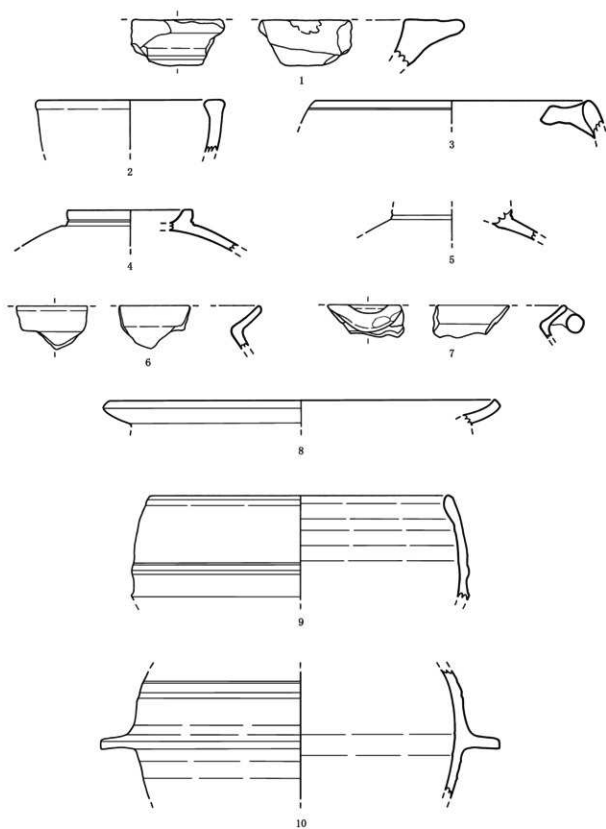
25

0 (S = 1/2) 10cm

第 36 図 (図版 27) 沖縄産無釉陶器

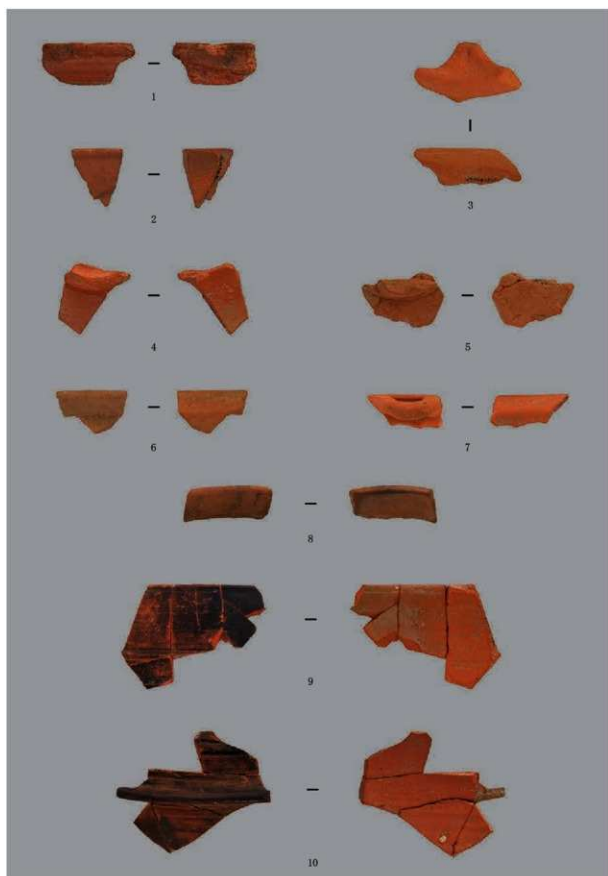


図版 27 (第 36 図) 沖縄産無釉陶器

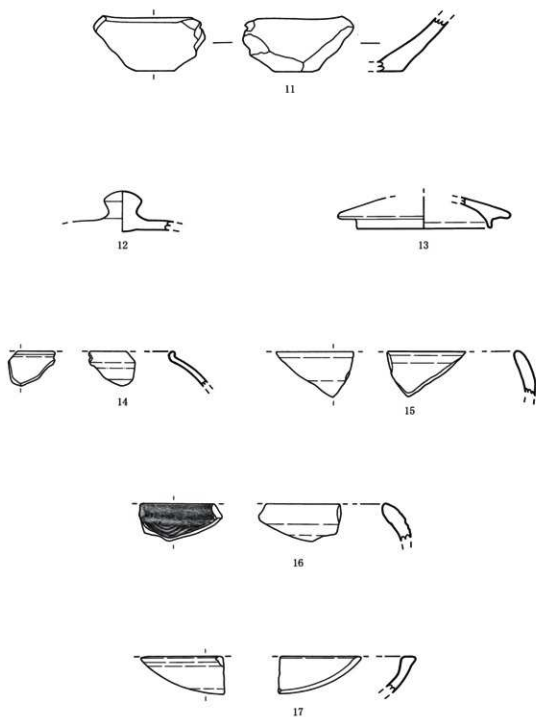


0 (S = 1/2) 10cm

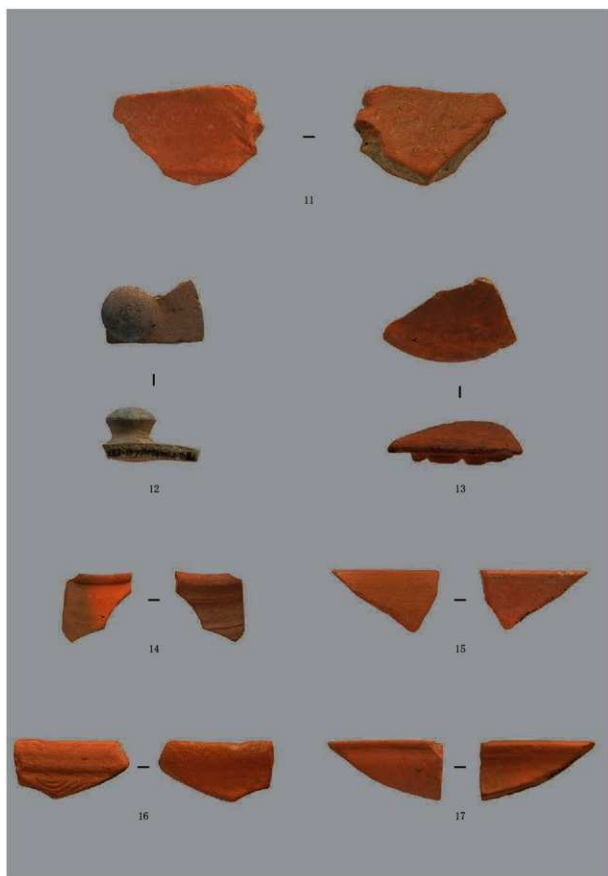
第 37 図 (圖版 28) 陶質土器



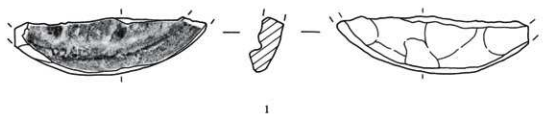
圖版 28 (第 37 圖) 陶質土器



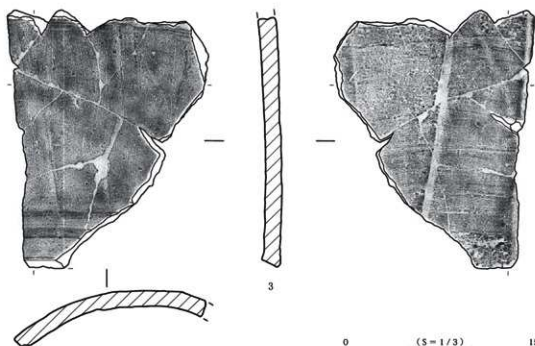
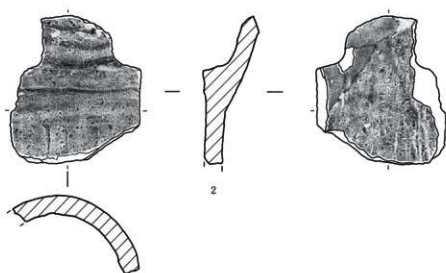
第 38 図 (圖版 29) 陶質土器



圖版 29 (第 38 圖) 陶質土器

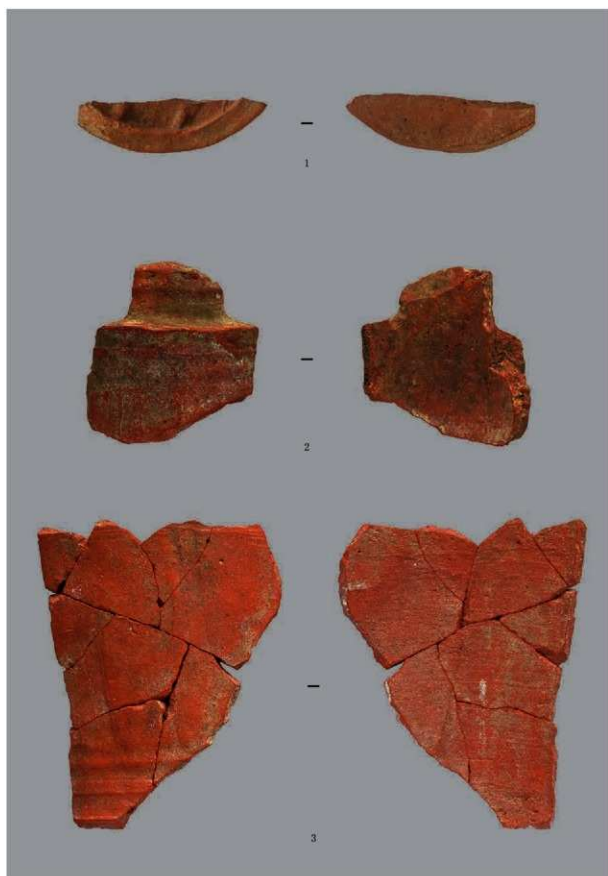


0 (S = 1/2) 10cm

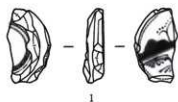


0 (S = 1/3) 15cm

第 39 図 (圖版 30) 瓦



圖版 30 (第 39 圖) 瓦



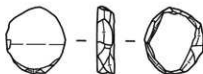
1



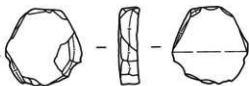
2



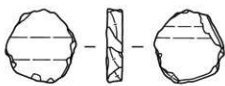
3



4

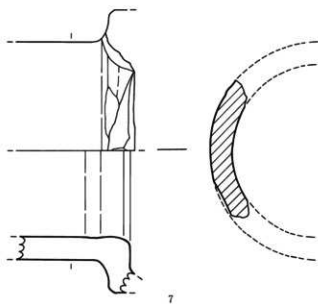


5

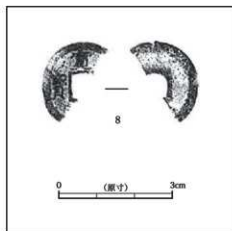


6

0 (S = 1/2) 10cm



7



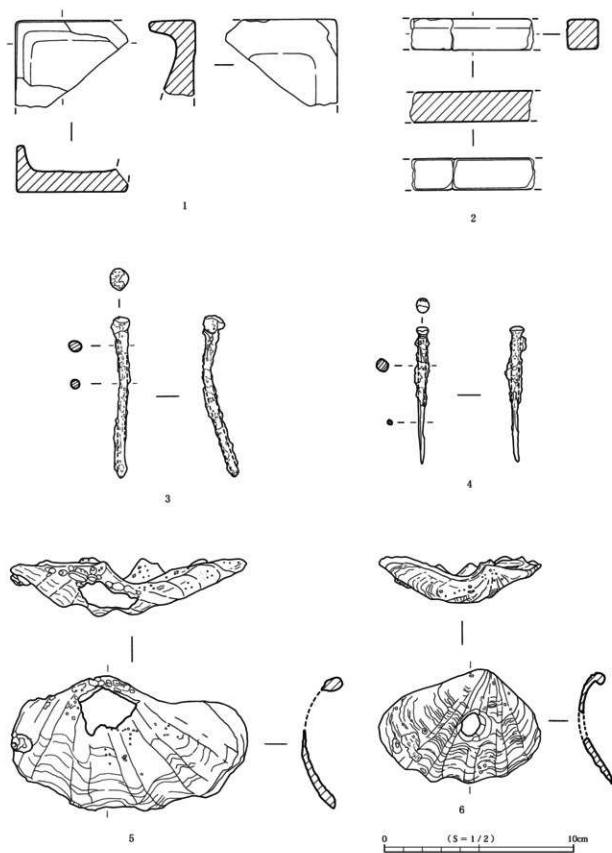
8

0 (原寸) 3cm

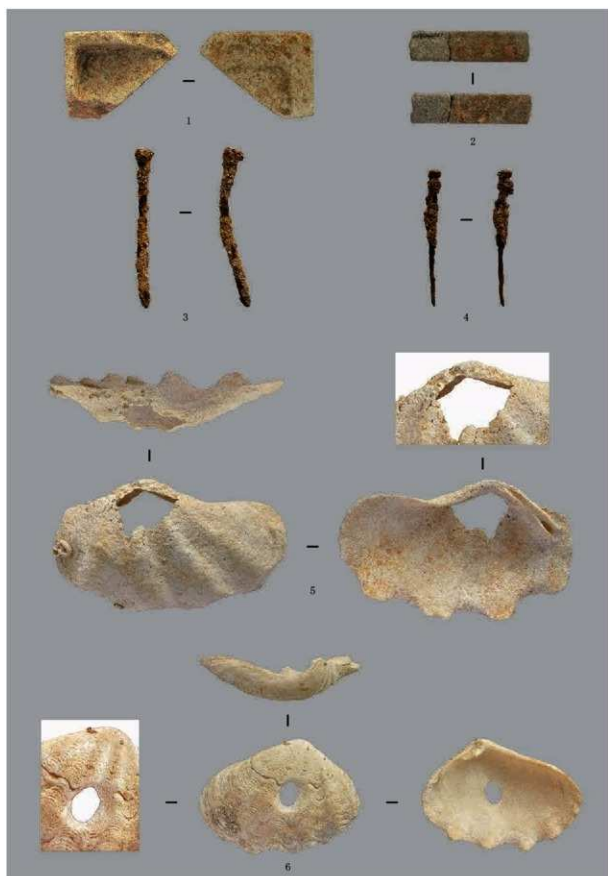
第40図(図版31) 円盤状製品・土管・銭貨



図版 31 (第 40 図) 円盤状製品・土管・銭貨



第41圖(圖版32) 硯・文鎮・釘・貝製品



圖版 32 (第 41 圖) 碗・文鎮・釘・貝製品

第Ⅶ章 まとめ

大嶺村は現在的那覇空港西側管理区域（大嶺地区）に所在した集落である。平成 19 年度から那覇市教育委員会が実施している那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査においてピットならびに遺物包含層が確認された範囲に消防車庫新築工事に伴う給・排水管理設工事が行われる事となったため、平成 21 年度に那覇市教育委員会が緊急発掘調査を実施した。調査区は幅約 1.5m、総延長 210m の細長いものとなり、3 工区に分けて発掘調査を行った。

第 1 工区では地山まで戦後の造成土が堆積し、遺構の確認はできなかった。第 2 工区では三層の遺物包含層とピット 18 基、溝状遺構 5 条、耕作痕（30 基）が検出できた。ピットは概して浅いため柱穴の可能性は低く、隣接して畝や耕作痕などが検出されていることから植栽痕の可能性が高いと考えた。第 3 工区では二層の遺物包含層を確認し、最下層からは溝状遺構 5 条、耕作痕及び植栽痕（約 240 基）が検出された。溝状遺構は畝の谷間として確認できたものと、道であった可能性の考えられるものとに分けられる。耕作痕及び植栽痕は 2・3 工区合わせて約 270 基検出できた。『大嶺の今昔』付図の民俗地図でも 2・3 工区周辺は畑と記載されている。耕作痕及び植栽痕の平面形について三角形や長方形、半月状を呈するものは耕作痕と考え、円形に近いものは植栽痕でないかと考えた。その深さは検出状況によってばらつきがあったが、残存状況の良いものでおよそ 3～5cm 前後のものであった。耕作痕の幅は 13～15cm 程で、平面形のバリエーションの豊富さは土に鋤を入れた際の傾きや土を起す際の力加減によるものと考えられる。この事について株式会社バスコ沖縄が鋤跡実証実験を行った。以下に結果を掲載したが、今回の調査で得られた耕作痕にもよく似た形状を持つものが見られた。踏跡による耕作痕も確認できている（後述の松田先生の所見による）ので、鋤と鋤が使用されていた事は間違いない。植栽痕については、『大嶺の今昔』には戦前の宇大嶺にはダイコン・ネギ・キャベツ等の野菜類も換金作物として栽培されていたことが記載されており、その形状やサイズから、大根の可能性を考えた。当時、大嶺村北側に位置する鏡水村は砂地で農業に向かない土地を入念な砂質土作りによって、カガンジデークニ（鏡水大根）の一大産地とした。カガンジデークニは小禄は勿論のこと沖縄を代表する産物となったもので小禄間切口説にも謳われている。大嶺村でもカガンジデークニが栽培されていたと考えられる。参考までに陸上自衛隊那覇駐屯地内のミヌシンに設置されているカガンジデークニ碑文の写真を掲載する。



図版 33 鋤跡実証実験



図版 34 使用した鋤



図版 35 カガンジデークニ碑文

- (1: 垂直に振り下ろしたもの。2: 鋤先をやや写真上方向に傾けて入れたもの。
3: 土を起す際に緩やかに鋤を抜いたもの。)

土層の堆積状況より近世の大嶺村から近代(明治・大正・昭和初期)、戦後の那覇飛行場を経て、復帰後の那覇空港までの経緯を確認する事ができた。なお、平成 20 年度に行った那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査において噴砂にも見えるような土層の堆積が見られたため、地震の痕跡ではないかと考えた。そこで自然地理学が専門の松田順一郎先生(史跡鴻池新田会所管理事務所副所長)に第 2 工区の土層堆積状況についてご教示頂いた。以下に先生による所見を記す。『発掘調査範囲において、地震動による液状化にともなう砂脈、堆積物の粘塑性変形などの疑いのある部分を調査トレンチで実見した結果、(1)暗褐色の畑地作土と考えられる泥質砂層と直下の初生ないしはわずかに攪乱された乳白色のバックリフ堆積物との境界で見られた、深さ 30cm 以下、水平の変異幅 50cm 以下の凸凹の多くは、踏鋤のような道具の痕跡で、不規則で浅いものも人為的な掘り返しなどによるものと判断された。鋤の幅は 20 数 cm。(2) 上述の作土あるいは包含層が薄く、その上位に盛土が載るところでは、盛土と作土の境界にさまざまなスケール(幅数 10cm から数mm)の下に凸な荷重痕が見られた。これらは盛土・整地時の輾転によるものと判断された。

発掘調査地の大嶺村生活面と耕作土の基盤をなす堆積層は、わずかに泥が混じる枝サンゴ・貝殻片からなる砂礫を主とする浜堤堆積物だが、現世海岸の観察から、通常は比較的乾燥状態で、地下水で飽和する事はほとんどないと考えられる。不飽和堆積物でも液状化は起こるが、基本的に粒径の揃った細かい砂を含む泥で、枝サンゴ砂礫では起こらないと思われる。たとえ同層が飽和していても、間隙水圧を高めるほど上位の堆積層の不透水性はなく、噴砂現象には至らない可能性が高い。また、島尻層群の半固結泥岩・砂岩と琉球層群の石灰岩は、地震動に対して亀裂や断層など脆性破壊による変形が卓越し、上位の砂質堆積物の液状化による流動・塑性変形を助長するような応答はあまりないと考えられる。』以上、那覇空港大嶺地区で見られた噴砂のような痕跡は地震によるものではなく、大嶺村時代には耕作痕その後は盛土・整地時の輾転によるものである事をご教示頂いた。

遺物は中国産磁器・本土産磁器・沖縄産陶器・陶質土器・銭貨・硯や文鎮などをはじめ瓦や土管など生活全般にかかる遺物が多数出土した。315㎡の調査範囲から 2000 点あまりの瓦の破片が出土した事は字全体の約 4 割が瓦葺きという記述を裏付けていると考えられる。また、今回つば糊用の碗が出土した。つば糊は織る前に糸を糊の入った器にくぐらせながら、糊付け補強することである。『大嶺の今昔』には換金産業として小祿紺または小祿紺地(方言名:ウルクンジー)とも呼ばれる木綿の織物が盛んに織られていた事が記載されている。沖縄では苧麻と共に木綿の手紡糸にも、つば糊が行われていたと考えられる。(下記の図も併せて平良美由紀氏よりご教示頂いた。)

参考までにつば糊の使用法を示した図を掲載する。



第 42 図 つば糊使用例

出土遺物の整理中に本土産磁器(器種不明口縁部、第 1 工区 IIa 層出土)の側面に接ぎ痕の可能性のある資料を確認した。江戸の町では、瀬戸物が割れた際に金継ぎだけでなく、白玉粉で接着してから加熱する焼接ぎが行われていた(『守貞漫稿』喜多川守貞著 嘉永 6 (1853) 年等)事は知られている。方法は別としても割れた茶碗を“接ぐ”という作業が県内でも行われていた可能性はあ

ると考え、今回、化学分析等を行ったのではなく詳細は不明であるが、参考までに写真を掲載する。今後、類例資料を探し、詳細な検討を行いたい。



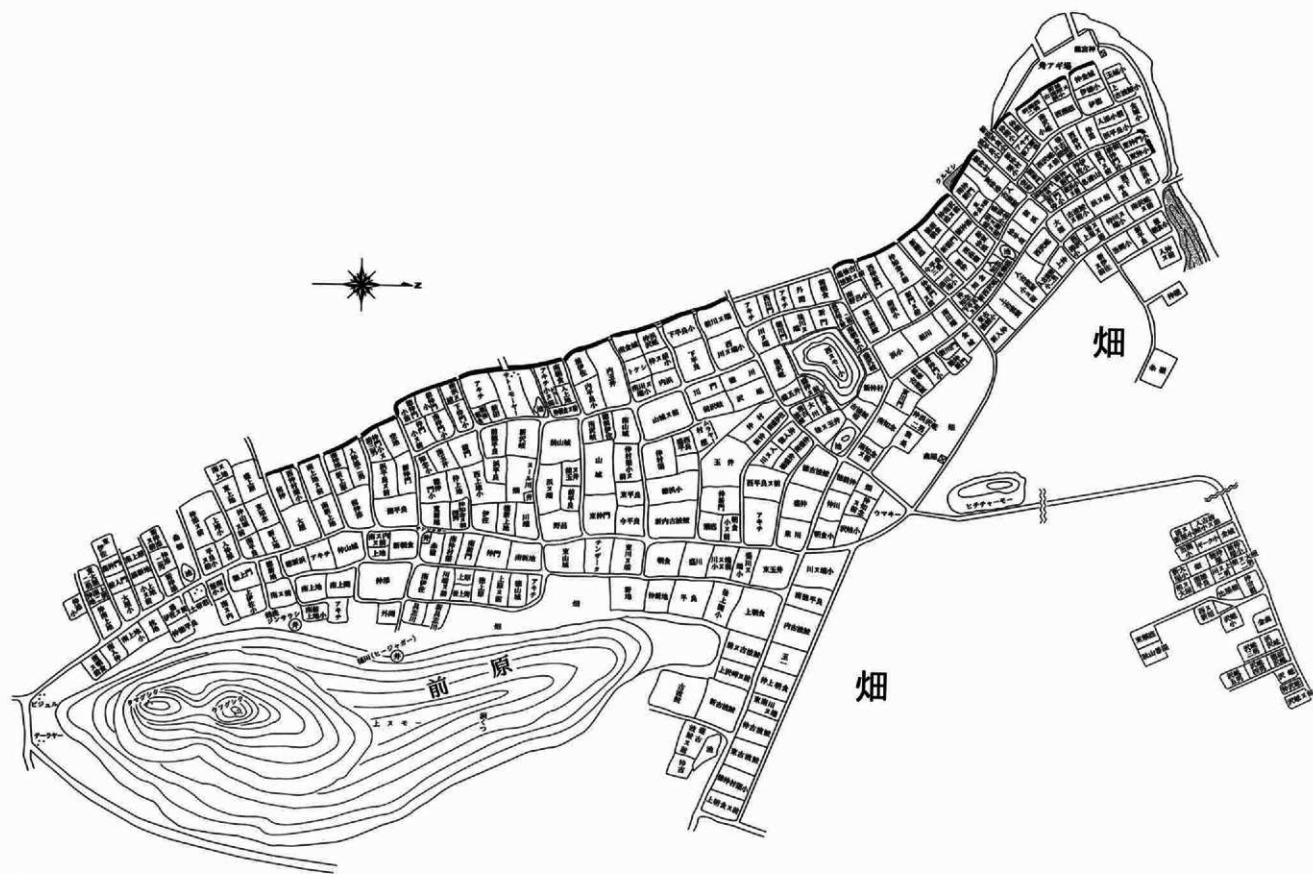
図版 36 側面に接ぎ痕?のある磁器片

以上、若干のまとめを行った。今回の発掘調査にて検出された遺構や多くの出土遺物また土層の堆積状況から、近世の大嶺村から戦前の小禄村宇大嶺時代までの人々の生活の様子や、近世から現代までの大嶺地区一帯に関する変遷過程を窺う事が出来た。また、『大嶺の今昔』の記載事項について、若干の補足をすることもできた。

今後、那覇空港大嶺地区において開発が行われる際には、同地区に所在する埋蔵文化財に対して今回の発掘調査成果や平成 19 年度から行われている那覇空港大嶺地区埋蔵文化財分布調査成果をもとに、十分な配慮がなされることを願う。

《参考文献》

- | | | |
|---------------|------|--|
| 宇大嶺向上会 | 2008 | 『大嶺の今昔』 |
| 衣生活研究会 村野 圭市著 | 1975 | 手織りのすべて |
| 浦添市教育委員会 | 1992 | 城間遺跡-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅲ- |
| 浦添市教育委員会 | 2007 | 浦添ようどれⅢ金属工房跡編
-史跡浦添城跡復元整備事業に伴う発掘調査報告- |
| 沖縄県教育委員会 | 1993 | 湧田古窯跡(Ⅰ)-県庁舎行政棟建設に係る発掘調査- |
| 沖縄県教育委員会 | 1995 | 湧田古窯跡(Ⅱ)-県庁舎行政棟建設に係る発掘調査- |
| 沖縄県教育委員会 | 1999 | 喜友名貝塚・喜友名グスク
-宜野湾北中城線(伊佐~普天間)道路改築事業に伴う
緊急発掘調査報告書(Ⅰ)- |
| 沖縄県立埋蔵文化財センター | 2001 | 天界寺跡(Ⅰ)
-首里社館地下駐車場入り口建設工事に伴う緊急発掘調査- |
| 沖縄県立埋蔵文化財センター | 2004 | 首里城跡 一城の下地区発掘調査報告書- |
| 沖縄県立埋蔵文化財センター | 2007 | 渡地村跡 一臨港道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告- |
| 加藤嘉太郎著 | 1991 | 家畜比較解剖図説 一上巻一 養賢堂発行 |
| 那覇市教育委員会 | 2005 | 首里旧真和志村跡 一個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査- |
| 那覇市教育委員会 | 2006 | 住吉遺跡 一電線布工事に係る緊急発掘調査報告書- |
| 那覇市教育委員会 | 2009 | 那覇市内遺跡Ⅱ 一個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査- |
| 那覇市教育委員会 | 2009 | 首里内金城村跡石畳道
-首里金城町下水道整備事業に伴う緊急発掘調査報告- |
| 那覇市教育委員会 | 2009 | 垣花村跡
-那覇港湾施設管理棟整備工事に伴う緊急発掘調査報告書- |
| 那覇市教育委員会 | 2010 | 鏡水土砂場原A遺跡
-陸上自衛隊那覇駐屯地整備建設工事に伴う緊急発掘調査報告- |
| 那覇市教育委員会 | 2011 | 垣花村跡 一那覇港湾内下水道工事に伴う緊急発掘調査報告- |



第 43 図 昭和 16 年当時の字大嶺民俗地図

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおみねむらあと
書 名	大 嶺 村 跡
副 書 名	那覇空港消防車庫新築工事に伴う緊急発掘調査報告
巻 次	
シ リ ーズ 名	那覇市文化財調査報告書
シ リ ーズ 番号	第 89 集
編 著 者 名	北條 真子
編 集 機 関	那覇市教育委員会 文化財課
所 在 地	〒 900-8553 沖縄県那覇市前島3-25-1 TEL 098-891-3501
発 行 年 月 日	2012 (平成 24) 年 3 月 15 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
おおみねむらあと 大 嶺 村 跡	おほし 那 覇 市 おほおぎ おおみね 大 字 大 嶺	47201		26度 11分 45秒	127度 38分 25秒	2009. 9	約 315 m ²	那覇空港 消防車庫 新築に伴 う給・排 水管理設 工事
				26度 11分 50.7秒	127度 38分 24.5秒	5		
				26度 11分 51秒	127度 38分 29秒	2010. 2		

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大嶺村跡	集落 (畑)	近 世 一 近 代	耕作痕 (銀・金助跡) 植栽痕 円形ピット 溝状遺構 性格不明土坑	青磁・青花 木土産陶磁器 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 赤色系瓦片 貝製品 古銭 (寛永通宝) 軟骨等	

要 約	那覇空港内における消防車庫の新築工事に伴ない、給排水管理設工事予定地において発掘調査が必要となったため当該地に調査範囲 (315m²) を設定し、発掘調査を実施した。調査区内において、舗装箇所ではアスファルトを剥いだ後、調査範囲全域で磁気探査による不発弾等の爆発物の有無を確認した。その後、ドラグ・ショベルにより1mほど堆積した客土の除去を行った。客土以下約15cm～30cmの遺物包含層に関しては、人力掘削を行い、遺物の取上げと遺構の検出を行った。その過程で遺物及び遺構の検出状況や地層の堆積状況の実測図作成及び写真撮影を実施した。調査区は3工区にわけて調査を行ったが、第1工区では明確な遺構等を確認することはできなかった。これは戦後の造成によるものだと考えられた。第2・3工区では様相は若干異なるが、耕作に伴う想定できる工具痕や植栽痕を多数確認することができた。また、土層堆積状況について理解を深め、遺跡の解釈をスムーズに行うために大阪在住の自然地理学の専門家より調査指導を受けた。
-----	---

那覇市文化財調査報告書 第 89 集

大 嶺 村 跡

－ 那覇空港消防車庫新築工事に伴う緊急発掘調査報告 －

発行 2012（平成24）年 3 月 15日
那覇市教育委員会
〒 900-8553 沖縄県那覇市前島 3-25-1

編集 那覇市教育委員会 文化財課
TEL 098-891-3501
FAX 098-891-3523

印刷 有限会社 文成印刷
〒 902-0073 沖縄県那覇市上間364
TEL 098-834-7143
FAX 098-855-2533
